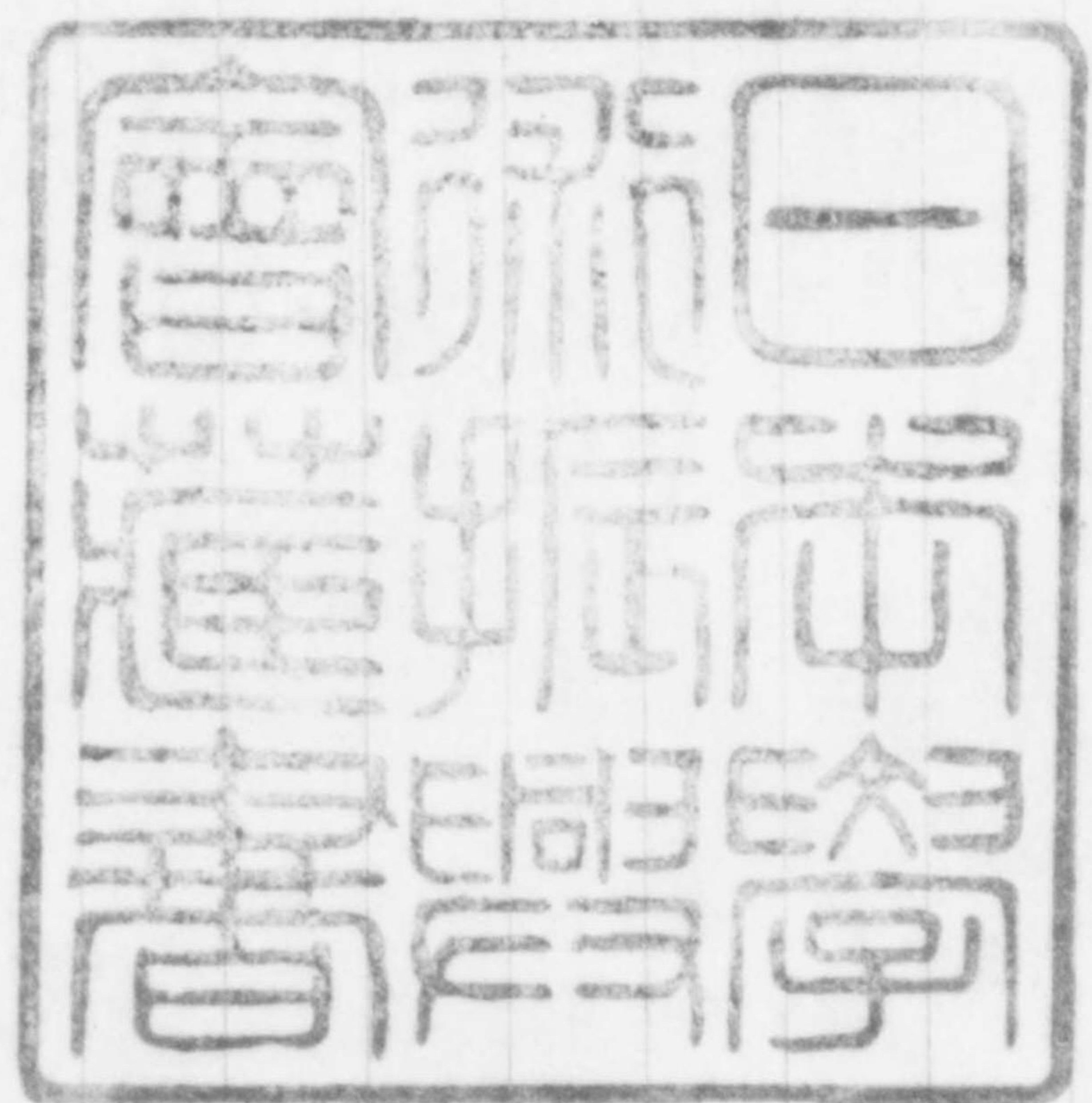


秘



民法草案人事編 (完)

日本學術振興會



序

日本學術振興會第一（法律學、政治學）常置委員會は昭和八年十月其の最初の會合に於て、維新以降我國の立法資料の蒐集に關する小委員會を設置することに決定した、之が即ち第九小委員會である。

右第九小委員會は其の劈頭の事業として、法典調査會に於ける民法法典案の審議の速記録を印刷し、引き續いて刷了したのが左記の通りである。此等の速記録及法案等は原本が一部僅に司法省に存するのみであつて、若し火災等の危険を考へるならば、眞に慄然たらざるを得ないのであるが、今、此の印刷が完了して、適當の場所に夫々それを保管することが出来るやうになつたのは、誠に結構な次第である。

此等の印刷には、昭和十五年一月から昭和十六年五月まで一年五箇月の日子を費した。尙、之に付て司法省の當局が直接間接に多大の援助を與へられたことを、茲に深謝する。

昭和十六年九月

元第九小委員長 加藤正治

XB300  
N2-20  
400

附記

第九小委員會に屬した委員の氏名は左の通りである。

加藤正治	田中耕太郎
池田寅二郎 <small>(以下片假名順)</small>	寺尾元彦
烏賀陽然良	中島玉吉
織田萬	長島毅
大森洪太	永田安吉
金森徳次郎	穂積重遠
川島信太郎	牧野英一
神戶寅次郎	松宮順
栗原正	三浦信三
栗山茂	山川端夫
坂野千	山田三良
清水澄	米澤菊二
末廣重雄	尾佐竹猛
立作太郎	岡田朝太郎

民法編纂ニ關スル諸意見并雜書(一)	一冊	民法草案 第二編	一冊
民法編纂ニ關スル諸意見并雜書(二)	一冊	民法再調査案	一冊
民法編纂ニ關スル諸意見并雜書(三)	一冊	民法整理決議案 第四編親族 第五編相続	一冊
民法編纂ニ關スル裁判所及司法官意見書(上)	一冊	民法整理案 法典調査會	一冊
民法編纂ニ關スル裁判所及司法官意見書(中)	一冊	民法中修正案 親族編 相続編	一冊
民法編纂ニ關スル裁判所及司法官意見書(下)	一冊	民法修正案附則 第一編總則 第二編物權 第三編債權	一冊
民法編纂ニ關スル雜書	一冊	明治二十八年九月ヨリ同三十一年三月迄 民法、商法、修正案、整理案	一冊
民法編纂ニ關スル意見書(一號)	一冊	民法編纂法律取調委員會書類	一冊
民法編纂ニ關スル意見書(二號)	一冊	民法決議案 法典調査會	一冊
民法草案人事編參考法例(三)	一冊	民法第一議案	一冊
民法草案人事編再調査(完)	一冊	民法施行法案 法典調査會	一冊
民法草案人事編(完)	一冊	山田三良氏、修正案 第二條批評	一冊

保險業法議事筆記 法典調査會	一冊	委員修正民事訴訟規則 第四編ノ三	一冊
外國保險會社ニ關スル勅令案議事録	一冊	委員修正民事訴訟規則 第五編	一冊
民事訴訟法草案 其ノ一	一冊	委員修正民事訴訟規則 第六編 第七編	一冊
民事訴訟法草案 其ノ二	一冊	委員修正民事訴訟規則 第八編ノ一	一冊
民事訴訟再調査案	一冊	委員修正民事訴訟規則 第八編ノ二	一冊
修正民事訴訟草案	一冊	委員修正民事訴訟規則 第八編ノ三	一冊
民事訴訟法再調査案	一冊	委員修正民事訴訟規則 第八編ノ四	一冊
委員修正民事訴訟規則 第一編	一冊	現行民事訴訟手續ニ對スルカークロイド氏 意見書	一冊
委員修正民事訴訟規則 第二編	一冊	現行民事訴訟手續及カークロイド氏意見書	一冊
委員修正民事訴訟規則 第三編	一冊	テレベック、ホフマン兩氏纂輯	一冊
委員修正民事訴訟規則 第四編ノ一	一冊	白耳義國訴訟管轄及手續ニ關スル法律	一冊
委員修正民事訴訟規則 第四編ノ二	一冊	モツセ氏訴訟法草案(獨逸文)	一冊
	一冊	舊法律取調委員會ニ關スル書類	一冊

民法草案人事編 完

XB300  
N 2  
20

日本學術振興會

民法草案人專編 九國對比

緒言

一 本書ハ我民法草案人事編及ヒ包括名義ノ財産獲得編ニ對シ佛蘭西、伊太利、荷蘭、暹馬、瑞士國邊留奴邦、亞米利加果斯安州、魯西亞、英吉利ノ八國民法ヲ照比セシモノナリ就中英國民法ハ幾キニ諸氏ノ著述雜記等ヲ蒐集シ佛國民法ニ對比セル異同條辨ニ據ル

一 各國民法ノ組織固ヨリ其國體制度ニ從ヒ互ニ編卷章節款ノ有無ヲ異ニシ又條項ノ分合意義ノ増減アリト雖供要スルニ本書ハ我草案ノ條項ニ對比スルヲ本旨トス故ニ標目ノ此彼ヲ撰ハスシテ意義ノ有無異同ヲ掲載シ其餘意必要ナラサルモノハ之ヲ省略ス爲メニ各國立法大畧ノ異同ニ至テハ判明チ欠クノ憾ナキニアラス

一 本書ハ繁冗ノ歎ナキニ有ラサルモ或ハ原法ノ意義ヲ誤ラン事

ヲ悉レ勉メテ原譯ノ儘ヲ存スルモノ多シ

民人ノ二

### 法例

第一條 法律ハ 天皇裁可ノ後直ニ之ヲ公布ス

公布ハ官報ニ法律ヲ登載シタル日ニ完成シタルモノト見做ス

公布アリタル法律ハ官報ニ登載シタル日ヨリ滿二十日ノ後ニ全國

ニ於テ各個人之ヲ了知シタルモノト看做ス但シ法律ノ明文ヲ以テ

他ノ日限ヲ定メタル時ハ此例ニ在ラス

公布ノ日限過キタル後ハ何人ト雖供法律ヲ遵守セサル可ラス但當

事者其合意若クハ處置ヲ以テ法律ヲ免ルル事ヲ得ヘキ場合若クハ

法律上ノ錯誤ヲ宥恕ス可キ場合ハ此例ニ在ラス

公布ノ法式ハ特別法ヲ以テ之ヲ規定ス

佛第一條 法律ハ國王ヨリ爲シタル宣令ニ據リ佛蘭西領地ノ全部

ニ於テ執行スヘキモノトス

法律及告令ハ巴里ニ於テハ其宣令ヨリ滿一日ノ後他ノ各地ハ官



報ノ郡ノ首地ニ達シタルヨリ滿一日ノ後ニ之ヲ遵守スヘキモノ  
トス政府ハ特別ノ制定ニ依リ告令チ直チニ執行ス可キ旨ヲ命ス  
ルヲ得可シ

若シ宣令ノ時ヨリ滿三日ノ期限内ニ法令ニ違背シタル時ハ裁判  
所並ニ行政及ヒ軍事ノ官憲ニ於テ景況ニ從ヒ其違背者ノ申立テ  
タル不知ノ辨解ヲ容認スル事ヲ得可シ

伊第一條 國王ノ制可ヲ經タル法律ハ其公布スル本日ヨリ十五日ノ  
以後ハ全國一般ニ之ヲ遵守セサル可カラス

公布トハ制可ヲ經タル法律ヲ律令類纂ニ登録セシ事ヲ王國公報  
ニ掲載スルヲ謂フ

尙第一條 如何ナル法律ヲ問ハス適法ノ布告アリタル後ニ非サレ  
ハ遵守ス可ラス

噫第四條 法律ノ公然タル宣令ハ裁判所ニ於テ其法律ヲ公讀シ及

ヒ公讀ニ登録スルニ因リ之ヲ行フ

法律ヲ公讀セシ時ハ隨テ人民之ヲ知得セシモノト看做ス可キ裁  
判上ノ推測ヲ生スルモノトス又本國ノ新聞紙ニ掲載シテ之ヲ行  
フ事アリ此公布ノ法式ハ公然タル者ト看做ス可カラス

邊第一條 吾人ノ宣布セントスル一級ノ法律ハ或ハ之ヲ印刷シ或  
ハ之ヲ説教ニ於テ朗讀シ或ハ常例ノ場所ニ貼付スルニ依テ公ケ  
ト爲ス可シ第二條各法律ニ於テ之ヲ遵守スヘキ日ヲ定ム可シ第  
七條適法ニ宣令シタル法律ハ之ヲ知ラサル旨ヲ裁判所ニ申述ス  
ルモ無効ノ者トス

累第六條 本州ノ主宰ヨリ爲シタル布告ハ州廳所在ノ「ハロワス  
」僧官ノ管轄地ニ於テハ其布告ヲ爲シタル日ヨリ三日ノ後其他  
ノ「ハロワス」ニ於テハ布告ヲ爲シタル地トノ距離ニ從ヒ定期  
ノ三日ニ四「リーウ」ノ路程ニテ一日ヲ乘シタル日ニ之ヲ知ル

ト看做ス可シ」第七條法律ノ布告アル後ハ何人タルヲ問ハス之ヲ知ラサル事ヲ口實ト爲スヲ得ス

魯 我法例ニ通スル成文ナシ

英第一條 慣習法制定法ノ殊例アリ慣習法ハ各縣陪審司ノ確認セシモノナリ制定法ハ議院獨リ普通法ヲ修正シ或ハ已行ノ法律ヲ變更スル爲メノ制設スルモノナリ此議院法ハ國王ノ制可ヲ得タル日ヨリ國內一般ニ施行ス可キモノトス

第二條 法律ハ將來ノミチ規定シ溯及ノ効力ヲ有セス

伊第二條 法律ハ將來ノ爲メノミニ制定シ既往ニ及ホス効力ヲ有セス (一書第四條、英第三條ニ同シ)

伊第二條 法律ハ唯之ヲ將來ノ事件ニ振施ス可クシテ既往ノ事件ニ振施ス可キノ効力ヲ有セス

噫、邊、果 成文ナシ

民人ノ四

第三條 社會ノ公益ヲ主タル目的ト爲ス法律ハ各個人ノ私益ヲ害スルニ拘ラス溯及ノ効力ヲ有ス

皆成文ナシ

第四條 社會ノ公益ニ關スル法律ト雖供各個人其身分又ハ資産ニ付既ニ獲得シタル私權ヲ害スル事ヲ得ス但シ其權利ノ行用又ハ保存ノミチ規定スルハ此例ニ在ラス

皆成文ナシ

第五條 身分ハ其獲得ニ必要ナル條件ノ完備シタルトキ又資産ヲ組成スル權利ハ其由テ生スル行爲ノ完結シタルトキハ其權利ノ未必ニ係ル時ト雖供之ヲ既得權トナス

人ノ能力及ヒ法律ノ直チニ付與スル權詎ハ既得權ト爲サス但シ其能力ニ依リ爲シタル行爲及ヒ其權能ノ行用ニ依リ得タル利益ハ此限ニ在ラス

權利行為ノ法式及ヒ證據ハ其行為ヲ爲シタル當時ノ法律ニ從ヒ其適法ト否トヲ決定スヘキノ點ニ於テハ既得權ト爲ス  
皆成文ナシ

第六條 私益ヲ規定スル事ヲ目的ト<sup>爲</sup>ス法律ハ各個人ノ私權ヲ害セサルトキト雖供養及ノ効力ヲ有セス但シ法律ノ明文ヲ以テ溯及ノ効力ヲ付シタル場合ハ此例ニ在ラス  
皆成文ナシ

第七條 人ノ身分及ヒ能力ハ其本國法ヲ以テ之ヲ支配ス

親族ノ關係及ヒ其關係ヨリ生スル權利義務ニ付テモ亦同シ

佛第三條第三項 人ノ身分及ヒ能力ニ關スル法律ハ外國ニ居住スル者ト雖供佛蘭西人ヲ管理ス (荷第八條英第三條同シ)

伊第六條 人タル者ノ身位及ヒ權理ハ彼ノ親屬ノ聯結ト一般ニ其本國<sup>法律</sup>ノ管知スル所ノ者トス

民人ノ五

噠第二條 外國人ハ噠馬國ニ一時寄留スル時ト雖供噠馬國ノ法律ヲ遵守ス可シ但シ外國人タル其位置ニ依リ特殊ノ規定有ル時ハ格別ナリトス

邊第四條 我民法ハ我權柄ニ關スル人及ヒ物ニ之ヲ適施ス可シ然レ供外國ニ居住スル邊留奴ノ國士及ヒ邊留奴邦内ニ居住スル外國人ハ凡テノ所爲ノ爲メ其身ノ能力ニ付テハ各自其本國ノ法律ニ從フ可キモノトス  
所爲ノ法式ハ彼等ノ所爲ヲ行フタル國ノ法律ニ從テ裁判ス可キモノトス

累第九條 法律ハ州中ニ居住スル者州中ニ財產ヲ所有スル外國人又ハ州中ニ居住スル外國人ノ別ナク悉ク之ヲ遵守ス可シ

第八條 動產ハ其所有者ノ本國法ニ服從ス  
不動產ハ其所在地ノ法律ニ服從ス但シ私益ノミニ關スル法律ハ此

例ニ在ラス

然供相續ハ財産ノ性質ト其所在地トチ問ハス死者ノ本國法ヲ以テ之ヲ規定ス

佛第三條第二項 不動産ハ外國人ノ占有スルモノト雖佛蘭西ノ法律ヲ以テ之ヲ管理ス (一) 荷第七條英第三條同シ

伊第七條 動産物件ハ其所有者ノ本國法律ノ管知スル所ノモノトス然レ供其所有者カ住居スル<sup>占定</sup>國地ニ於テ之ニ反セル條則チ設定セル有ル如キハ此限ニ在ラス

不動産物件ハ其所在ノ地方ニ現行スル法律ノ管知スル所ノ者トス第八條准規承産及ヒ遺囑承産ハ其承産ノ順序若クハ承産權理ノ部分及ヒ行爲ノ實價ニ關シテ其承産法ヲ開始スル本國ノ法律ニ依テ規定セラルヘキ者トス而シテ其財産ノ品質及ヒ所在ハ復々問フ所ニ非サルナリ

民人ノ六

噓、邊、果 成文ナシ

第九條 外國ニ於テ爲シタル合意ニ係ル時ハ結約者ノ明瞭又ハ暗黙ナル意思ニ從ヒ之ニ適用スヘキ法律ヲ定ム可シ

若シ結約者ノ意思分明ナラサル場合ニ於テハ其同國人ナルトキハ本國法ヲ適用シ又其同國人ニ非サル時ハ合意ヲ爲シタル國ノ法律ヲ適用ス可シ

結約者帝國ニ於テ其合意ノ公正證書ヲ作ル時ハ公證人ハ其結約者ニ本條ノ規則ヲ示ス可シ

皆成文ナシ

第十條 外國人帝國ニ於テ合意ヲ爲ストキハ其本國法ニ從ヒ能力者タルヤ又ハ無能力者タルヤヲ申述ス可シ若シ此申述ヲ爲サルトキハ其外國人ト結約スル者善意ナルニ於テハ能力ニ關スル帝國法律ヲ適用ヲ求ムル事ヲ得

外國人公正證書ヲ作ルトキハ公證人ハ其能力ニ關スル本國法ヲ申述セシム可シ若シ之ニ違フ時ハ其責ニ任ス

皆成文ナシ

去

第十一條 生存者間ニ於ケルト死後ニ原由スルトヲ問ハス一方ノ意思ノミニ由ル處置ハ之ヲ爲ス者ノ本國法ニ服従ス但シ反對ノ意思アル時ハ此例ニ在ラス

伊第九條 彼此生存ノ行爲及ヒ臨終ノ行爲ノ法式ハ其行爲ヲ爲ス

地方ノ法律ニ准據ス可キ者トス其行爲ヲ爲ス人及ヒ契約主ハ其

法律

本國ノ規定セル法式ヲ施用スルノ自由ヲ有ス然レ供各契約主ノ

本國ノ法律ハ全ク同一ノ者タラサル可カラス

贈與及ヒ臨終行爲ノ實價及ヒ其効力ハ贈與者及ヒ遺囑者ノ本國

ノ法律ニ依テ之ヲ判定ス可キ者トシ責務ノ實價及ヒ其効力ハ其

行爲ヲ爲ス地方ノ法律ニ依テ判定セララル可キ者トス若シ二個ノ

民人ノ七

同國人カ外國ニ在テ契約ヲ締結スルニ當テハ必ス其本國ノ法律ニ准據ス可キ者トス但シ契約主ニ他ノ意思アルトキハ此限ニ在ラス

仏、荷、暹、邊、果、魯、英、成文ナシ

第十二條 不當ノ利得ハ當事者同國人ナルトキハ其本國法ヲ以テ之ヲ支配シ又其同國人ニ非サルトキハ其原由ノ生シタル國ノ法律ヲ以テ之ヲ支配ス

法律上ノ管理ヨリ生スル義務ハ管理人ヲ付セラレタル者ノ本國法ヲ以テ之ヲ支配ス

不正ノ損害ハ有意ナルト無意ナルトヲ問ハス其事實ノ生シタル國ノ法律ヲ以テ之ヲ支配ス

皆成文ナシ

第十三條 本國法ヲ適用ス可キ諸般ノ場合ニ於テ何レノ國民分限

チモ有セサル者ハ住所又其住所知レサルトキハ其居所ノ法律ニ服從ス又日本人ト外國人トノ分限チ有スル者ハ帝國ノ法律ニ服從ス  
皆成文ナシ

第十四條 公正證書及ヒ私證書ノ法式ハ之チ作ルニ法律ニ從フ  
此法式ハ當事者ノ國民分限ノ如何チ問ハス之チ遵守セサル可ラス  
但シ一個人又ハ同國人ナル數人ノ作ル私證書ニ係ルトキハ其本國  
法ニ從シモ自由ナリトス

伊第九條 我第十一條ニ掲載ス

荷第十條 諸證書ノ書式ハ之チ記シ又ハ差出シタル各國各所ノ  
法律ニ照ラシテ之チ規定ス

果第十條 公正ノ證書及ヒ私ノ證書ニ管スル法式ト其効トハ其  
證書チ記シ又ハ差出ス所ノ國ノ法律ト慣例トニ因リテ規定ス  
可シ第三項若シ合衆國中他洲ノ國士又ハ外國ノ國士他洲ニ於

民人ノ八

テ本州中ニ在ル動產チ遺囑シ而シテ其遺囑チ爲ス時又ハ死去  
スル時其家族ト共ニ本州ノ管轄地外ニ住居セシトキハ前項ニ  
設ケタル例外チ適用ス可カラス

仏、噠、邊、魯、英 成文ナシ

第十五條 有式ノ契約若クハ行爲ト雖供之チ爲ス國ノ法式ニ從フ時  
ハ法式上有効トス但シ故意チ以テ帝國ノ法律チ脱シタルトキハ此  
例ニ在ラス

皆成文ナシ

第十六條 外國ニ於テ作りタル證書ハ不動產物上權チ移轉スル行爲  
ニ係ルトキハ其不動產所在地ノ地方裁判所長又其他ノ行爲ニ係ル  
時ハ當事者ノ住所又ハ居所ノ地方裁判所長其證書ニ認印シタル上  
ニ非サレハ帝國ニ於テ効力チ生スル事チ得ス  
所長ハ其證書ノ法式ハ之チ作りタル國ノ法律ニ適フヤ否ヤチ検査

ス可シ

所長ノ決定ニ對スル抗告ハ控訴院長ニ之ヲ爲ス可シ  
皆成文ナシ

第十七條 人ノ身分及ヒ能力ニ關スル法式ハ其人ノ本國法ヲ以テ之  
ヲ支配ス

皆成文ナシ

第十八條 第三者ノ利益ノ爲メニ設定スル公示ノ法式ハ不動産ニ係  
ルトキハ其所在地又其他ノ場合ニ於テハ其理由ノ生シタル國ノ法  
律ヲ以テ之ヲ支配ス

皆成文ナシ

第十九條 訴訟手續ハ其訴訟ヲ爲ス國ノ法律ニ從フ

證據ノ方法ハ身分<sup>物</sup>上權又ハ對人種ニ係ルヲ問ハス其行爲ノ生シタ  
ル國ノ法律ニ從フ

民人ノ九

裁判及契約ノ執行方法ハ其執行ヲ爲ス國ノ法律ニ從フ

伊第十條 訴訟ノ管轄及ヒ法式ハ其裁判ヲ宣告スル地方ノ法律

ニ依テ管知セラル可キモノトス

實務ノ照憑ハ其契約ヲ締結セシ地方ノ法律ニ依テ規定セラル  
可キモノトス

外國ノ法術ニ於テ宣告セシ民事ノ裁判ハ我カ訴訟法ニ規定セ  
セル法式ニ准據シテ執行ス可シト公言セルニ於テハ則チ我カ  
國內ニ於テ之レヲ執行スル事ヲ得可シ但此國ト彼國ト特別ノ  
條約アル如キハ此限ニ在ラス

契約及ヒ裁判ヲ執行スル方法ハ其訴訟ヲ構起セシ地方ノ法律  
ニ准據ス

邊第五條 我法律ノ允許スル場合ニ於テ外國ノ法律ヲ引證セン  
ト欲スルモノハ其正文ヲ指示シ及ヒ充分ニ其法律ヲ現ニ行ハ

ル、事ヲ證明ス可シ

累第十條第二項 蓋シ外國ニ於テ執行ス可キ爲ノ記シタル證書ノ効ハ其執行ス可キ國ノ法律ニ因リテ規定ス可シ

佛、荷、噠、英、魯 成文ナシ

第二十條 前款ノ條例ニ拘ラス社會ノ權利ニ關スルトキハ行爲ノ地當事者ノ國民分限及財産ノ性質如何ナルヲ問ハス帝國ノ法律ヲ此規則ハ就中左ノ法律ニ適用ス

一 公法及刑法ニ係ル法律

二 保安ニ係ル法律

三 善良ノ風俗ニ係ル法律

四 時効ニ關スル法律但シ獲得時効ハ財産所在ノ國ノ法律ニ從ヒ免責時効ハ義務ヲ生シタル國ノ法律ニ從フ

佛第三條第一項 警察及ヒ安寧ノ法律ハ凡ソ領地内ニ住スル各

人ヲ勸勒ス

全第六條 私シノ合意ヲ以テ公ケノ秩序及ヒ善良ノ風儀ニ關スル法律ニ違背スル事ヲ得ス

荷第六條第十四條英第三條第五條同シ

噠第五條、累第十一條モ佛第六條ニ同シ

累第十二條 或ル事ヲ禁止ス可キ法律ハ縱令其法律中ニ適法ノ罰則ヲ記セサルトキト雖供或ル事ヲ無効ト爲ス可キ力アリ

伊第十一條 刑法警察法及ヒ公同安寧ニ關スル法律ハ王國域内ニ在ル一切ノ人ニ向テ振施ス可キ者トス

全第十二條 前數條ノ條文アリト雖供外國ノ法律及ヒ外國ニ於テ爲セシ行爲及ヒ外國ニ於テ宣告セシ裁判ハ私際ノ行爲及ヒ契約ト共ニ人件財産及ヒ契約ニ關スル我王國ノ禁法及ヒ公同ノ安寧及ヒ風化ニ關スル法律ニ悖戾スル事ヲ許サス



第二十一條 判事ハ法律ノ不明不備又ハ欠缺ヲ口實トシテ裁判ヲ拒絶スル事ヲ得ス（若シ此規則ニ違フ時ハ裁判拒絶ノ刑ニ處ス）

佛第四條 法律ノ欠缺不明又ハ不備ヲ以テ口實トシ裁判スルヲ否拒スル所ノ裁判官ハ裁判否拒ノ罪アリトシテ訴ヲ受ク可シ

荷第十三條 同シ

伊、噠、邊、累、英、魯 成文ナシ

第二十二條 法律ノ不備若クハ欠缺アル時ハ判事ハ其裁判スヘキ事件ト同様ノ場合又ハ類似ノ事項ニ關スル法律ノ條例ヲ適用ス可シ

伊第三條末項 若シ一個ノ事件ノ法律ノ明文ニ依テ裁判ス可カラサル者有ルニ於テハ則チ同一ノ時會若クハ類似ノ事件ニ向テ擬施ス可キ條文ニ准據シテ之ヲ裁決ス又若シ其事件ノ尙ホ疑義ニ涉レルモノ有ルニ於テハ則チ法學上ノ普通ノ原則ニ依

テ之ヲ裁決ス

累第二十一條 裁判官ノ民事ノ訴訟ヲ判決スルニ詳明ノ法律ナキ時ハ公義ニ循ヒ之ヲ裁判ス可ク而シテ公義ニ循テ裁判スルニハ自然法道理又ハ最初法律ナキ時ノ慣例ニ依遵ス可シ

英第四條 雜事アリテ之ニ適用シ得キ制定法ナキニ於テハ常ニ普通法ノ類似スル者ヲ以テ之ヲ解説スルニ足レリトス

佛、荷、噠、邊、魯 成文ナシ

第二十三條 刑罰法及ヒ制限法ハ其特ニ明示シタル場合ノ外ニ及ホス可カラス

伊第四條 刑事ニ關スル法律及ヒ權理ノ自由ナル行用ヲ制限スル法律若クハ普通ノ原則及ヒ其他ノ法律ニ背反スル所ノ法律ハ特別ニ規定セル時會ト期間トノ外ニ向テ之ヲ推及スル事ヲ得可カラス

佛、荷、噠、邊、果、英、魯 成文ナシ

第二十四條 判事ハ法律ノ特ニ慣習ニ譲リタル場合ニ非サレハ慣習ニ據リ裁判スル事ヲ得ス

荷第三條 慣例ハ法律上ニ記シタル場合ニ於テノミ其權利ヲ生ス可シ

果第三條 慣例トハ不斷行爲ヲ重複シ且ツ繼續シテ之ヲ遵守スルニ因リ默許メノ承諾又ハ普通ノ承諾ヲ爲ス可キ効力ヲ得タル行爲ノ永續スルモノヲ云フ

佛、伊、噠、邊、英、魯 成文ナシ

第二十五條 判事ハ法律ヲ非理不正ナリト思料スルニ拘ハラヌ又法律カ各個人ノ私權ヲ害スルトキト雖供之ヲ適用セサル可ラス

荷第十一條 裁判官ハ必ス法律ニ照シテ裁判ヲ言渡ス可シ如何ナル場合ヲ論セス法律ノ功績又ハ公義ニ管シテ是非スル事ヲ

得ス

佛、伊、噠、邊、果、英、魯 成文ナシ

第二十六條判事ハ其請求ヲ受ケタル事件ニ付一般成規トナスノ方法ニ依リ宣告スル事ヲ得ヌ又將來ニ係ル裁判ヲ爲ス事ヲ得ヌ但將來ニ係ル義務執行ノ爲メ損害賠償ヲ宣告スル事ヲ得

佛第五條 裁判官其申告ヲ受ケタル訴訟ニ付キ廣博ニシテ且ツ規則トナル可キ判定ノ方法ヲ以テ宣告スル事ヲ禁ス  
荷第十二條、英第五條ニ同シ

伊、噠、邊、果、魯 成文ナシ

第二十七條 法律ハ其明瞭又ハ暗黙ニ廢セラレサル間ハ之ヲ適用ス可シ其適用ノ斷絶ハ法律ノ効力ヲ廢滅セス

伊第五條 法律ノ廢止ハ他ノ一個ノ法律ヲ以テ立法官カ特別ニ公言スルニ因リ或ハ新定條則ト旧制條則トヲ比較スルヨ

リシテ抵觸ヲ生スルニ因リ或ハ新定法律ニ於テ旧制條則ニ規定セル事件ヲ全然ニ改定スル有ルニ因テ以テ成ル者トス  
荷第五條 法律ハ其後ノ法律ノ如何ンニ因ルニ非サレハ其全部又ハ其一部ヲ廢棄スルヲ得ス

邊第二條末項 各法律ハ吾人ノ之ヲ廢止シ及ヒ之ヲ更改スルニ至ル迄ハ行ハルル者トス

累第二十二條 法律ハ更ニ他ノ法律ニ因テ其全部又ハ一部ヲ廢止スル事ヲ得可シ

全第二十三條 法律ハ左ニ記スルカ如ク明許又ハ默許ヲ以テ廢止ス

若シ書面ニ認メタル新タナル法律ニ因リテ廢止スル時ハ明許ノモノトス

若シ新ナル法律中ニ従前ノ法律ニ倅戻スル趣意ヲ包含シ又

ハ其従前ノ法律ト調和セサルトキハ默許ノモノトス

甲ノ法律ヲ廢止シタル乙ノ法律ヲ更ニ廢止スルモ甲ノ法律ヲ再興ス可キモノニ非ス

佛、噠、魯 成文ナシ

第二十八條 法律明カナルトキハ其精神ヲ推究スル事ヲ口實トシテ其正文ヲ沒スル事ヲ得ス

累第十三條 法律ノ意味明瞭ニシテ二様ニ解ス可キ事ナキトキハ其法律ノ精神ヲ討索スルヲ口實ト爲シ決シテ其文意ヲ避ケントスル事ヲ得ス

佛、伊、荷、<sup>噠</sup>邊、魯、英 成文ナシ

第二十九條 法律ハ解釋上其規定シタル目的ニ限ル可ク其關係ナキ他ノ目的ニ及ホス可カラス

累第十四條 法律ノ會詞ハ總テ尋常一般ノ字義ニ解シ而シテ法

文書ノ規則上其微妙ニ拘泥スル事ナク人ノ最モ熟知シテ且ツ  
慣用スル所ノ意味ニ採ルチ必要トス

累第十五條 藝術又ハ工作上ノ言詞文意及ヒ文章ハ其藝術工作  
又ハ職業チ主トスル者ノ附シタル意味ト字義トニ循ヒ以テ之  
ヲ解釋ス可シ

累第十六條 若シ法律ノ文意ニ疑ハシキ所アレハ之ヲ正確ナル  
意味ニ確定スル爲メニ様ニ解ス可キ意味アル言詞或ハ文章ト  
法律中他ノ諸部トチ檢視参照シテ其意味ヲ探究スル事ヲ得可  
シ

全第十七條 同一ノ條件ニ付キ二個ノ法律アルトキハ彼此管涉  
スル所アルニ原キ之ヲ解釋シ甲ノ法律明亮ナルトキハ疑ハシ  
乙ノ法律ヲ解釋スル基本ト爲ス可シ

全第十八條 若シ法律ノ文意ニ疑ハシキ所アルトキ其正確ナル

意味ヲ辨明スルニ最モ普通ニシテ且ツ實効アル方法ハ其法  
律ノ道理ト精神トチ熟考シ又ハ嘗テ立法院ニ於テ其法律チ  
裁定スルニ至リシ所以チ熟考スルニアリ

伊第三條初項 法律チ擬施スルニ當テハ其用語ノ正義及ヒ文  
辭ノ關係ト立法官ノ意思ヨリ明瞭ニ生スル所ノ意義トチ除  
クノ外ハ復タ他ノ意義ヲ其法律ニ與フル事ヲ得ス

佛、荷、暹、邊、英、魯、成文ナシ

第三十條 法律ニ例外ノ存セサルトキハ之ヲ補足スル事ヲ得ス但シ  
法律ニ存セサル例外ト雖供他ノ規則ノ適用タルトキハ此限ニ在ラ  
ス 皆成文ナシ

第三十一條 法律ノ區別セサル處ニ區別チ爲ス可カラス但法律ノ理  
由ヨリ生スル必要ノ區別ハ此限ニ在ラス

累第二十條 法律ノ趣意ヲ制限シ又ハ減盡スルチ目的ト爲シ

其法律ノ善惡ヲ區別スルハ之ヲ解釋ス可キノ任アル者ニ非  
サレハ能ハサルモノトス

佛、荷、暹、邊、伊、魯、英 成文ナシ

第三十二條 公ケノ秩序又ハ善良ノ風俗ニ關スル法律ニ牴觸シ又ハ  
其適用ヲ免レントスル合意若クハ處置ハ不成立トス

我第二十條參照

第三十三條 身分又ハ能力ヲ規定スル法律ヲ免ル、合意又ハ處置ハ  
無効トス

皆成文ナシ

第三十四條 權利行爲ハ其成立ニ必要ナル條件ノ一ヲ缺キタルトキ  
ハ不成立トス

皆成文ナシ

第三十五條 權利行爲ノ無効ハ法律ノ正條ニ據ル事ヲ要シ之ヲ補足

スル事ヲ得ス

皆成文ナシ

### 第一編 人事

#### 第一章 私權ノ享有及ヒ行用

第一條 何人ト雖供活テ出生シタルトキハ私權ヲ享有ス（佛第八條

第七百二十五條以下第一條第七百二十四條）

佛第八條 各佛蘭西人ハ民權ヲ享有ス可シ

英第六條 同シ

英第七條 英國王ノ保護及ヒ管轄ヲ受クル外國人ノ英國ニ在テ  
舉ケタル子ハ皆之ヲ本來ノ英國人ト看做シ而シテ之ニ附從セ  
ル諸般ノ特權ヲ享受スルヲ得可シ

荷第二條 賣奴其他奴隸ノ取扱ハ其種質又ハ名義ノ如何ヲ問ハ  
ス王國內ニ於テハ都テ之ヲ廢止シ而シテ國內ニ在ル人民ハ總

テ民權ヲ有スル事自由ニシテ又之ヲ有スルノ權アリ

邊第九條 人ハ生活シ及ヒ生長ス可キ景情ニテ生レシ時ヨリ其

死亡ニ至ルマテ一人ナリトス

噠、伊、果、魯、成文ナシ

第二條 胎内ニ在ル子ト雖供其利益ヲ保護スルニ付テハ既ニ出生シタル者ト看做ス (一同上關第三條)

荷第三條 懷胎中ノ子ハ其子ノ有用ナル時ニ於テハ之ヲ産レタル者ト看做ス可シ

死シテ産レタル子ハ嘗テ生存セシ事無キ者ト看做ス可シ

邊第十條 然レ供未タ生レサル者モ亦在胎ノ時ヨリ其人權ヲ有

ス可シ但シ彼等ノ生活シ及ヒ生長ス可キ景情ニテ生ル、時ニ

限ル者トス

累第二十九條 母ノ懷胎中ノ子ニ管スル事アル時ハ其子ヲ既ニ

生レタル者ト看做ス可シ例ヘハ其子ノ生ルル前ニ財産相續ヲ行フ時其屬ス可キ財産アルトキハ其子ノ受ク可キ部分ヲ保存シ而シテ之ヲ支配ス可キ管財人ヲ任ス可シ

佛、伊、噠、魯、英 成文ナシ

第三條 何人ト雖供法律ニ定ムル無能力ノ場合ニ在ラサル限りハ躬ラ其私權ヲ行用スル事ヲ得

伊第一條 國民タル者ハ刑法上ノ罰責ヲ受ケテ國民タルノ權理ヲ剝奪セララル、ニ非サレハ則チ總テ民法上ノ權利ヲ保有ス

累第三十一條 無感覺者トハ其感覺ヲ有ス可キ年齢ニ達セシ後

天然又或災難ニ因リ道理ヲ辨明セサルモノヲ謂フ

無感覺者ハ契約ノ種類如何ヲ問ハス之ヲ結ブノ權利ナク又ハ

其者ノ感覺ナキニ因リ管財人ニ托シタル自己ノ財産ヲ管理スルノ權ナシ

佛、荷、暹、邊、魯、英 成文ナシ

第四條 私權ノ行用ニ關スル成年即チ適法ノ年齢ハ滿二十年ト定ム但シ法律ニ特別ノ規則アルトキハ此限ニ在ラス (佛第四百八十八條)

佛第三百八十八條 幼者トハ未タ滿二十一歳ノ齡ニ至ラサル男女ヲ云フ

伊第二百四十條 其年齢滿二十一歳ニ達セサル人ヲ以テ未丁年者ト做ス

荷第三百八十五條初項 年齢ノ未タ滿二十三歳ニ達セサル者及ヒ此年齢ニ達スル以前ニ婚姻セサル者ハ幼者トス

暹第二百二十條 總テ男ハ滿十八歳ノ齡ニ至ラサル間ハ幼年ナリトナシ女ハ其齡ヲ問ハス其婚姻ヲ爲スニ至ル迄ハ幼年ニシテ且ツ後見ヲ免ル、事ヲ得ストス

累第四十一條上段 未丁年者トハ二十一歳ニ達セサル者ヲ謂フ

魯第二百十三條 未成年ニハ三個ノ年齢ヲ確定ス即チ第一、出處ヨリ十四歳ニ至ル第二、十四歳ヨリ十七歳ニ至ル第三、十七歳ヨリ二十歳ニ至ル

英第二百七十二條 丁年ハ男女ヲ問ハス二十一歳トス丁年ハ出產ノ周年ニ當ル日子ノ滿チタル後之ヲ得了ス

邊 成文ナシ

第五條 外國人ハ法律ニ明瞭ノ禁止アルモノヲ除クノ外私權ヲ享有ス (伊第三條佛第十一條)

佛第十一條 外國人ハ其所屬本國ノ條約ニ依リ佛蘭西人ニ付與シ又ハ附與ス可キモノニ同シキ民權ヲ佛蘭西ニ於テ享有ス可シ

同第十三條 國王ノ許可ニ依リ佛蘭西ニ其住所ヲ設定スル事ヲ

許サレタル外國人ハ其佛蘭西ニ居住スル事ヲ繼續スル間ハ佛蘭西ニ於テ總テノ民權ヲ享有ス可シ

伊第三條 外國人モ亦王國人民ニ屬スル民法上ノ權理ヲ得有スル事ヲ得可シ

荷第八條 左ニ列記シタル二個ノ場合ニ於テハ外國人タリ供荷爾人ト見做ス可シ

第一 王ノ允許ヲ受ケ王國內ニ住所ヲ設ケテ邑廳ニ其允許ヲ證明セシ者

第二 王國ノ邑内ニ住所ヲ設ケテ其邑内ニ六年間住居シ其住所ノ邑廳ニ王國內ニ住所ヲ定ム可キノ意ヲ申述セシ者

英第十一條初項 普通法ニ據ルニ凡ソ平時ニ當テハ外國人英國王ノ允許ナクシテ英國ニ來住スルヲ得テ別個ノ允許ヲ受クルニ及ハサル諸般ノ民權ヲ享クル事ヲ得可シ

民人ノ一八

噠第九條 法教ノ禁ヲ解キ各人自由ニ己レノ宗教ヲ奉シ己レノ法教ノ爲メニ政府ノ保護ヲ受クルヲ得セシムルヲ以テ外國人ハ其奉教ニ關シテ更ニ限制無ク噠馬國ニ住所ヲ定ムルヲ得可シ但シ政府即チ警察官ハ自ラ其生計ヲ營ム能ハサル外國人ヲ噠馬國ヨリ放逐スルノ權ヲ有ス

邊、累、魯、成文ナシ

第六條 無形人ハ公私ヲ問ハス法律ノ之ヲ認許スルニ非サレハ成立スル事ヲ得ス又法律ノ之ニ付與スル者ヲ除クノ外私權ヲ享有スル事ヲ得ス其設立ノ條件及ヒ其權利ハ此法律及ヒ特別法ニ之ヲ規定ス

伊第二條 邑州廳ヒ僧俗院會等凡テ法律上ノ認可ヲ得タル者ハ即チ一個人ト看做サレ行政上ノ法律及ヒ慣例ニ從テ民法上ノ權理ヲ保有ス



邊第二十七條 目的ノ有益ニシテ吾人ノ保護スル所ノ邑及ヒ會社ハ政府ノ監督ヲ受クル無形人ニシテ權ヲ得及ヒ義務ヲ負フ事ヲ得可シ

全第二十八條 政府ノ法律ニ服從スル人ヲ指シテ臣ト云ヒ邦境内ニ於テ國士ト認メラレタル者ヲ指シテ國士ト云ヒ民事會社ノ一ニモ屬セサル者ヲ指シテ外國人ト云フ

佛、荷、暹、果、魯、英 成文ナシ

第七條 法律ハ外國國家ヲ除クノ外外國無形人ノ成立ヲ認許セス但シ條約又ハ特許アルトキハ此限ニ在ラス

其成立ヲ認許シタル外國無形人ハ帝國ニ成立スル同種ノ者ト同一ノ權利ヲ享有ス

皆成文ナシ

## 第二章 國民分限

### 第一節 國民分限ノ獲得

第八條 日本人ノ子ハ外國ニ生ルト雖供日本人トス

父母其分限ヲ異ニスルトキハ父ノ分限ヲ以テ其子ノ分限ヲ定ム

父ノ知レサルトキハ子ハ其母ノ分限ヲ承續ス

父母共ニ知レサルトキハ帝國ニ生レタル子ハ日本人トス

佛第十條初項 凡ソ外國ニ於テ生レタル佛蘭西人ノ子ハ佛蘭西人ナリ

伊第四條 國民タル父ノ子ハ均シク國民ト爲ス

全第七條第一項 國民タル婦女ノ子ニシテ其父ヲ知ル可ラサル者ハ國民ト爲ス

第三項 其母ヲ知ル可カラサル子ト雖供王國內ニ生産スル者ハ國民ト爲ス

荷第五條 荷蘭國人民タル者ハ左ニ列記ス

第一 兩親ノ王國內又ハ屬國內ニ住居シテ産ミタル子

第二 兩親ハ荷蘭人ニシテ其外國ニ於テ産ミタル子

第三 兩親ハ素ト外國人ナルモ王國內又ハ其屬國內ニ住所ヲ  
チ定ノ一時ノ不在又ハ公務ノ爲メ不在中外國ニ於テ産ミタ  
ル子

英第八條初項 英國人タル父又ハ祖父ノ外國ニ於テ舉ケタル子  
孫ハ皆之ヲ本來ノ英國人ト看做<sup>ス可</sup>但シ此父或ハ祖父返逆又ハ  
追放ノ刑ノ言渡ヲ受ケタル時或ハ敵國ニ奉仕セシ時ハ此限ニ  
在ラス

噫、邊、累、魯、成文ナシ

第九條 左ノ場合其一ニ在ル子ハ日本人ノ分限ヲ撰擇スル事ヲ得  
一 父外國人タリト雖供母日本人タルトキ  
二 外國人ノ子タリト雖供帝國ニ生レタル時

三 日本人ノ分限ヲ失ヒタル者ノ子ナル時

伊第六條 父タル者カ其子ノ生産以前ニ國民タル權理ヲ喪失ス  
ルニ於テハ則チ其子ノ外國ニ在テ生産シタル者ハ外國人ト看  
做サル可シ

然レ供前條ニ掲載スル所ノ公言ヲ爲シタル以後ノ一年內ニ其  
住居ヲ王國內ニ占定スレハ則チ國民ト爲ル事ヲ得可シ  
王國ニ於テ公務ニ從事シ若クハ海陸軍ニ服役シ或ハ外國人タ  
ル身位ヲ申明セスシテ以テ募兵ニ應シタル外國人ハ國民ト看  
做サル可シ

英第八條末段 凡ソ婦ハ其夫ト同一ナル法律ヲ遵奉スル者ト看  
做シ英國ノ女ノ外國ニ於テ舉ケタル子ハ之ヲ英國人ト看做サ  
ルモ此子若シ英國ニ於テ生レタル時之ヲ英國人ト看做ス可  
シトス然レ供近時ノ制定法ニ依レハ英國ノ婦ノ外國ニ於テ舉

ケタル子ハ假令ヒ外國人ニ嫁シタル者ノ子ト雖供遺物相續ニ由リ得タル所ノ動産又ハ不動産ヲ訟求スルヲ得可シ  
佛、荷、暹、邊、果、魯、成文ナシ

第十條 日本人ノ分限ヲ撰擇セント欲スル子ハ本國法律ニ從ヒ其成年ニ至リシ時ヨリ一年內ニ其意思ヲ申述シ且ツ其陳述ヨリ一年內ニ其住所ヲ帝國ニ定ム可シ

成年ノ後ニ至リ外國人ノ認知シタル庶出子ハ其認知ヨリ一年內ニ其意思ヲ申述ヲ爲ス事ヲ得

佛第九條 凡ソ佛蘭西ニ於テ生レタル外國人ノ子ハ其成年ノ時期ニ至リシ時ヨリ一年內ニ佛蘭西人タルノ分限ヲ得ント求ムル事ヲ得可シ但シ此レカ爲メニハ其者ノ佛蘭西ニ居住スル場合ニ於テハ佛蘭西ニ其住所ヲ定ム可キノ意思タル事ヲ申述シ又其者ノ外國ニ居住スル場合ニ於テハ佛蘭西ニ其住所ヲ定ム

民人ノ二二

可キノ約務ヲ爲シテ其約務ノ證書ヨリ起算シテ一年內ニ佛蘭西ニ其住所ヲ設定スル事ヲ必要トス

全第十條第二項 凡ソ佛蘭西人タルノ分限ヲ失ヒシ佛蘭西人ノ外國ニ於テ生ミタル子ハ何時ニ限ラス第九條ニ定メタル法式ヲ履行スルニ於テハ右ノ分限ヲ復スル事ヲ得可シ

伊第五條 假令ヒ父タル者カ其子ノ生産以前ニ國民タル權理ヲ喪失スル事有ルモ其子カ王國內ニ生産シ而シテ王國內ニ住所ヲ占定スルニ於テハ則チ亦國民ト看做ス

然レ供其子タル者ハ我民法ニ規定セル丁年ニ達スル以後ノ一年內ニ其在住スル地方ノ掌籍吏ノ面前ニ公言シテ以テ外國人タル身位ヲ擇定スル事ヲ得可シ若シ其子カ外國ニ在住スルニ於テハ則チ其本國ノ公使若クハ領事官ニ向テ之ヲ公言ス

同第七條二項 若シ母タル者カ其子ノ生産スル以前ニ國民タル

權利ヲ喪失セルニ於テハ則チ其子ニ向テ前二條ノ條文ヲ擬施ス

荷第五條三項 王國內ニ住所ヲ定メサル兩親其王國內ニ於テ産ミタル者己レノ住所ヲ其王國內ニ定ムル時

英第八條第二項上段 祖父ヨリ遠キ親等ニ於テ英國人タリシ祖先ヲ有スル者ハ國屬人タル分限ヲ保續セサルト爲ス可シ又英國人タリシ者ノ孫ト雖供英國人タルノ分限ヲ得可キ權利ノ開始セシヨリ五ケ年内英國ニ復歸シ英國王ニ忠誠ノ誓約ヲ爲シ及ヒ制定法ニ從ヒ此他ノ定則ヲ循行スルニ非サレハ此分限ヲ享クル事ヲ得ス

暹、邊、果、魯 成文ナシ

第十一條 日本人ト婚姻スル外國ノ女ハ當然日本人ノ分限ヲ獲得シ婚姻解除ノ後ト雖供其分限ヲ保有ス

民人ノ二二

佛第十二條 佛蘭西人ニ嫁シタル外國ノ女ハ且夫ノ景狀ニ從

フ可シ 伊第九條、荷第六條、英第十條 同シ

暹、邊、果、魯 成文ナシ

第十二條 日本人ノ養子ト爲ル外國人ハ當然日本人ノ分限ヲ獲得ス 皆成文ナシ

第十三條 外國人ハ歸化ニ依リ日本人ノ分限ヲ獲得スル事ヲ得其條件及法式ハ特別法ヲ以テ之レヲ規定ス

歸化人ノ妻子ハ外國人ノ分限ヲ保有スト雖供其成年ナル時ハ歸化ノ日ヨリ又其未成年ナル時ハ成年ヨリ一年內ニ第十條ニ從ヒ日本人ノ分限ヲ選擇スル事ヲ得

伊第十條 外國人ハ法律若クハ國王ノ命令ニ因テ認可スル入籍方法ヲ執行シテ以テ國民タルノ權利ヲ得有ス

國王ノ命令ハ外國人カ其住所ヲ占定セント欲シ若クハ既ニ之ヲ占定セシ地方ノ掌籍吏ノ簿録ヲ經由シ且ツ其外國人カ掌籍吏ニ向テ

國王ニ忠節ヲ竭シ王國ノ憲法及ヒ法律ヲ遵奉ス可キ誓言ヲ爲スノ  
法式ヲ踐行シテ始メテ其効力ヲ生スル者トス、國王ノ命令ハ其記  
日ヨリ以後ノ六月内ニ於テ之カ簿録ヲ爲サ、レハ則チ無効ニ歸ス  
國民タル權理ヲ得有セシ外國人ノ妻及ヒ其未丁年ノ子ハ其住  
居ヲ王國內ニ占定スルニ因テ始テ國民ト爲ル者トス然レ供其  
子ハ第五條ニ掲記スル法式ヲ履行シテ以テ外國人タル身位ヲ  
擇定スル事ヲ得可シ

荷第五條第五 荷蘭國ニ歸化シ又ハ土人タルノ權利ヲ得ル者

第八條第一 王ノ允許ヲ受ケ王國內ニ住所ヲ設ケテ邑廳ニ其  
允許ヲ證明セシ者

噠第八條 外國人ハ法律ニ依循スルニ非サレハ歸化スルヲ得ス又歸  
化セシ後ニ非サルハ撰舉權並ニ非撰舉權ヲ享有スヘカラス

英第十一條第二項 凡ソ外國人ハ歸化マタハ「デニザシヨシ」ヲ

民人ノ二三

受クルニ由リ本來ノ英國人タルノ分限ト頗ル比視セラル、チ  
得可シ

佛、邊、果、魯、成文ナシ

第十四條 歸國ノ意ナク帝國ニ其家ヲ定メタル外國人ハ十年ノ後當  
然日本人ノ分限ヲ獲得ス其妻子ハ前條第二項ニ從ヒ日本人ノ分限  
ヲ撰擇スル事ヲ得

伊第八條 十年以來間斷ナク其住居ヲ王國內ニ占定セル外國人  
ノ子ニシテ王國內ニ生産シタル者ハ國民ト看做ス但シ商業ノ  
爲メ開設スル居所ハ以テ住居ヲ占定セル者ト看做サス  
然レ供第五條ニ掲載セル期間ニ於テ同條ニ規定セル方法ニ從  
ヒ公言シテ以テ外國人タル身位ヲ擇定スル事ヲ得可シ  
若シ外國人カ十年以來其住居ヲ王國內ニ占定セルニ非サレハ  
則チ其子ハ外國人ト看做ス、然レ供第六條ノ第二項及ヒ第三

項ノ條文ハ其子ニ向テ之ヲ擬施ス可キ者トス

荷第八條第二 王國ノ邑内ニ住所ヲ設ケテ其邑内ニ六年間住居シ其住所ノ邑處ニ王國內ニ住所ヲ定ム可キノ意ヲ申述セシ者佛、噠、邊、果、魯、英 成文ナシ

第二節 國民分限ノ喪失及ヒ回復

第十五條 日本人ハ左ノ場合ニ於テ其分限ヲ失フ但シ刑法第二百二十九條ノ適用ヲ妨ケス

一 歸國ノ意ナク外國其家ヲ定メタル時

十年以上外國ニ其家ヲ定メタル日本人ハ歸國ノ意ナシト推測ス但シ反對ノ舉證ヲ妨ケス

二 隨意ニ外國人ノ分限ヲ獲得シタル時

三 帝國政府ノ允許ナクシテ外國政府ノ官職ヲ受ケ又ハ外國ノ軍

歐ニ入リタル時

日本人ノ分限ヲ失ヒタル者ノ妻子ハ其分限ヲ保有ス

佛第十七條 佛蘭西人タル分限ハ左ノ條件ニ依テ之ヲ失フモノトス

第一 外國ニ於テ獲得シタル歸化

第二 國王ノ許可ヲ得スシテ外國政府ヨリ授與セラレタル公ケノ職務ヲ受諾スル事

第三 總テ歸國ノ意ナク外國ニ於テ爲シタル定業 商業上ノ定業ハ決シテ歸國ノ意ナクシテ爲シタルモノト看做ス事ヲ得ス

全第二十一條 國王ノ許可ヲ得スシテ外國ニ於テ兵役ニ服シ又ハ外國ノ兵社ニ加ハリタル佛蘭西人タル分限ヲ失フ可シ 其佛蘭西人ハ國王ノ許可ヲ得ルニ非サレハ佛蘭西ニ歸ル事ヲ得

ス且佛蘭西國士ト爲ル爲ノニ外國人ニ負ハシメタル條件ヲ履行スルニ非サレハ佛蘭西人タルノ分限ヲ復スル事ヲ得ス但シ國ニ叛キテ兵器ヲ携ヘ又ハ携ヘントスル佛蘭西人ニ對シ刑法ニ定メタル刑ト相賜ル、事ナカル可シ

伊第十一條 次項ニ掲記スル人ハ國民タル身位ヲ喪失ス可シ

第一項 自己ノ住居ヲ占定セシ地方ノ掌籍吏ノ面前ニ於テ公言ヲ爲シテ以テ國民タル身位ヲ辭棄シ而シテ其住居ヲ外國ニ轉移スルノ人

第二項 外國ニ於テ其國民ト爲レルノ人

第三項 王國政府ノ許可ヲ得スシテ自私ニ外國政府ノ公役ニ從事シ若クハ其兵役ニ服従スルノ人

國民タル身位ニ喪失セル人ノ妻及ヒ其未丁年ノ子ハ外國人ト看做ス但シ依然其住居ヲ王國內ニ占定スル者ハ此限ニ在ラズ

然レ供其妻ハ第十四條ニ規定セル方法ニ準シ其子ハ第六條ニ規定セル方法ニ準シテ王國ノ國民タル權理ヲ回復スル事ヲ得可シ

荷第九條 荷蘭人タルノ分限ヲ失フ者ハ左ノ如シ

第一 外國ノ戶籍ニ入ル者

第二 王ノ允許ナク外國政府ヨリ官職ヲ受ケ又ハ外國ニ於テ兵籍ニ入ル者

第三 歸國ノ意ナク外國ニ居住ヲ定ムル者但シ商業ノ爲メ外國ニ居住スル者ハ歸國ノ意無クシテ外國ニ居住スル者ト看做ス可カラズ

噠第十二條 噠馬國士タルノ分限ヲ失フハ如何ナル條目ニモ屬スル者ニ非スシテ特別ノ法律ニ據リ之ヲ規定スル者トス

英第十四條 英國ニ生レタル英國人ノ權理ハ頗ル貴重ニシテ

院證書ニ因ルニ非サルヨリハ他一切ノ形狀ニ因リ之ヲ奪フ事  
ヲ得ス又國王ノ獨意ニ成リタル證書ニ因リ之ヲ奪フ事ヲ得ス  
自己ノ歧望ニ因リ王家ノ允許ナク之ヲ棄ツル事ヲ得ス○然レ  
供假令ヒ自己ノ歧望ヲ以テ英國人タル分限ヨリ生スル義務ヲ  
辭避スル事ヲ得サルモ己レノ行爲ニ因リ其分限ニ附從セル權  
理ノ一部ヲ棄ツル事ヲ得可シ

全第十五條 顯理第八世ノ命令書ニ據レハ凡ソ英國人ノ外國王  
或ハ外國政府ノ臣民ト爲ル可キ誓約ヲ爲シタル者ハ其國外ニ  
滞在スル時間外國人ト同一ナル分限ニ於テ之ヲ支配ス可シト  
ス

全第十六條 ジャアク第一世ノ命令書ニ於テハ何人タルヲ問ハ  
ス豫メ英國王ニ忠誠ノ誓約ヲ爲サスシテ外國王又ハ外國政府  
ニ奉仕ス可キ爲メ國外ニ出ル事ヲ重罪トス

民人ノ二六

全第十七條 英國王ノ允許ヲ經スシテ外國政府ヨリ給料ヲ受ク  
ル事ハ重罪タリ

全第十八條 英國人ハ英國王ノ允許ナク外敵ト通商ス可カラス  
若シ英國人已レノ財産ヲ外敵ノ者ト虛構シタル時ハ之ヲ外敵  
ノ財産ト爲シ差押フ可シトス凡ソ戰時ニ於テ外敵ト取結ヒタ  
ル契約ハ英國人ノ訴求ニ係ルモ之カ責務ナカル可シ

全第十九條 然レ供英國人ハ局外中立國ノ國土ト爲リテ此國ニ  
於ケル臣民ノ權理ト英國臣民ノ權理トヲ同時ニ享有スルヲ得  
可シ但シ英國ニ歸化セシ者尙ホ外國ニ滞在シテ英國ニ復歸セ  
ス又ハ愛ニ住居ヲ定メサルニ於テハ英國人ノ享有スル商賣上  
ノ特權ヲ享クル事ヲ得ス又英國人ノ外國戶籍ニ入りシ者ト雖  
供英國ニ於テ之ヲ捕縛スルヲ得可シ又王家ノ勅命ニ因リ外國  
ヨリ之ヲ招回スルヲ得可クシテ其者ノ財産ハ歸國ニ至ルマテ



之ヲ預置セシム可シ

全第二十二條 セチロジユ第三世ノ命令書ニ據レハ凡ソ英國王ノ允許ナク外國ノ兵籍ニ入ル者又ハ其意ヲ以テ外國ニ在留スル者或ハ他ノ英國人ヲ其兵籍ニ入ラシムル者ハ罰金及ヒ禁獄ノ罰受ケ而シテ此等ノ者ノ渡航セシ時之ヲ資便スル船長モ亦罰金ノ罰受ク可シトス  
邊、累、魯、魯 成文ナシ

第十六條 前條ノ場合ニ於テ日本人ノ分限ヲ失ヒタル者ハ帝國政府ノ允許ヲ得タル上販國シテ其意思ヲ申述シ且ツ一年內ニ其住所ヲ帝國ニ定ムルトキハ其分限ヲ回復ス

佛第十八條 佛蘭人タルノ分限ヲ失ヒシ佛蘭西人ハ國王ノ許可ヲ得テ佛蘭西ニ歸リ且ツ佛蘭西ニ其居住ヲ定メント欲スル事ト佛蘭西ノ法律ニ背キタル總テノ榮顯ヲ拋棄スル事ト申述

スルニ於テハ何時ニ限ラス佛蘭西人タルノ分限ヲ復スル事ヲ得可シ

伊第十二條 前條ノ各項ニ特記スル事由アルカ爲メニ國民タル權理ヲ喪失スルモ之ニ據テ以テ王國ノ兵役ニ服從ス可キノ責務及ヒ故國ニ向テ兵刃ヲ操スルノ罪事ヲ避免スルニ足ラス

全第十三條 國民ニシテ第十一條ニ掲記スル事由ノ其一アルカ爲メニ國民タル權理ヲ喪失スル者ハ次項ノ時會ニ於テ之ヲ回復スル事ヲ得可シ

第一項 王國政府ノ特許ヲ得テ王國ニ歸來スルノ時會  
第二項 外國ニ在テ其國民タル身位ヲ辭棄シ若クハ外國ニ在テ從事セシ公務或ハ兵役ヲ辭棄シタルノ時會

第三項 掌籍吏ニ向テ王國內ニ自己ノ住居ヲ占定スル事ヲ公言シ一年內ニ於テ現實ニ其住居ヲ占定セシ時會

荷第十條 前條ノ原由ニ因テ荷蘭人タルノ分限ヲ失ヒシモノハ  
本卷第八條ニ依違スルニ非サレハ荷蘭人タルノ分限ヲ復スル  
事ヲ得ス

英第二十條 英國臣民ハ本國ニ復歸スル後ハ其外國ニ於ケル滯  
在又ハ行爲ニ因リ失フタル諸般ノ權理ヲ復有ス可シ又本國ニ  
歸來ヒシ爲メ旅中ナルモ同一ナリ

噠、邊、累、魯 成文ナシ

第十七條 外國人ト婚姻スル日本ノ女ハ當然日本人ノ分限ヲ失フ  
然供婚姻解離ノ後帝國ニ現住シ又ハ復版シ且帝國ニ其住所ヲ定ム  
ル事ヲ申述スル時ハ其分限ヲ回復ス

佛第十七條 外國人ニ嫁シタル佛蘭西ノ女ハ其夫ノ景狀ニ從フ  
○若シ其女ノ寡婦トナリシ時佛蘭西ニ居住シ又ハ國王ノ許可  
ヲ受ケ佛蘭西ニ歸リテ佛蘭西ニ居住ヲ定メント欲スル旨ヲ申

述スルニ於テハ佛蘭西人タルノ分限ヲ復ス可シ

伊第十四條 國民タル婦女ニシテ外國人ト結婚スル者カ其結婚  
ニ因テ夫タル者ト國籍ヲ同クスルニ於テハ則チ外國人ト爲ル  
者トス○其夫ヲ亡シタルノ以後ニ若シ王國內ニ居留シ或ハ王  
國內ニ歸來シ而シテ草籍吏ニ向テ王國內ニ其住居ヲ占定スル  
事ヲ公言スルニ於テハ則チ其國民タル權理ヲ回復スル事ヲ得  
可シ

荷第十條 外國人ニ嫁シタル荷蘭ノ女ハ其夫ノ景狀ニ從フ  
○婚姻解除ノ後其女既ニ王國ニ居住シ又ハ王國ニ住所ヲ定ム  
可キ旨邑廳ニ申述ヲ王國ニ歸ル者ハ荷蘭人タルノ分限ヲ復ス  
可シ

英第二十一條 外國人ニ嫁シタル英國ノ女ハ尙ホ英國人ノ權理  
ヲ失フ事ナシ往事ニ在テハ此等ノ女ノ國外ニ於テ舉ケタル子

ハ英國ニ於テ遺物相續ヲ爲ス事ヲ得サリシカ今代ニ至リ斯ノ  
子モ遺產不動産ヲ論セス之ヲ相續スルヲ得可シトス  
噠、邊、果、魯 成文ナシ

第三節 國民分限ノ變更ノ法式及ヒ効果

第十八條 國民分限ノ撰擇又ハ回復ニ關スル申述ハ帝國ニ在リテハ  
現住地ノ身分取扱所<sup>役</sup>又外國ニ在リテハ帝國ノ公使館又ハ領事館ニ  
之ヲ爲ス可シ

其申述ハ公正ニシテ特別ナル委任狀ヲ與ヘ代理人ヲ以テ之ヲ爲ス  
事ヲ得

伊第五條第二項末段 若シ其子カ外國ニ在住スルニ於テハ則チ  
其本國ノ公使若多ハ領事官ニ向テ之ヲ公言ス

佛、荷、噠、邊、果、魯、英 成文ナシ

第十九條 國民分限ノ變更ハ如何ナル場合ニ於テモ將來ニ非サレハ  
其効果ヲ生セス但兵役ニ服スルハ此限ニ在ラス

佛第二十條 第十條第十八條第十九條ニ定メタル場合ニ於テ佛  
蘭西人タルノ分限ヲ復スル者ハ其數條ニ依リ負ハシメラレタ  
ル條件ヲ履行シタル後ニ非サレハ其分限ヲ益用スル事ヲ得ス  
且ツ其時期ヨリ後ニ自己ノ利益ノ爲メニ開始シタル權利<sup>執行</sup>ノ爲  
メニノミニ非サレハ右ノ分限ヲ益用スル事ヲ得ス

伊第十五條 前數條ノ時會ニ於テ國民タル權<sup>連</sup>ヲ得有シ若クハ  
之ヲ回復スルモ共ニ其効力ハ法律ニ設定セル規約及ヒ法式ヲ  
履行セル本日ヨリシテ始メテ起生スル者トス

荷第十二條 荷蘭人タルノ分限ヲ復セント欲スル者ハ其歸國ノ  
後ニ得ル權利ニ非サレハ其分限ニ付キ利益ヲ得可カラス

英第二十條 我第十六條參看

噠、邊、累、魯、成文ナシ

第二十條 國民分限ハ出生ノ時ヲ以テ之ヲ定ム然レ供懷胎ヨリ出生  
マテノ間父又ハ母ノ分限變更シタルトキハ子ハ第二條ノ規則ニ從  
ヒ日本人ノ分限ヲ保有ス

皆成文ナシ

### 第三章 親屬

#### 第一節 血屬及姻屬

第二十一條 血屬トハ共同ノ始祖ヨリ出テタル者ノ間ニ聯結セル血  
統ノ關係ヲ云フ

此關係ハ婚姻ヨリ起ルト否トニ從ヒ正出ノ血屬又ハ庶出ノ血屬ト  
爲ス

法律ハ七親等ノ外ニ血屬ノ關係ヲ認許セス

伊第四十八條 一個ノ人ノ其後親タル數人ニ關係スル聯結ヲ名  
ケテ親屬ト云フ法律ノ此關係ヲ認可スルハ唯十等親内ニ止マ  
ル

荷第三百四十五條上段 血統トハ此一方又ハ彼ノ一方ヨリ所出  
ノ者或ハ其所出ノ者ヨリ出タル者ノ管係ヲ云フ

佛第七百五十五條第一項 第十二級以外ノ血屬親ハ相續セス  
邊第十九條上段 數人血統ヲ共ニスル時其相互ノ干係ヲ稱シテ  
血屬親ト云フ

魯第九十六條 親屬ハ一ノ親屬長ヨリ出ル男女ノ血統有ル仲  
間ノ結合ニマテ其仲間中ニ親屬長ノ姓名ヲ置サ、ル者有ルニ  
拘ハラス

噠、累、英、成文ナシ

第二十二條 血屬ノ遠近ハ世數ヲ以テ之ヲ定メ一世ヲ以テ一親等ト

爲ス親等ノ連續スルヲ親系ト爲ス彼ヨリ此ニ直降スル者ノ親系ヲ直系ト云ヒ其直降セスシテ共同ノ始祖ニ出ツル者ノ親系ヲ傍系ト云フ

直系ヲ分テ尊屬及ヒ卑屬ト爲ス尊屬親トハ自己ノ出ツル所ノ血族ヲ云ヒ卑屬親トハ自己ヨリ出ツル所ノ血族ヲ云フ

佛第七百三十五條 血族ノ親疎ハ代ノ數ヲ以テ之ヲ定メ其各個ノ代ヲ名ケテ一級ト云フ

全第七百三十六條 級ノ相連リタルモノハ系ヲ爲シ一ノ者カ他ノ者ヨリ降下スル數人ノ間ニ級ノ相連リタルモノヲ名ケテ直系ト云ヒ又一ノ者カ他ノ者ヨリ降下セスシテ共同ノ所出者ヨリ降下スル數人ノ間ニ級ノ相連リタルモノヲ名ケテ傍系ト云フ○直系ヲ分テ卑屬ノ直系及ヒ尊屬ノ直系トス○卑屬ノ直系トハ首者ヲ其己レヨリ降下スル者ト連接セシムル系ヲ云ヒ尊

屬ノ直系トハ人ヲ其尊屬ノ者ト連接セシムル系ヲ云フ

荷第三百四十五條末項 第三百四十六條第三百四十七條、英第四百二十八條第四百二十九條全シ

邊第二十一條 血統ノ級ハ或人其宗系ノ他人ト血統ヲ同シ又ハ某系ノ二人其所出ノ同シキニ因リ血統ヲ同フスル代ノ數ニ從テ算計ス可シ而シテ其一代ヲ以テ一級ト爲ス故ニ父ト子トハ第一級トシ兄弟ハ第二級トシ伯叔父ト甥トハ第三級トス

伊第四十九條 親屬等位ノ遠近ハ其代數ヲ以テ之ヲ定ム○一代ヲ以テ一親等ト爲ス全第五十條 親等ノ連續ヲ以テ世系ト爲ス數個ノ人ニシテ其一人ハ他ノ一人ヨリ出ツル所ノ親等ノ繼續ヲ直系ト爲シ數個ノ人ノ其一人カ他ノ一人ヨリ出テスシテ同一ノ所出ニ係レル親等ヲ傍系ト爲ス直系ヲ分テ後親ノ直系及ヒ先親ノ直系ノ二者ト爲ス○後親ノ直系ハ某人ト某人ヨリ出ツル所ノ人トニ關係シ先親ノ直系ハ某ノ人ト其人ノ出ツル所ノ人トニ關係ス

魯第百九十七條 親族ノ遠近ハ系及ヒ等級ヲ以テ確定ス

全第百九十八條 血統ニ關スル双方ノ結合ハ等級ヲ成シ而シテ

繼絶ナク連續スル等級ノ結合ハ系線ヲ成ス

全第百九十九條 二個或ハ二個以上ノ系ヲ生スル等級ハ其ノ等

級ノ關節ト名ケラレ而シテ斯ノ如キ系ハ其關節ノ分枝ト名ケラル

噠、果、 成文ナシ

第二十三條 父ノ血統ノ連結セル者ヲ父系ノ血族ト云ヒ母ノ血統ノ

連結セル者ヲ母系ノ血族ト云フ

邊第二十條 若シ血屬親ノ父若クハ母ノミチ同フスル時ハ是レ

乃チ異婚ノ血屬親即チ唯一方ノミノ血屬親ナリトス

同第二十二條一方ノミノ血屬親ハ兩方ノ血屬親ヨリ一級下ルモノトス

佛、伊、荷、噠、果、英、魯 成文ナシ

第二十四條 直系ニ於テハ兩人間ノ世數ヲ計算シテ親等ヲ定ム

凡人ノ三二

傍系ニ於テハ血族ノ一人ヨリ共同ノ始祖ニ溯リ又其始祖ヨリ他ノ

一人ニ降り其間ノ世數ヲ計算シテ親等ヲ定ム

佛第七百三十七條 直系ニ於テハ各人ノ間ニアル代ノ數ニ准シ

テ級ノ數ヲ算ス故ニ子ハ父ニ對シテハ第一級トシ孫ハ第二級

トス又其裏面ヨリ曾ヘハ父及ヒ祖父ヨリ子及ヒ孫ニ對シテ亦

之ニ同シ

全第七百三十八條 旁系ニ於テハ血屬親中ノ一人ヨリ共同ノ所

出者ニ至リ其所出者ヲ包含セスシテ更ニ其所出者ヨリ他ノ血

族親ニ至ル迄ノ代ノ數ニ准シテ其級ヲ算ス○故ニ兄弟ハ第二

級トシ伯叔父ト姪男ハ第三級トシ從兄弟ハ第四級トス其餘ハ

皆之ニ備フ

英第四百二十九條 佛第七百三十六條全シ一遺物相續ニ於テハ

卑屬系ヲシテ尊屬系ニ先タシム○往古ニ於テ遺物ハ下落スル

者ニシテ上溯スル者ニ非スト云フ事ヲ以テ定則ト爲セリ  
加フ

伊第五十一條 直系ハ代數ヲ以テ其親等ヲ計算シ其始祖タル一人ヲ算入セス○旁系ハ其親屬ノ一人ヨリ其始祖タル一人ニ溯リ又降テ他ノ一人ニ至リ其代數ヲ以テ之ヲ計算ス而シテ其始祖タル一人ハ亦之ヲ算入セス

魯第二百一條 卑系ハ當人ヨリ其子其孫其曾孫及ヒ其子孫ニ及フ所ノ等級ヨリ成ル

全第二百二條 尊系ハ當人ヨリ其父其祖父其曾祖及ヒ其祖先ニ至ル所ノ等級ヨリ成ル

全第二百三條 卑系及尊系ニ於テハ血統ヲ傳ヘテ等級ヲ算ス可シ故ニ卑系ニ於テ子ハ第一等ニ居リ孫ハ第二等ニ居リ曾孫ハ第三等ニ居リ以下準ス又尊系ニ於テ父ハ第一等ニ祖<sup>居リ</sup>父ハ第二

等ニ居リ曾祖父ハ第三等ニ居リ以上之ニ準ス

全第二百四條 文系ニ於テモ亦血統ニ由テ等級ヲ算ス即チ當人ヨリ始マリ正線ニ由テ一般ノ親族ニ上リ而シテ其親族ヨリ卑線ニ出テ彼ノ何等ナルヤ搜索セラル、所ノ親族ニ移リ以テ其等級ヲ算ス可シ○故ニ兄弟姉妹ハ第二等ニ在リ伯叔甥姪ハ第三等ニ在リ從兄弟ハ第四等ニ在リ從兄弟ノ子ハ第五等ニ在リ從兄弟ノ孫ハ第六等ニ在テ其他之ニ準ス○全第二百九條親族ノ近遠ヲ確定スルニハ死生婚姻簿ヲ證據ト爲シ而シテ己レカ親族ノ何等ナルヤヲ搜索セラル、者ノ身位ニ關シテハ貴族系爵都人傳人別帖及ヒ其他ノ身位證書ヲ證據ト爲ス  
邊、墾、界 成文ナシ

第二十五條 縁組ハ養子ト養親及ヒ其血族トノ間ニ民法上血屬ニ同シキ關係ヲ生ス

夫婦ノ一方ト他ノ一方ノ子トノ關係ハ親子ニ准ス  
皆成文無シ

第二十六條 姻屬トハ婚姻ニ因リ夫婦ノ一方ト其配偶者ノ血族トノ  
間ニ生スル關係ヲ云フ

夫婦ノ一方ノ血族ハ其親系及ヒ親等ニ於テ配偶者ノ姻族トス  
姻屬ノ關係ハ夫婦ノ一方死去ノ場合ヲ除クノ外婚姻ノ解離ニ因リ  
止息ス

伊第五十二條 姻族トハ配偶者ノ一方ト他ノ一方ノ親族トノ間  
間ニ生スル聯絡ヲ云フ○世系及ヒ親等ニ關シテハ配偶者ノ親  
屬タルト一般ニ他配偶者ニ對シテ姻族ト爲ル者トス○姻族ノ  
由テ生スル所ノ配偶者カ假令ヒ其子ヲ留存セスシテ死亡スル  
モ其姻族ノ聯絡ハ絶ヘサル者トス或種ノ効力ニ關シ及ヒ法律  
ニ於テ特ニ明記セサル時會ノ如キハ此限外ニ在リトス

民人ノ三四

荷第三百五十條 姻屬親トハ婚姻ヲ結フニ因リ夫婦中ノ一方ト  
他ノ一方ノ血屬親トノ間ニ互ニ生スル管保ヲ云フ○夫婦ノ血  
屬親相互ヒノ間ニハ決シテ姻屬親ノ管保ナシ、第三百五十一  
條姻屬親ノ級ヲ算スルハ血統ノ級ヲ算スルノ方法ト異ナル事  
ナシ○第三百五十二條婚姻ヲ解ク供夫婦中ノ一方ト他ノ一方  
ノ血屬親トノ間ノ姻屬親ノ管保ハ止ム事ナシ

邊第二十三條 夫婦ノ一方ノ血屬親ハ其配偶者ノ姻屬親ニシテ  
同系及ヒ同級ノ者トス  
佛、噠、英、果、魯 成文ナシ

第二節 養料ノ義務

第二十七條 直系ノ血族ハ正出ト庶出トヲ分タス躬ラ生活スル事能  
ハサルトキハ其原由如何ヲ問ハス互相ニ養料ヲ給スル義務ヲ負擔



佛第二百三條 夫婦ハ婚姻ノ所爲ノミニヨリ相共ニ其子ヲ給養  
保育教訓スルノ義務ヲ負フモノトス○全第二百五條子ハ窮乏  
ナル父母及ヒ其他ノ尊屬親ニ養料ヲ給ス可シ

荷第三百七十六條佛第二百五條○第三百八十三條法ニ違シテ我  
子ナリト認ラレタル私生ノ子ハ其父母ニ養料ヲ與フヘキノ  
義務アリトス

伊第三百三十八條初項 婚姻ハ夫妻ヲシテ其子ヲ養育教誨ス可キ  
ノ責務ヲ負擔セシムル者トス○第三百三十九條子タル者ハ其父  
母及ヒ先親ノ窮乏ナル者ニ對シテ衣食ヲ備辦セサル可カラズ

噠第六十五條 夫婦ハ其子ノ生計ヲ營ミ得ルニ至ル迄即チ十八  
歳ノ齡ニ至ル迄ハ相共ニ其子ヲ養育教訓スルノ責ヲ互ニ契約  
スル者トス假令ヒ其子ノ其年齡ニ至ルト雖供全ク其生計ヲ營

ム能ハサル時ハ尙ホ其責ヲ免ル可カラズ但シ其年齡ニ至ラスト  
雖供自己ニ其生計ヲ營ミ得ル時ハ格別ナリトス○第六十七條  
法律上ニ於テハ父母及ヒ尊屬親ノ發狂シタル時ニ非サレハ假  
令ヒ貧窮ト雖供其子<sup>シテ之ヲ</sup>養フノ責ヲ負ハシムル明文無シ然レ供  
此場合ニ於テ亦之ヲ養フハ其子ノ責任タリ

累第二百四十三條、第二百四十五條、佛第二百三條、第二百五  
條全シ(又子ハ父母或ハ其他ノ尊屬親ノ不幸ニシテ精神錯亂  
スル時其有様ニ必要ナル務ノヲ爲ス可シ)ヲ加フ○第二百四  
十六條前條ノ場合ニ於テ養料ナル語ハ之ヲ求ムル者ノ食料、  
寓居及ヒ需用ニ必要ナル總テノ物ヲ謂フ○又其養料ヲ幼者ニ  
渡ス可キ時ハ養料中ニ教育料ヲ包含スルモノトス○第二百六  
十二條 姦通又ハ倫亂ニ因テ生レタル子ニモ母或ハ其母ノ尊屬  
親ヨリ養料ヲ給與ス可シ

英第三百三十八條、佛第二百三條ニ同シ(祖父母ハ父母ト同ク其卑  
屬親ノ自カラ生計ヲ爲ス事能ハサルトキハ之ヲ養育ス可キノ  
責務アリ)チ加フ第四百十條佛第二百五條ト同シ○第四百十  
二條初段凡ソ養料ヲ求ムル者ハ年齢疾病又ハ不慮ノ災難ニ罹  
ル等ノ事故アリテ自カラ給養シ能ハサルノ原由ナカル可カラ  
ス

邊、善 成文ナシ

第二十八條 兄弟姉妹ノ間及ヒ伯叔父母ト甥姪トノ間ハ其正出ト庶  
出トチ分タス廢疾其他本人ノ責ニ歸セサル事故ニ因リ躬生活スル  
時能ハサル場合ニ限り互相ニ養料ヲ給スル義務ヲ負擔ス

伊第四百十一條 兄弟姉妹ハ唯其身體ノ弱若クハ心神ノ昏耗  
其他自己ヨリ起生セサルノ理由ニ因テ自カラ其衣食ヲ備辨ス  
ル事能ハサルノ時會ニ於テノミ必要ナル衣食ノ供給ヲ請求シ

得可キノ權理ヲ有ス

英我第二十七條參看

佛、荷、噠、邊、果、魯 成文ナシ

第二十九條 直系ノ姻族ハ前條同一ノ條件ニ從ヒ互相ニ養料ヲ給ス  
ル義務ヲ負擔ス

佛第二百六條初項上段 婿及ハ媳ハ前條ト全一ノ景況ニ於テハ  
亦其舅姑ニ養料ヲ給ス可シ○第二百七條右ノ成規ヨリ生スル  
義務ハ相互ノモノトス

荷第三百七十七條第三百七十八條全シ

伊第四百十條初項 互相ニ衣食ヲ備辨ス可キノ責務ハ外父母ト  
婿男媳婦ノ間際ニ於テモ復亦存在スル者トス

噠第六十六條 舅姑モ亦其婿及ヒ媳ニ對シテハ同一ノ責有ル者  
トス

英第四百四十一條 養料ヲ給ス可キノ責務ハ血屬親ノ間ニ止マリ  
テ姻屬親ノ間ニ及フ事ナシ故ニ婿及ヒ媳婦ト養父母トノ間ニ  
於テハ互ニ養料ヲ給スルノ責務ナカル可シ然レ供新法ニ依レ  
ハ養父ハ婚姻前ニ生レタル其婦ノ適法ノ子又ハ不適法ノ子ノ  
年齢二十一歳ニ達スル迄又ハ其婦ノ死去スル迄ハ此子ヲ養育  
ス可シトス

邊、魯、果 成文ナシ

第三十條 養料ノ義務ヲ負擔ス可キ者ノ順序左ノ如シ

第一 卑屬親

第二 尊屬親

第三 兄弟姉妹

第四 伯叔父母甥姪

第五 卑屬ノ姻族

第六 尊屬ノ姻族

卑屬親又ハ尊屬親ノ間ハ其親等ノ最近キ者養料ノ義務ヲ負擔ス姻  
屬ノ間モ亦同シ

養料ヲ受ク可キ者ノ順序モ亦前兩項ノ例ニ從フ

伊第四百四十二條 衣食ヲ供給スル責務ノ順序ハ第一ニ配偶者第

二ニ後親第三ニ先親第四ニ婿男及ヒ媳婦第五ニ外父及ヒ外母

第六ニ兄弟姉妹ニ歸屬スル者トス○後親中ニ於テ此責務ヲ負

擔スルノ順序ハ衣食ノ供給ニ權理ヲ有スル人ノ准規遺產ヲ承

襲ス可キ後親ノ順序ニ照准シテ之ヲ規定ス

佛、荷、暹、邊、果、魯、英 成文ナシ

第三十一條 養料ハ之ヲ受ク可キ者ノ需用ト之ヲ給ス可キ者ノ資産  
トニ應シテ其額ヲ定ム

佛第二百八條 養料ハ之ヲ得ント求ムル者ノ窮乏ト之ヲ給ス可

キ者ノ家産トテ割合ノミヲ以テ之ヲ附與ス可シ

荷第三百七十九條果第二百四十七條 全シ

伊第四百十三條 衣食ハ之ヲ要求スル人ノ費用ト之ヲ備辦スル人ノ資産トニ應シテ之ヲ供給ス可キ者トス

英第四百十二條初項末段 而シテ又之レカ求テ受ケタル他一方ク者モ其養料ヲ給與シ得可キノ身位ニ在ルヲ必要ナリトス○養料ヲ給與シ得可キノ景況及ヒ其養料ノ定分ヲ定ムルハ裁判官ノ資察ニ委スル者トス

噫、邊、魯 成文ナシ

第三十二條 養料ヲ給ス可キ者ハ或ハ定期ニ金穀ヲ支給シ或ハ其家ニ引取り養フ事ヲ得但シ裁判所ハ場合ニ依リ其方法ヲ定ムル事アルヘシ

伊第二百十條 養料ヲ給セサル可カラサル人ノ之ヲ辨濟スル事

民人ノ三九

能ハサル旨ヲ證明スル時ハ裁判所ニ於テ其原由ヲ取調タル上養料ヲ受ク可キ者ヲ其住居ニ引取りテ之ヲ給養保育ス可キ事ヲ命令スルヲ得可シ、第二百十一條裁判所ニ於テハ父又ハ母カ其養料ヲ給ス可キ子ヲ己レノ住居ニ引取りテ給養保育ス可キ事ヲ供職スルトキハ此場合ニ於テ其養料ヲ辨濟スル事ヲ免除セサル可カラサルヤ否ヲ前ニ全ク宣告ス可シ

荷第三百八十一條第三百八十二條果第二百四十九條第二百五十條全シ

伊第四百十五條 衣食ヲ備辦スル人ハ其供給ニ權理ヲ有スル人ニ年金ヲ給與スルト其人ヲ自己ノ家裡ニ招致シテ其供給ヲ備辦スルトノ二個ノ方法ノ其一ヲ擇定シテ以テ其責務ヲ履行スル事ヲ得可シ○然レ供法衙ハ其狀況ニ應シテ衣食備辦ノ方法ヲ指定スル事ヲ得可シ

英第四百四十三條 養料ノ求メテ受ケタル者ハ之ヲ求ムル者チ自己ノ住所ニ引寄スルニ及ハサル可シ是此規則ハエリサベツト  
第四十三號法律及ヒ其他養料ノ事ニ就テハ單ニ供給ヲ爲スコシトスル爲メニ設クル法律ヨリ基キ來リシ者ナリ  
噠、邊、果、魯、魯 成文ナシ

第三十三條 養料ヲ給ス可キ同順序ノ者數人アルトキハ各其資産ニ應シテ之ヲ負擔ス此場合ニ於テ他人ノ負擔ス可キ養料ヲ辨價シタル者ハ其負擔者チシテ之ヲ償還セシムル事ヲ得

伊第四百四十五條末項 急遽措置ス可カラサルノ時會ニ於テハ法衙ハ衣食供給ノ責務ヲ有スル數人中ノ一人ニ賦課シテ暫時其備辦ヲ爲サシムル事ヲ得可シ而シテ此一人カ均シク供給ノ責務ヲ有スル他ノ各人ニ對シテ其償價ヲ請求スル如キハ此限外ニ在リトス

佛、荷、噠、邊、魯、英 成文ナシ

第三十四條 判決ニ因リテ養料ヲ受ク可キ者又ハ之ヲ給ス可キ者ノ資産ニ變更アリタルトキハ其増減ヲ地方裁判所ニ請求スル事ヲ得養料ヲ給ス可キ同順序ノ者數多アリテ其各自ノ資産ニ變更アリタル時亦同シ

佛第二百九條 若シ養料ヲ給スル者ノ最早其全部又ハ一部ヲ給與スル事能ハサル狀景ニ至リ又ハ養料ヲ受クル者ノ最早其全部又ハ一部ヲ受クル事ヲ要セサル狀景ニ至リシ時ハ其養料ノ免除又ハ減少ヲ請求スル事ヲ得可シ

荷第三百八十條第百四十八條全シ

伊第四百四十四條 若シ衣食ヲ供給セシ以後ニ在テ之ヲ備辦スル人若クハ之ヲ領受スル人ノ身位ニ變換チ起生スル事有レハ則チ法衙ハ其狀況ニ從テ衣食供給ノ廢止減少若クハ増加ヲ宣命

ス

英第四百四十二條 我第三十一條參看

噫、邊、魯 成文ナシ

第三十五條 養料ハ他人ニ譲渡ス事ヲ得ス又養料ニ原由スル債務ノ爲メニ非サレハ之ヲ差押フル事ヲ得ス

皆成文無シ

第三十六條 養料ヲ給シタル者ハ之ヲ取還ス事ヲ得ス

然供第三者代理又ハ事務管理ニテ養料ヲ給セシトキハ其義務ヲ負擔ス可キ者ニ對シ又其負擔者無資力者ト爲リタルトキハ養料ヲ受ケタル本人ニ對シ之ヲ取還ス事ヲ得

皆成文無シ

第三十七條 養料ノ義務ハ判決ニ基クトキト雖供左ノ場合ニ於テ止息ス

民人ノ四〇

一 養料ヲ給ス可キ者死去シ又ハ之ヲ給スル事能ハサル時

二 養料ヲ受ク可キ者死去シ又ハ躬生活スルヲ得ル時

此外姻族ノ間養料ノ義務ハ左ノ場合ニ於テ止息ス

一 養料ヲ受ク可キ者再婚シタル時

二 配偶者及ヒ其共同子ノ死去シタル時

佛第二百六條末段 然レ供左ノ場合ニ於テハ其義務止息スルモノトス○第一姑ノ再婚シタル時○第二姻縁ヲ生セシメタル夫婦中ノ一方及ヒ其配偶者トノ結婚ニ依リ舉ケタル子ノ死去セシ時

伊第四百四十六條 衣食ヲ備辨ス可キノ責務ハ裁判執行ヨリ生出スル者タリト雖供其責務ヲ負擔スル人ノ死亡ニ因テ消滅ニ歸スル者トス

荷第三百八十四條 養料ヲ受クルヲ辭スル約束ハ都テ無効ニ屬

ス可シ

邊哇果魯英 成文ナシ

第四章 婚姻

前置條例

第三十八條 婚姻ニ二種アリ普通婚姻及ヒ特例婚姻トス

婦其夫ノ氏ヲ稱シ其身分ニ從フトキハ之ヲ普通婚姻ト云ヒ反對ノ場合ニ於テハ之ヲ特例婚姻ト云フ

特例婚姻ハ雙方ノ明瞭ナル意思ニ出ツル事ヲ要ス其意思ニ疑ヒアルトキハ普通婚姻ト看做ス

本章ノ條例ハ特別ニ規定スル者ヲ除クノ外二種ノ婚姻ニ適用ス皆成文ナシ

第三十九條 婚姻ヲ爲ス可キ約束ハ其婚姻ヲ爲スノ義務ヲ生セス然供約束者ノ一方正當ノ理由ナクシテ其履行ヲ拒ムトキハ他ノ一方

其約束ヲ信シテ爲シタル實費賠償ノ責ニ任ス

佛第四百四十六條 承諾ノアラサル時ハ婚姻ナシトス

英第八十三條 法律ニ於テハ婚姻ヲ以テ民法上ノ者ト看做ス可シ

第九十四條、荷第八十五條佛ニ全シ

伊第五十三條 婚姻上互相ノ約束ハ之ヲ締結スルニ關シテハ法

律上ノ義務ヲ生セス又此約束ヲ決行スル爲メニ締結シタル行爲ヲ履行セシムルニ足ラサル者トス○第五十四條 若シ此約

束ヲシテ丁年者若クハ未丁年者カ其婚姻ノ有効タルニ必要スル人ノ承諾ヲ得テ公式若クハ私式ノ證書ヲ以テ締結セル者ニ

係ラシノ或ハ又此約束ヲシテ掌籍吏ノ公告ヲ以テ締結セル者ニ係ラシムレハ則チ締結者ノ至當ナル理由ナクシテ其履行ヲ

拒却スル所ノ人ハ他ノ約主力此婚姻上ノ約束ニ關シテ支消シ

タル費用ヲ辨償セサル可カラス○然レ供其約束ヲ決行ス可キ  
期日ヨリ滿一年ノ以後ニ於テスル辨償ノ請求ハ採用セラレサ  
ル者トス

邊第四十七條 婚姻ノ豫約ハ貞節及ヒ名譽ノ法ニ循ヒ之ヲ爲ス  
可シ然レ供更ニ權利ヲ生セサル者トス○第四十八條若シ許婚  
者双方カ公證人及證人ノ面前ニ於テ許婚女ノ父又ハ後見人ノ  
立會ヲ受ケタル婚姻ノ契約書ニ姓名ヲ手署シタルトキ又ハ法  
律上ニ於テ故障ヲ述フル事ヲ許サレタル人ノ許諾ヲ以テ許婚  
シタル双方ノ承諾アリテヨリ既ニ一回又ハ數回婚姻ヲ公告シ  
タルトキハ婚姻裁判所ハ許婚者中一方ノ願ニ因リ充分ノ理由  
ナクシテ結婚ニ故障ヲ述フル所ノ許婚男ヲ損害ノ賠償ニ處斷  
セサル可カラス且又許婚男ニ惡意ノアル事分明ナルカ若クハ  
其拒絕ノ遺義ヲ害スルニ於テハ其許婚男ヲ四日以上二十日以

下ノ禁錮ニ處スル事ヲ得可シ

果第八十七條 法律ニ於テハ婚姻ヲ以テ民法上ノ契約ト看做ス  
魯第一條 魯教人ハ族種ノ差別無ク皆結婚ニ關シテ政府ノ特許  
ヲモ得ス又己レカ屬スル族類及ヒ社會ヨリ免カレルヲモ願ハ  
スシテ互ニ結婚スルヲ得可シ此主義ニ原キテ魯教ノ外國人ト  
魯教ノ魯國人ト結婚スルヲ許ス而シテ此條ニ明解シタル通規  
ニハ下文ノ數條ニ定メタル制限及ヒ格外有ル可シ  
噓、成文ナシ

第一節 婚姻ヲ爲スニ必要ナル條件

第四十條 男子ハ滿十七年女子ハ滿十四年ノ齡ニ至ラサレハ婚姻ヲ  
爲ス事ヲ得ス

佛第四百四十四條 男ハ滿十八歲ニ至ラサル前女ハ滿十五歲ニ至



ラサル前ニ婚姻ヲ契約スル事ヲ得ス○第一百四十五條 然レ供  
重要ノ理由ノ爲メ國王ヨリ年齢ノ許可ヲ附與スル事ヲ得可シ  
伊第五十五條 男子ハ滿十八歳女子ハ滿十五歳ヨリ以前ニ在テ  
ハ婚姻ヲ締結スル事ヲ得ス

荷第八十六條 滿十八歳ニ至ラサル男滿十六歳ニ至ラサル女ハ  
婚姻ノ契約ヲ爲スヲ得ス

暹第四十九條 男ハ滿二十歳ニ至ラサル前女ハ滿十六歳ニ至ラ  
サル前ニ婚姻ノ契約ヲ爲ス可カラス

果第九十三條 本州中ニ於テ婚姻ヲ公告スルノ允許ヲ得タル僧  
官及ヒ官吏ハ十四歳以下ノ男十二歳以下ノ女ヲ婚姻セシムル  
事ヲ得ス若シ此等ノ者ヲ婚姻セシムルトキハ官吏ハ免職僧官  
ハ本州中ニ於テ常ニ婚姻ヲ公告スルノ權ヲ褫奪セラル可シ

英第九十三條 男十四歳女十二歳以下ニシテ取結ヒタル婚姻ノ

契約ハ不完全タルヲ以テ唯婚姻豫約ト等シキ効アルノミ故ニ  
此等ノ者ハ各同上ノ年齢ニ達スルニ至リ其契約ヲ排拒シ又ハ  
之ヲ無効ト做ス事ヲ得可シ○年齢七歳以下ナル幼者ノ間ニ取  
結ヒタル婚姻豫約ハ其効ナカル可シ○第九十三條カソレルベ  
リノ大教正ハ往時羅馬法皇ノ允許セシ事項ニ於テ聖書ニ違  
反セサル所ノ諸般ノ免除ヲ與フルヲ得可シト雖供前條ニ記ス  
ル年齢ニ達セサル者ヲシテ婚姻ノ契約ヲ取結フノ允許ヲ爲ス  
事ヲ得ス○然レ供王族ノ間ニ於ケル政略上ノ婚姻ハ如何ナル  
年齢ニ於テ之ヲ取結フモ其効アル可シ

魯第三條 十八歳以下ノ男及ヒ十六歳以下ノ女ニハ結婚スルヲ  
禁ス然レ供ザカフカーズ地方ニ限り命夫ハ十五歳ニ達シ命婦  
ハ十三歳ニ達スルノ後ハ之ニ結婚スルヲ允ス可シ○第四條ハ  
十歳以上ノ者ニ結婚スルヲ禁ス○第五條痴人及狂人ト結婚ス

ルヲ禁ス

邊第二十九條 婚姻ヲ爲スニハ男ハ滿十八歳及ヒ女ハ滿十六歳ニ至リタルヲ要ス

第四十一條 配偶者アル者ハ重ネテ婚姻ヲ爲ス事ヲ得ス

佛第四百十七條 前婚ノ解分前ニ再婚ヲ契約スル事ヲ得ス

果第九十四條、英第九十六條全シ

伊第五十六條 既ニ結婚セル人ハ重ネテ婚姻ヲ締結スル事ヲ得ス

荷第八十四條 男ハ唯一人ノ女ト女ハ唯一人ノ男トノミニ非サレハ婚姻ヲ爲スヲ得ス

魯第二十條 法律ヲ以テ離別セラレサル前婚ノ存スル時ニ再婚スルヲ禁ス○第二十一條第四回ノ婚姻ヲ禁ス○第四十二條若シ配偶ノ双方ハ法律上ノ前婚ノ存スル時ニ再婚スルヲ以テ罪

セラル、時ハ其再婚ヲ廢セラレテ己レカ前婚ニ止マル可シ而シテ配偶一方ノ死去ヲ以テ婚姻ノ止絶シタル場合ニ於テ生殘セシ者ハ己レカ背法婚姻改復ヲモ又再婚ノ允許ヲモ請願スルノ權利ヲ有セス  
噫、邊 成文ナシ

第四十二條 夫ノ失踪ニ原由スル離婚ノ場合ヲ除クノ外女子ハ前婚  
解離ノ後四ケ月内ニハ再婚ヲ爲ス事ヲ得ス

此制禁ハ其分曉シタル日ヨリ止息ス

佛第二百二十八條 婦ハ前婚ノ解分セシヨリ滿十月ノ後ニ非サレハ再婚ヲ契約スル事ヲ得ス

果第三百三十四條 全シ

荷第九十一條 全シ 三百日トス

伊第五十七條 婦女ハ其婚姻ノ解消若クハ解破ノ以後滿六月ヲ

經過者サレハ則チ更ニ結婚スル事ヲ得ス但シ第七條ニ特載スル時會ノ如キハ此例外ニ在リトス○此制禁ハ婦女ノ分婬セ  
ル本日ニ於テ廢止ス

噯第七十五條 夫ハ其婦ノ死去セシ時ヨリ滿三ヶ月ノ後ニ非サ  
レハ再婚ヲ爲スヲ得ス又婦ハ一箇年ヲ待タサル可カラス

○第七十六條然リト雖供田舍人及ヒ下等社會ノ者ハ其期限ノ  
終ラサル中ニ再婚ヲ爲スノ權利アリ此場合ニ於テハ夫ハ其婦  
ノ死去セシヨリ六週日ノ後ニ再婚スルヲ得可ク婦ハ其夫ノ死  
去セシヨリ三箇月ノ後ニ再婚スル事ヲ得可シ

邊第四十六條 婦ハ忌服ノ終リシヨリ一年ヲ經ルニ非サレハ再  
婚ヲ爲スヲ得ス而シテ離婚シタル配偶者ハ裁判官ニ因テ定  
メタル期限ノ終リタル後ニ非サレハ再婚ヲ爲スヲ得ス

英第一百五十七條 婦ハ其夫ノ死去後又ハ離婚ノ宣告後ハ直ニ再

婚ヲ契約スル事ヲ得可シ若シ再婚ニ付故障ヲ申述ントスル者  
ハ此事ニ付テノ議院證書ヲ受ク可シ

魯第四十四條 配偶一方ノ死去ノ後ニ生殘シタル者ハ再婚スル  
ヲ得可シ但シ其再婚ニ聊カ法律上ノ故障無キトキハ然リトス

第四十三條 姦通ニ原由スル離婚ノ場合ニ於テハ離婚ノ裁判宣告ヲ  
受ケタル由者ハ其相姦者ト婚姻ヲ爲ス事ヲ得ス

佛第二百九十八條 姦通ノ原由ノ爲メ裁判上ニテ許容セラレタ  
ル離婚ノ場合ニ於テハ犯姦ノ夫又ハ婦ハ決シテ其從犯ト婚姻  
スル事ヲ得ス姦通ヲナシタル婦ハ檢察官ノ請求ニヨリ右ト同  
一ノ裁判ヲ以テ三月ヨリ少キ事ヲ得ス二年ニ過クル事ヲ得サ  
ル定期間懲治場内ニ於ケル懲役ヲ言渡サル可シ

伊第六十二條 刑事訴訟ニ於テ配偶者ノ一人ノ故殺若クハ故殺  
不果ニ關シ首犯若クハ從犯ト審判セラレタル所ノ者ハ他ノ配

偶者ノ一人ニシテ尙ホ生存スル者ト結婚スル事ヲ得ス○若シ  
唯被告タルノ訴狀或ハ拘留ノ命令ヲ受ケタルニ於テハ則チ婚  
姻ノ禮式ノ執行ハ終審ノ宣告ヲ受ケタル迄之ヲ假停ス可キ者  
トス

荷第八十九條 姦通罪ノ原由ニ依テ處刑ヲ受ケタル夫又ハ婦ハ  
姦夫姦婦ト決シテ婚姻ヲ爲ス事ヲ得ス

邊第四十二條 姦淫ヲ爲シタル双方ハ決シテ相結婚スルヲ得ス  
○第四十三條 夫婦ノ一方ヨリ其配偶者ト疑ハシキ交接ヲ爲シ  
タルカ爲メ告訴セラレタル人ハ婚姻裁判所ニ於テ其配偶者ト  
交接スル事ヲ禁止セラレタル時ハ決シテ其配偶者ト婚姻ヲ爲  
スヲ得ス

英第七十九條 議院證書ニ因リ姦通ヲ原由トナシ離婚ノ言渡  
ヲ受ケタル時ハ其不義ヲ犯シタル者ハ其從犯ト婚姻ヲ取締フ

事ヲ得ルモ結婚ノ婦ヲ力姦セシ後之ヲ娶リテ己レカ過失ヲ償  
ハサルトキハ尙ホ榮譽ヲ害セシ者ト看做ス可シ○凡ソ姦通ヲ  
爲シタル者ハ刑法ニ因リ科罰ヲ受ク事ナシ  
噫、累、魯、成文ナシ

第四十四條 直系ニ於テハ尊屬親ト卑屬親トノ間正出ト庶出トチ分  
タス婚姻ヲ禁ス直系ノ姻族ノ間亦同シ

佛第六十一條 直系ニ於テハ適法又ハ不適法ノ各尊屬親ト卑  
屬親トノ間ニ婚姻ヲ禁止シ又右同系ニ於ケル姻屬親ノ間ニ婚  
姻ヲ禁止ス

累第九十四條、英第百 四條、荷第八十七條 同シ

伊第五十八條 直系ニ於テハ正族若クハ私族及ヒ直系ノ姻族ト  
チ間ハス先親ト後親ノ結婚スル事ヲ禁止ス

噫第五十二條 直系ノ親ニ於テハ總テ尊屬親ト卑屬親トノ間ニ

婚姻ヲ爲スヲ禁シ傍系ノ親ニ於テハ第一級ノ血屬親ノ間ニ婚姻ヲ爲スヲ禁ス

邊第四十四條 婚姻ハ血統ノ適法タルトテ問ハス尊屬親ト卑屬

親トノ間伯叔父ト姪トノ間伯叔母ト甥トノ間ニ行フ事ヲ禁ス

魯第二十三條 寺則ヲ以テ禁シタル等級ノ親族及ヒ姻族ト結婚スルヲ禁ス

第四十五條 傍系ニ於テハ夫婦ト爲ルヘキ雙方ノ一方共同ノ始祖ト一親等ナルトキハ其正出ト庶出トヲ分タス婚姻ヲ禁ス

佛第六十二條 傍系ニ於テハ適法又ハ不適法ノ兄弟姉妹ノ間ニ婚姻ヲ禁止シ又右同級ノ姻屬親ノ間ニ婚姻ヲ禁止ス第六十三條又伯叔父ト姪女トノ間及ヒ伯叔母ト甥男トノ間ニ婚姻ヲ禁止ス第六十四條然レ供國王ハ重要ノ原由ノ爲メ第六十二條ニ記シタル姻屬ノ兄弟姉妹ノ間ノ婚姻ノ禁止及ヒ第六

六十三條ニ記シタル伯叔父ト姪女トノ間又伯叔母ト甥男トノ間ノ婚姻ノ禁止ヲ解除スル事ヲ得可シ

異第九十七條第九十八條全シ荷第八十七條邊第四十四條全シ皆百六十四條ヲ除ク噫第五十二條我第四十四條參看而シテ噫第五十三條王ノ允許ヲ得ルニ非サレハ兄弟ノ寡婦又ハ父方又ハ母方ノ伯叔父ト婚姻ヲ爲スヲ禁スヲ加フ

伊第五十九條 傍系ニ於テハ次項ノ人ノ結婚スル事ヲ禁止ス  
○第一項正族ト私族トヲ問ハス兄弟姉妹ノ間第二項姻族ノ兄弟  
弟、姉妹ノ間第三項叔姪ノ間

英第一百五條 傍系ニ於テハ「レビチク」ニ依リ婚姻禁止ノ規則ヲ定メ兄弟姉妹及ヒ同等ナル姻族親ノ間ニ於ケル婚姻ハ禁スル所ナリト雖供夫ノ姻族親ハ其婦ノ姻族親ニ對シ姻族タルニ非サルニ因リ夫及ヒ其子ハ其婦ノ姻族親ノ母及ヒ女子娶ル事

ヲ得夫ノ兄弟ハ此姻族親ノ姉妹又寡婦ハ吾夫ノ姉妹タル者死シタル後其夫ニ婚スル事ヲ得可シ、第六六條伯叔父母ト甥姪トノ間ニ於ケル婚姻ハ之ヲ禁止ス而シテ一切ノ權力ニ依リ此婚姻ノ障礙ヲ取除ク事ヲ得ス○第七條婚姻ハ四等親即同父母ノ從兄弟姉妹以外ニ於ケル親族ノ間ニ取結フハ許ス所ナリ  
魯 我第四十四條參看

第四十六條 養子ト養親其尊屬親及ヒ配偶者トノ間又養親ト養子ノ配偶者及ヒ卑屬親トノ間婚姻ヲ禁ス

佛第三百四十八條 養子トナリタル者ハ猶ホ其實家ヲ離レス其實家ニ於テ總テノ權利ヲ保存ス可シ然レ供左ニ記スル各人ノ間ニ於テハ婚姻ヲ禁ス○養親ト養子及ヒ其卑屬親トノ間○同一人ノ養子數名ノ間○養子ト養親ノ舉クル事アル子トノ間○養子ト養親ノ配偶者トノ間及ヒ其裏面ニ於テ養親ト養子ノ

配偶者トノ間

伊第六十條 次項ノ人ノ結婚スルモ亦禁止ノ例ニ在リトス○養父母ト養子女及ヒ其後親ノ間○一個ノ人ノ養子ト養女トノ間○養子女ト養父母ノ男子女子トノ間○養子女ト養父母ノ配偶者及ヒ養父母ト養子女ノ配偶者ノ間

荷第八十八條 後段 前條ニ記シタル婚姻制禁ノ外義兄弟ト義姉妹トノ間ニ於テハ國王ヨリ其婚姻ヲ爲ス事ヲ許スヲ得可シ  
噠、邊、累、魯、英 成文ナシ

第四十七條 成年ニ至ラサル男女ハ父母ノ承諾ヲ得ルニ非サレハ婚姻ヲ爲ス事ヲ得ス

父母其意ヲ異ニスルトキハ父ノ承諾ヲ以テ足レリトス  
父母ノ中一方死去シ又ハ其意ヲ表スル專能ハサルトキハ他ノ一方ノ承諾ヲ以テ足レリトス

佛第一百四十八條 滿二十五歲ニ達セサル男子及ヒ滿二十一歳ニ達セサル女ハ其父母ノ許諾ヲ得スシテ婚姻ヲ契約スル事ヲ得ス若シ異議アルトキハ父ノ許諾ヲ以テ足レリトス、第一百四十九條若シ父母ノ中一方ノ死去シ又ハ其意ヲ明示スル事能ハサル時ハ他ノ一方ノ者ノ許諾ヲ以テ足レリトス○第一百五十二條第一百四十八條ニ定メタル成年ニ至リシ後男ハ三十歳ノ齡ニ至ルマテ女ハ滿二十五歳ノ齡ニ至ルマテノ間ハ前條ニ定メタル恭敬ノ證書ヲ差出シ婚姻ノ許諾ヲ得サルトキハ其後月ヲ逐テ更ニ二次其證書ヲ差出シ第三次ノ證書ヨリ一月ノ後ニ至リ婚姻ヲ行フ事ヲ得可シ○第一百五十三條三十歳ノ齡ニ至リシ後ハ一次恭敬ノ證書ヲ差出シテ許諾ヲ得スト雖供一月ノ後ニ至リ婚姻ヲ行フ事ヲ得可シ

伊第六十三條 男子ハ滿二十五歳女子ハ滿二十一歳ヨリ以前ニ

在テハ其父母ノ許可ヲ得ルニ非サレハ則チ結婚スル事ヲ得ス○若シ其父母ノ意見同一ニ出テサルニ於テハ則チ其父ノ許可ヲ取ルノミテ以テ足レリトス○若シ父母ノ一人カ死セセルカ若クハ其意見ヲ明言スル事能ハサル狀況ニ在ルニ於テハ則チ唯他ノ一人ノ許可ヲ取ルノミテ以テ足レリトス

荷第九十二條 嫡出子ノ子其幼年ノ間ハ以下佛民法第一百四十八條及ヒ第一百四十九條ニ同シ但シ婚姻ノ契約ヲ爲ス可カラス以下追加スル事以下ノ如シ異議アル場合ニ於テ其母己レノ所存ノ意ヲ表セサルトキハ其父許諾ノ證書ニ因リ或ハ身分證書ノ官吏ノ面前ニ於テ其母ニ一應許諾ヲ求メン事ヲ申述ス可シ○第九十九條 丁年ニ達セサル嫡出ノ子モ滿三十歳ニ達セサル者ハ必ス婚姻ノ契約ヲ爲ス以前ニ父母ノ許諾ヲ求ム可キ者トス而シテ其許諾ヲ得サルトキハ次ニ記スル條ニ依違シ其父

母ノ住所ヲ管轄スル治安裁判官ニ斷フル事ヲ得可シ

噫第五十條 寡婦ニ非サル女ノ婚姻ヲ爲サントスルニハ其父母

ノ許諾若クハ其父己レノ意ヲ表示スル事能ハサルトキハ其後

見人ノ許諾ヲ得サル可カラス○第五十一條前段 婚姻ヲ許サ

レタル者未タ丁年ニ達セサルトキハ亦前條ニ記スル父母若ク

ハ後見人ノ許諾ヲ請ハサルヲ得ス

邊第三十二條 私權ヲ享有セサル未丁年者及ヒ後見又ハ治産禁

ヲ受クル丁年者ハ其父母若クハ祖父母ノ許諾ヲ得スシテ婚姻

ヲ爲スヲ得ス

累第九十九條 初項 婚姻ヲ結フ事ヲ得可キ年齢ニ達セシ男女

ノ未丁年者其婚姻ヲ結フニハ其父母又ハ其父母ノ中後ニ生存

スル者ノ承諾ヲ受ク可キ又若シ其父母ナキ時ハ管財人ノ承

諾ヲ受ク可シ

魯第六條 父母後見人或ハ管財人ノ允許ナク結婚スルヲ禁ス

英第九十七條 二十一歳以下ノ男及ヒ女ハ其父ノ許諾ヲ得スシ

テ婚姻ヲ取結フ事ヲ得ス○第九十九條 二十一歳以上ノ男及

ヒ女ハ人ノ許諾ヲ受クルヲ要セスシテ婚姻ヲ取結フ事ヲ得可

シ

第四十八條 父母共ニ死去シ又ハ其意ヲ表スル事能ハサル時ハ父系

ノ祖父母ノ許諾ヲ請フ可シ

祖父母其意ヲ異ニスル時ハ祖父ノ許諾ヲ以テ足レリトス

祖父母ノ中一人死去シ又ハ其意ヲ表スル事能ハサル時ハ他ノ一人

ノ許諾ヲ以テ足レリトス

佛第一百五十條 若シ父母共ニ死去シ又ハ其意ヲ明示スル事能ハ

サル時ハ祖父母之ニ代ル可シ若シ同系ノ祖父ト祖母トノ間ニ

異議アル時ハ祖父ノ許諾ヲ以テ足レリトス○若シ兩系ノ間ニ



異議アル時ハ其ノ異議アル<sup>事</sup>ヲ以テ許諾シタルモノトス

伊第六十四條 若シ父母共ニ死亡セルカ若クハ其意望ヲ明言スル事能ハサル狀況アルニ於テハ則チ滿二十一歳ニ達セサル未丁年者ハ其祖父母ノ許可ヲ得ルニ非サレハ則チ婚姻ヲ締結スル事ヲ得ス若シ其祖父母ノ意見同一ナラサレハ則チ唯祖父ノ許可ヲ取ルノミチ以テ足レリトス○兩系屬族ノ意見同一ナラサレハ則チ婚姻ヲ許可セサル者トス

荷第九十三條 若シ父母共ニ既ニ死去シタル時又ハ其意ヲ表スル事能ハサル時ハ父方ノ祖父之ニ代ル可シ又其父方ノ祖父無キ時ハ母方ノ祖父ノ許諾ヲ受ク可シ、第九十四條 父方又ハ母方ノ祖父無キ時ハ父方ノ祖母ノ許諾ヲ要シ又父方ノ祖母無キ時ハ母方ノ祖母ノ許諾ヲ要ス

邊第三十三條 父母ノ許諾ヲ受クレハ祖父母ノ許諾ヲ受クルニ

及ハス父方ノ祖父母ノ許諾ヲ受クレハ母方ノ祖父母ノ許諾ヲ受クルニ及ハス<sup>而</sup>シテ父又ハ祖父ノ許諾ヲ受クレハ母又ハ祖母ノ許諾ヲ受クルニ及ハス、第三十四條許嫁ノ爲メ與ヘタル許諾ハ之ヲ與ヘタル人ノ死去シ又ハ其身分ヲ變更シタル時ト雖供婚姻ヲ施行スルニ充分ナリトス

英第九十八條 其父已ニ死去セシトキハ其後見人又ハ後見人ナキ時ハ其母ニシテ再嫁セサル者又ハ衡平裁判所ヨリ任命セシ後見人ハ其二十一歳ニ達セサル者ノ婚姻ニ許諾ヲ與フ可シ此許諾ヲ與フ可キ者ナキ時ハ其者ハ他人ノ許諾ヲ要セス其婚姻ヲ締結フ事ヲ得可シ

噓、果、魯 成文ナシ

第四十九條 父母及ヒ父系ノ祖父母悉ク死去シ又ハ其意ヲ表スル事能ハサル時ハ親族會ノ許諾ヲ受ク可シ

佛第六十條 二十一歳未満ノ男女ハ其父母及ヒ祖父母ノ共ニアラサル時又ハ共ニ其意ヲ明示スル事能ハサル時ハ親族會議ノ許諾ナクシテ婚姻ヲ契約スル事ヲ得ス

伊第六十五條 若シ父母養父母祖父母共ニ死亡セルカ或ハ此等ノ人カ其意見ヲ明言スル事能ハサル狀況ニ在ルニ於テハ則チ滿二十一歳ニ達スル未丁年者ハ親屬協會ノ許可ヲ得ルニ非サレハ則チ結婚スル事ヲ得ス

荷第九十五條前段 若シ父母又ハ祖父母無ク或ハ其父母又ハ祖父母其意ヲ表スル事能ハサル場合ニテ未タ丁年ニ達セサル嫡出ノ子ハ後見人及ヒ後見人ノ監察者ノ允許ヲ得ルニ非サレハ婚姻ヲ契約スル事ヲ得ス

暹第五十一條、魯第六條、我第四十七條參看

暹第三十五條第三十二條ニ舊記シタル人ノ一人父母無ク又ハ祖

父母無キ時或ハ彼等カ無能力者ナル時ハ後見人ノ許諾ヲ得可シ但シ後見人ハ後見管理人チシテ許諾ヲ與フル事ヲ允許セシム可キ者トス

英第百〇二條 父及ヒ後見人ナク又母ナキ二十一歳以下ノ者ハ其婚姻ニ許諾ヲ與フ可キ者ナキノ事ヲ爲スニ於テハ人ノ許諾ヲ要セス婚姻ヲ爲ス事ヲ得可シ○第百三條父又後見人母及ヒ此他ノ者才能ナキニ因リ又ハ英國內ニ在ラサルニ因リ幼者ノ婚姻ニ許諾ノ意ヲ表スル事ヲ得サルカ若クハ當然ノ理由ナク其婚姻ニ許諾ヲ與フル事ヲ肯ンセサル時ハ衡平裁判所ニ於テ此婚姻ヲ允許スルヲ得可シ

果、成文カシ

第五十條 父母又ハ父ノミニ對シテ親子ノ分限確定セル庶出子ハ其父ノ許諾ヲ得ルニ非サレハ婚姻ヲ爲ス事ヲ得ス

母ノミニ對シ親子ノ分限確定セル庶出子ハ其母ノ許諾ヲ受ク可シ  
右二項ノ庶出子ニ付テモ亦前二條ヲ適用ス

親子ノ分限確定セサル庶出子ハ親族會ノ許諾ヲ受ク可シ

佛第五百十八條 第四百十八條第四百十九條ニ記シタル成規及

ヒ第五百十一條第五百十二條第五百十三條第五百十四條第百

五十五條ニ定メタル場合ニ於テ父母ニ差出サ、ル可カラサル

恭敬ノ證書ニ關スル右條ノ成規ハ法律ニ從ヒ認定セラレタル

私生子ニ適用ス可キモノトス○第五百十九條認定セラレサル

私生子又ハ認定セラレタル後ニ其父母ヲ亡ヒシ私生子又ハ其

父母ノ其意ヲ明示スル事能ハサル私生子ハ滿二十一歳ノ齡ニ

至ラサル前ハ其私生子ノ爲メニ任シタル特別後見人ノ許諾ヲ

得タル後ニ非サレハ婚姻スル事ヲ得ス

伊第六十六條 第六十三條ノ條文ハ法律ノ認可ヲ得タル私生ノ

ノ子ニ擬施ス可ク若シ其父若クハ母若クハ父<sup>養</sup>母カ許可ヲ與フ  
ル事ヲ得サルニ於テハ則チ後見協會之ヲ許否ス○父母ノ認可  
ヲ得サル私生ノ子ノ婚姻ニ關シ若シ之ヲ養育スル者ナキニ於  
テハ則チ後見協會其許可ヲ與フ

荷第九十七條 私生ノ子幼年ノ時法律上ニ於テ其父ヨリ我子ナ

リト認メラレタル時ハ其父ノ允許ヲ受クルニ非サレハ婚姻ヲ

契約スル事ヲ得ス若シ其父無キ時ハ母ノ許諾ヲ受クルヲ必要

トス○第九十八條私生ノ子ノ未タ我子ナリト認メラル、事ナ

キ時ハ或ハ已ニ其父母ヲ喪ヒシ時ハ滿二十三歳ニ達セサル間

ハ後見人及ヒ後見人ノ監察者ノ允許ヲ得或ハ其後見人等ノ者

無キ時ハ治安裁判官ノ允許ヲ得ルニ非サレハ婚姻ヲ契約スル

事ヲ得ス

邊第三十六條 未丁年ナル私生子及ヒ邑ノ救助ヲ受クル者及ヒ

未タ自己ノ受ケシ施濟ヲ返還セサル者又ハ其子ノ適出タルト私生タルトテ問ハス邑ノ救助ヲ受クル者ハ邑ノ允許ヲ得スシテ婚姻ヲ爲スヲ得ス○第三十七條 父母祖父母後見人又ハ邑ノ故障ヲ述ヘサルトキハ其許諾ヲ爲シタル者ト思量ス可シ  
英第百一條 不適法ノ子ニシテ父母ヲ知ラサル者ハ衡平裁判所ヨリ任命セシ後見人ノ許諾ヲ受クルカ又ハ他人ノ許諾ヲ要セス後條ニ記スル所ノ規則ニ從ヒ婚姻公告ヲ爲シタル後又ハ此公告ノ免除ヲ得タル時ハ其婚姻ヲ爲スヲ得可シ  
噓、累、魯 成文ナシ

第五十一條 養子ハ婚姻ヲ爲スニ付第四十七條及ヒ第四十八條ニ從ヒ養家ノ父母祖父母ノ許諾ヲ請フ可シ實家ノ父母祖父母ノ許諾ヲ要セス  
養子ノ婚姻ニ付テモ亦第四十九條ヲ適用ス

民人ノ五四

伊第六十三條末項 養子ニテモ滿二十一歳ニ達セサル所ノ人ノ婚姻ニ關シテハ其父母ノ許可ヲ取ルノ外ニ尙ホ其養父ノ許可ヲ取ル事ヲ要ス  
佛、荷、噓、邊、累、英、魯 成文ナシ

第二節 婚姻前ノ法式

第五十二條 婚姻ノ公式ヲ行フノ前身分取扱人ハ婚姻ノ公告ヲ爲ス可キモノトス

公告ハ雙方其父其後見人又ハ此等ノ者ノ特別代理人ノ請求ニ依リ之ヲ爲ス可シ

佛第六十三條前段 身分取扱役ハ婚姻ヲ行ハシムル前ニ其邑廳ノ門前ニ八日ヲ隔テ二次ノ公告ヲ爲ス可シ

荷第百七條 全シ

伊第七十條前段 婚姻ノ禮式ヲ執行スル以前ニ於テ掌書吏ハ二  
次ノ公告ヲ爲サ、ル可カラス○第七十三條公告ハ双方ノ結婚  
者其父其後見人若クハ特別ニシテ公正ナル代任ヲ帯ヒタル人  
ニ因テ請求セラル、者トス○第五十四條ニ照准シテ締結シタ  
ル婚姻ノ約束ハ其公告ヲ爲ス事ヲ請求スルニ足ル者トス  
英第一百條初段 夫婦トナル可キ者ハ婚姻公告ヲ爲ス可キ以前  
七日間ニ民生證書ノ官吏ニ其旨ヲ稟告ス可シ  
累第一百條 本州ノ「パロワス」中ノ一ニ住居スル僧官ハ其「  
パロワス」中ニ婚姻ヲ公告スルノ權ヲ有ス可シ○第一百二條○  
第一百二條「パロワス」ノ裁判官ハ一人又ハ數人ノ治安裁判官  
ヲシテ己レノ管轄内ニ於テ婚姻ヲ公告セシムル事ヲ得可シ  
○第一百三條 如何ナル婚姻ニ管スルヲ問ハス「パロワス」ノ  
裁判官ヨリ僧官又ハ婚姻ノ公告ヲ負擔ス可キ治安裁判官ニ特

民人ノ五五

別ノ允許ヲ送達スルニ非サレハ其公告ヲ爲ス事ヲ得ス  
魯第二十五條 結婚セント欲スル者ハ己レカ檀家ノ司祭ニ書狀  
或ハ言辭ヲ以テ己レカ姓名官位及ヒ族類並ニ己レノ命婦ノ姓  
名及ヒ族類ノ事ヲ告知セサル可カラス  
邊、噓 成文ナシ  
第五十三條 公告ハ身分取扱役所ノ門前ニ公告書ヲ滿五日間揭示ス  
ルモノトス  
公告書ニハ雙方ノ氏名年齢族稱職業其出生地住所及ヒ居所其父母  
ノ氏名族稱職業及ヒ住所又ハ居所婚姻ノ公式ヲ行フヘキ地并ニ公  
告ノ年月日ヲ記載ス可シ  
此外特例婚姻及ヒ婚姻ニ由ル縁組ニ關スル時ハ公告書ニ其旨ヲ記  
載ス可シ

佛第六十三條 二段以下 其公告書及ヒ其公告ニ付キ作ル可キ

證書ニハ夫婦ト爲ラントスル者ノ姓名職業住所及ヒ其成年又ハ幼年タルノ分限ト其父母ノ姓名職業住所トヲ記ス可シ○其證書ニハ右ノ外公告ヲ爲シタル日場所及ヒ時ヲ記シテ一通ノ簿冊ニ之ヲ記入ス可シ但シ其簿冊ハ第四十一條ニ記シタル如ク番號ヲ附シ及ヒ花押ヲ付シテ毎年ノ末ニ其郡ノ裁判所ノ書記局ニ之ヲ藏ム可シ○第六十四條前段第一次ノ公告ヨリ第二次ノ公告迄ノ八日間ハ其公告證書ノ拔書ヲ邑廳ノ門ニ貼付シ置ク可シ

荷第百七條第百十條 全シ

伊第七十條末段 此公告ハ結婚セント欲スル人ノ姓名職業并ニ其出生及ヒ居所ト其父母ノ姓名職業及ヒ居所トヲ掲記ス○第七十二條此公告ハ連二週ノ日曜日ニ於テ邑廳ノ門戶外ニ之ヲ揭示ス○第一次ノ公告ト第二次ノ公告トノ間之ヲ掲存シ第二

次ノ公告ノ以後ト雖供尙ホ三日ノ間之ヲ掲存ス

噓第五十五條前段 婚姻ヲ爲サントスル双方ノ者ハ神前ニ於テ婚姻ノ式ヲ行フノ日日曜日ノ大供養ノ時間八日目毎ニ三次ノ公告ヲ其婦ノ住スル教區内ニ爲サシム可シ

邊第五十一條前項 何レノ婚姻タリト雖供許婚者双方ノ住スル地ノ寺院ニ於テ拜神ノ後引續キ三度ノ日曜日ニ三度ノ公告ヲ爲シタル後ニ非サレハ契約スル事ヲ得ス

魯第二十六條 斯ノ如キ告知ニ由テ最近ノ三日曜及ヒ日曜中ニ當ル祭日ニ拜神ノ後寺院ニ於テ結婚セント欲スル者ヲ公告ス而シテ後ニ僧管廳ヨリ定メタル規則及ヒ此條ニ追加シタル法式ニ據テ婚姻證書ヲ作爲ス可シ若シ又命婦ハ他ノ檀家ニ屬スル時ハ其檀家ノ寺院ニ於テ結婚セント欲スル者ヲ公告ス可シ

累、英 成文ナシ

第五十四條 公告ハ雙方ノ居所ノ地並ニ住所ノ地ニ於テ之ヲ爲ス可シ但シ重大ノ事由アルトキハ地方裁判所檢察ハ公告ノ日限及ヒ婚姻ノ公式ヲ行フ地外ノ公告ヲ免除スル事ヲ得

身分取扱人ハ雙方ノ定メタル當日ニ公告ヲ爲ス可シ

佛第六十六條 身分證書ノ卷第六十三條ニ定メタル二次ノ公

告ハ契約ヲ爲ス双方各自ノ其住所ヲ有スル地ノ邑廳ニ於テ之ヲ爲ス可シ○第六十七條然レ供若シ六月間ノ居住ノミヲ以テ

現在ノ住所ヲ設定シタル時ハ右ノ外最終ノ邑廳ニ於テモ其公告ヲ爲ス可シ○第六十八條若シ契約ヲ爲ス双方ノ者又ハ其一方ノ者カ婚姻ニ關シテ他人ノ威權ノ下ニアル時ハ其威權アル者ノ住所ノ邑廳ニ於テモ亦公告ヲ爲ス可シ○第六十九條國王又ハ其時ニ委任シタル官吏ハ重要ノ原由ノ爲メ第二次ノ公告ヲ免除スル事ヲ得可シ

民人ノ五七

荷第八條、第九條、第十一條同シ、佛第六十八條ヲ除ク

伊第七十三條 此公告ハ双方ノ結婚者カ其居所ヲ占定セル本邑ニ於テ之ヲ爲サ、ル可カラス○若シ現時ノ居所ニ在ル未タ一年ニ滿タサルニ於テハ則チ其從前居所ヲ占定セル本邑ニ於テモ亦必ス此公告ヲ爲サ、ル可カラス○第七十八條國王若クハ管轄廳ハ至重ナル理由ニ對シテ二次ノ公告ノ其一ヲ認免スル事ヲ得可シ此時會ニ於テ其一次ノ公告ニ於テ公言ヲ包載ス此公言ヲ以テ確實ニ結婚者及ヒ其父母ノ姓名職業居所ヲ指示シ并ニ結婚者ノ出生セシ土地及ヒ年月日ト其產生證書ヲ供出シ能ハサルノ理由ト各證人ノ之ヲ知悉セルノ原委ヲ指示ス

第五十五條末段 但シ王ハ此法式ヲ除免スルヲ得ルノ權有リ邊第五十一條末項 若シ夫婦中ノ一方現今ノ住所ニ八十日間定

居セサル時ハ従前ノ住所ニ於テモ亦婚姻ノ公告ヲ爲ス可シ  
累第四百四條末項 若シ婚姻ヲ結フ事ニ付急速ニシテ且ツ重大ナル事アルトキハ裁判官ノ意見ニ因リ其公告ヲ爲ス事ナシ  
英第一百十條中疊以下 而シテ此稟告ヲ爲ス以前少クモ七日間其婚姻ヲ行ハントスル所ノ郡内ニ住居ヲ爲ス可シ然供夫婦タラントスル者其婚姻ヲ行フニ至ル迄ノ十四日間住居セル場所ノ外他ノ場所ニ於テ婚姻<sup>公</sup>ヲ爲スニ及ハサル可クシテ又婚姻ヲ行フタル後ハ此住居ニ付爭論ナカル可シ、第一百十一條 婚姻公告ノ免除ヲ得タル者ハ其數次ノ公告ヲ爲サス又ハ民生證書ノ官吏ニ其旨ヲ稟告セスシテ婚姻ヲ行フ事ヲ得可シ  
魯 成文ナシ  
第五十五條 婚姻ノ公式ハ其公告ノ日限ヲ過キタル後ニ非サレハ之ヲ行フ事ヲ得ス

民人ノ五八

但シ公告ヲ免除シタルトキハ格別ナリトス  
佛第六十四條末段 婚姻ハ第二次ノ日ヲ除キテ其日ヨリ第三日ニ至ラサル前ニ之ヲ行フ事ヲ得ス  
伊第七十六條 婚姻ノ禮式ハ第二次ノ公告ヲ爲スヨリ四日ノ以後ニ非サレハ則チ之ヲ執行スル事ヲ得ス  
邊第五十七條 神前ニ於テノ婚儀ハ最終ノ公告ヨリ八十日內ニ之ヲ行フ可カラス若シ之ヲ行フニ於テハ新ニ公告ヲ爲サ、ル可カラス

魯第三十二條 法律ニ定メタル婚姻公告及ヒ其他ノ豫戒規則ヲ遵守セスシテ婚禮ヲ行フニ付キ魯教ノ司祭並ニ他<sup>聖教ノ</sup>ノ司祭ハ刑法第一千五百七十七條ニ確定シタル罰ニ處セラル可シ

噫、累、英 成文ナシ

第五十六條 公告日限ノ後六ヶ月ヲ過キタル時ハ更ニ公告ヲ爲スニ



非サレハ婚姻ノ公式ヲ行フ事ヲ得ス

佛第六十五條 若シ公告期限ノ終リシトキヨリ起算シテ一年内ニ婚姻ヲ行ハサル時ハ前ニ定メタル法式ヲ以テ更ニ公告ヲ爲シタル後ニ非サレハ最早婚姻ヲ行フ事ヲ得ス

荷第一百十二條 全シ

伊第七十七條 若シ婚姻公告ノ以後百八十日ノ期間ニ在テ婚姻ノ禮式ヲ執行セサルニ於テハ則チ其公告ハ無効ニ歸ス

噠第五十七條 寺院ニ於テ公告ヲ爲セシヨリ三ヶ月内ニ婚姻ヲ行ハサルトキハ更ニ又公告ヲ爲セシ後婚姻ヲ行フ可シ  
邊、果、魯、英 成文ナシ

第五十七條 婚姻ノ公式ヲ行フ前雙方左ノ書類ヲ身分取扱人ニ差出ス可シ

一 出生證書ノ謄本

二 前婚ノ解離ヲ證スル死去證書又ハ裁判宣告書ノ謄本

三 尊屬親若クハ親族會ノ許諾書并ニ尊屬親ノ死去シ又ハ其意ヲ表スル能ハサル事ヲ證スル書類

四 婚姻公告ノ證明書又ハ公告ニ關スル免除書

五 故障ナキノ證明書又ハ故障排斥ノ判決書ノ謄本

佛第六十七條末段 又故障解除ノ副本又ハ故障解除ノ證書ノ副本ヲ受取りタル時ハ之ヲ其故障ヲ申述ノ記入ノ論ニ記ス可シ

○第六十九條故障ノ申述アラサルトキハ其由チ婚姻證書ニ記ス可シ若シ又數邑ニ於テ婚姻ノ公告ヲ爲シタル時ハ各邑ノ身分取扱役ヨリ故障ノ申述ノ存在セサル旨ヲ證明スル爲メニ渡シタル保證書ヲ婚姻ヲ行ハントスル者ヨリ差出ス可シ○第七十條前段身分取扱役ハ夫婦トナラントスル双方各自ノ出生證書ヲ差出サシム可シ

伊第七十四條 婚姻ニ關シテ先親々屬協會ノ許可ヲ取ル事ヲ要スルノ時會ニ在テハ掌籍吏ニ向テ其許可アリシ事ヲ證明スルニ非サレハ則チ掌籍吏ハ其公告ヲ爲ス事ヲ得ス○第七十九條 結婚者ハ其結婚ノ禮式ヲ執行スル本邑ノ民籍局ニ向テ次項ノ文書ヲ供出セサル可カラス○產出證書ノ謄本○前次ノ婚姻ノ解離若クハ其無効ヲ證明スル宣告書若クハ配偶者ノ死亡證書○法律ニ因テ必要スル先親々屬協會若クハ後見協會ノ許可ヲ得タル事ヲ證徴スル證書○現實ニ公告ヲ爲シタリ證書若クハ其認免ヲ得タル證書○其他文書ニシテ諸般ノ時會ニ於テ結婚者ノ身分ヲ證明スルニ必要ナル文書

荷第二百二十六條 身分證書ノ官吏ハ夫婦ト爲ラント欲スル双方ノ者ヲシテ婚姻ヲ行ハシムル前ニ左ニ記シタル如キ證書ヲ差出サシム可シ○第一佛第七十條第一項ニ同シ○第二佛第七十

民人ノ六〇

三條全シ而シテ婚姻ノ許諾ノ事モ亦婚姻ノ證書ノ中ニ記ス可シチ加フ○第三必要ノ時ハ治安裁判官ノ勸解ヲ確證スル證書○第四再婚ノ時ハ先ノ配偶者ノ死去ノ證書或ハ離婚ノ證書又ハ配偶者ノ失踪センニヨリ再婚ノ允許ヲ受ケタル時ハ其允許狀ノ寫○第五婚姻ノ許諾ヲ爲セシ者ノ死去ノ證書

噠、邊、粟、魯、英 成文ナシ

第五十八條 雙方又ハ一方其出生證書ヲ呈示スル事能ハサルトキハ其出生ノ地住所若クハ居所ノ區裁判所判事ノ授付シタル保證書ヲ以テ出生證書ニ代用スル事ヲ得

保證書ハ男女ヲ問ハス又血族ト否トヲ問ハス三名ノ證人左ノ諸件ニ付區裁判所判事ニ爲シタル申述ヲ記載ス

一 本人ノ氏名族稱職業住所及ヒ居所並ニ其父母分明ナルトキハ其氏名族稱職業住所及居所

二 本人出生ノ地並ニ年月日

三 本人出生證書ヲ呈示スル事能ハサル原因及ヒ證人其事實ヲ聞知シタル緣由

佛第七十條末項 其雙方ノ中ニテ出產證書ヲ得ル事能ハサル者ハ其出產ノ地ノ治安裁判官及ハ其住所ノ治安裁判官ヨリ渡シタル事實公認ノ證書ヲ出シテ其出產證書ノ缺ヲ補フ事ヲ得可シ第七十一條事實公認ノ證書ニハ男又ハ女タルト血屬親タルト血屬親タラサルトチ問ハス證人七名ノ其夫婦トナラントスル者ノ姓名職業住所及ヒ知ルヲ得可キニ於テハ其父母ノ姓名職業住所ニ付キ爲シタル申述ヲ記シ且ツ其夫婦トナラントスル者ノ出產ノ地及ヒ成ル可キ丈ハ其出產ノ時期ト出產證書ヲ出ス事能ハサル理由トヲ記ス可シ○其證人ハ治安裁判官ト共ニ事實公認ヲ證書ニ署名ス可ク若シ其

證人中ニ署名スル事能ハス又ハ署名スル事ヲ知ラサル者アル時ハ其旨ヲ記ス可シ○第七十二條事實公認ノ證書ハ婚姻ヲ行フ可キ地ノ治安裁判所ニ之ヲ差出ス可シ○其裁判所ニ於テハ檢事ノ意見ヲ聽キタル後其證人ノ申述ト出產證書ヲ出ス事能ハサル理由トヲ充分ナリト思フトキハ其認可ヲ與ヘ又不充分ナリト思フ時ハ其認可ヲ否拒ス可シ

伊第八十條 若シ結婚者ノ一人カ其產出證書ヲ供出スル事能ハサルニ於テハ則チ其出生セシ土地若クハ其住所ノ管轄法衙ノ檢事ノ面前ニ於テ錄製スル保證書ヲ以テ之ニ換代スル事ヲ得可シ○此保證書ハ五名ノ證人公言ヲ包載ス此公言ヲ以テ確實ニ結婚者及ヒ其父母ノ姓名職業居所ヲ指示シ并ニ結婚者ノ出生セシ土地及ヒ年月日ト其產出證書ヲ供出シ能ハサルノ理由ト各證人ノ之ヲ知悉セルノ原委トヲ指示ス

荷第二百二十七條、佛第七十條末段第七十一條全シ但シ七人ノ證人ヲ五人トナシ而シテ出產ノ證書無キトキハ婚姻ノ證人又ハ婚姻ヲ爲サント欲スル男子誓文ヲ作りテ出產ノ證書又ハ事實公認ノ證書ヲ得ル事能ハサル旨ヲ確證スル申述ヲ爲シ以テ其出產ノ證書ノ缺ヲ補フ事ヲ得可シト加フ  
噠、邊、魯、英 成文ナシ

第五十九條 尊屬親ハ自身出席シテ許諾ヲ與フル場合ノ外本人并ニ其配偶スヘキ他ノ一方ノ氏名族稱職業住所又ハ居所ヲ明記シタル公正證書ヲ以テ許諾ヲ與フ可シ且ツ其許諾書ニハ許諾ヲ與フル者ノ氏名族稱職業住所及ヒ其親等ヲ記載ス可シ  
親族會ノ許諾ハ右同一ノ記載アル決議書ヲ以テ之ヲ證ス可シ

佛第七十三條 父母又ハ祖父母ノ許諾ヲ爲ス公正ノ證書又父母及ヒ祖父母ノアラサル時ハ親族ノ許諾ヲ爲ス公正ノ證書ニハ

民人ノ六二

夫婦トナラントスル者ノ姓名職業住所及ヒ其證書ニ參加シタル各人ノ姓名職業住所ト其血縁ノ級等トヲ記ス可シ

伊第八十一條 若シ先親カ自己親カラ掌籍吏ノ面前ニ在テ其許可ヲ懇與ヘサルニ於テハ則チ此許可ヲ必要スル結婚者及ヒ他ノ一方ノ結婚者ノ申明ヲ掲記スル公正證書ヲ以テ此許可ニ代用スル事ヲ得可シ○此證書ニハ必ス許可ヲ與フル人ノ姓名職業居所及ヒ其等親ヲ掲記ス親屬協會若クハ後見協會ノ許可ハ其情況ヲ掲記セル協議書ヨリ成立スル者トス

累第一百五條 裁判官ハ婚姻ノ允許ヲ爲ス前將來夫タル可キ者ヲシテ其婚姻ニ付毫モ故障ナキヲ擔保ヒシメシカ爲メ其費力ニ応シテ證人タル者ト連帶シテ保證金ヲ出サシム可シ○此保證金ヲ預リ置ク期限ハ二年間トス

荷、噠、魯、英、邊 成文ナシ

第三節 婚姻ノ故障

第六十條 父母其他尊屬親ハ其却諾ヲ與フヘキ順序ニ從ヒ婚姻ヲ爲スヘキ卑屬親ノ年齢ニ拘ハラス其婚姻ニ故障ヲ爲ス事ヲ得

佛第七十三條 父又父ナキトキハ母又母<sup>父</sup>共ニアラサルトキハ祖父母ヨリ假令ヒ其子及卑屬親ノ滿二十五歳ニ至リシトキト雖トモ其婚姻ニ付故障ヲ爲ス事ヲ得可シ

伊第八十二條 父母若クハ祖父母ハ假令ヒ其男子男孫カ滿二十歳ニ達シ其子女女孫カ滿二十一歳ニ達スト雖トモ若シ法律上ニ於ケル婚姻ノ障礙ト爲ル可キ理由ノ存在スル有ルニ於テハ則チ其婚姻ヲ妨阻スル事ヲ得可シ

荷第一百十六條 父又父ナキトキハ其母左ノ諸件ニ因テ故障ヲ申述スルコトヲ得可シ第一幼年ノ子ニシテ必要ナル許諾ヲ得サ

ルトキハ第二未タ三十歳ニ達セサル丁年ノ子ノ第九十九條ニ規定シタル和解ノ訴ヲ治安裁判官ニ爲サ、ル時第三無能力ナルニ因リ治産ノ禁ヲ爲ス可キ訴アルトキ第四婚姻ヲ爲サントス双方ノ者ノ中一方ノ者此卷ノ第一款ニ原ツキ婚姻ノ契約ヲ爲スニ必要ノ身分タラサル時第五其子ト婚姻ノ契約ヲ爲サントスル者刑法上ノ訴ヲ受ケ又ハ處刑ヲ受ケタル時第六必要ノ公告ヲ爲サ、ル時第七浪費ヲ爲シタルニヨリ治産ノ禁ヲ受ケタル子ハ其產ヲ領ルニ至ル可キ婚姻ヲ爲ントスル時○第一百七條父母共ニナキ時ハ其祖父母前條ノ第一第二第三第四第五第六第七ノ諸項ニ記シタル原由ノ爲メニハ其孫子ノ婚姻ニ故障ヲ申述スル事ヲ得可シ○右ノ原由ニ管スル故障ハ第九十三條及ヒ第九十四條ヲ循守シテ之ヲ爲ス可シ

嘩第六十條 婚姻ニヨリ自己ノ特別ナル權利ヲ妨害セラレタル

者ハ總テ其婚姻ニ付故障ヲ述ルノ權利有リ而シテ此權利ハ幼年者ヲ監守ス可キ義務アル父母及ヒ管財人共ニ之ヲ有スル者トス

邊第六十四條 左ノ各人ハ婚姻ノ執行ニ故障ヲ述フルノ權利アリ第一第三十一條ニ記載シタル人ニ關スル時ハ此等ノ人ノ血屬親及ヒ此等ノ人ニ屬スル邑第二官廳及ヒ第三十二條乃至第四十條ニ因リ承諾ヲ必要トスル所ノ人但シ第三十二條ニ記載シタル各人ノ中ニテ其承諾アレハ他ノ承諾ヲ無益ト爲サシムル所ノ者而已故障ヲ述フル事ヲ得可シ

累第一百四十四條 父母承諾ナキトキト雖トモ法律上ニ規定セル法式ニ從ヒ未定年者婚姻ノ契約ヲ結ヒシ時ハ無効ト爲ス可カラス但シ父母ノ承諾ナキ事ヲ其父母ノ至當ト思考スルトキハ之ヲ以テ其婚姻ヲ結ヒシ子ニ財產ヲ相續セシメサル正當ノ理由

トナス事ヲ得可シ

英第一百十三條第一項 婚姻ニ付承諾ヲ與フヘキ者ハ婚姻ヲ爲サントスル者未タ婚約ニ滿タサルノ事ヲ以テ此婚姻ニ故障ヲ述フル事ヲ得可シ

魯 成文ナシ

第六十一條 後見人ハ未成年者カ親族會ノ承諾ヲ得スシテ婚姻セントスル時ハ其婚姻ニ故障ヲ爲ス事ヲ得

又親族會ハ代理人ニ委任シテ其婚姻ニ故障ヲ爲サシムル事ヲ得

佛第七十四條 尊屬親ノアラサルトキハ成年ノ兄弟姉妹伯叔父母從兄弟姉妹ハ左ノ二ケノ場合ニ非サレハ毫モ故障ヲ爲ス事ヲ得ス第一第六十條ニ於テ必要ナリト定メタル親族會議ノ承諾ヲ得サル時第二婚姻ヲ爲ントスル者ノ狂瀾ノ景狀ニ據リ其故障ヲ爲ス時但シ其故障者ヨリ治産禁ヲ受ケシムルノ

訴ヲ爲シ且ツ裁判ニ依リ定ム可キ期限内ニ其裁定ヲ爲サシム  
ルノ責任アルニ非サレハ決シテ其故障ヲ受理ス可カラス又裁  
判所ハ其故障ノ單純ナル解除ヲ宣告スル事ヲ得可シ○第七  
十五條前條ニ記シタル二箇ノ場合ニ於テ後見人又ハ管財人ハ  
其ノ後見又ハ管財ノ繼續スル間ハ親屬會議ヨリ許可セラレタ  
ル上ニ非サレハ故障ヲ爲ス事ヲ得ス但シ後見人又ハ管財人ハ  
親屬會議ヲ招集スル事ヲ得可シ

伊第八十三條 次項ノ時會ニ當テ若シ絶ヘテ先親ノ限在スル者  
ナキニ於テハ則チ兄弟姉妹伯叔父母及ヒ丁年ノ從兄弟ハ婚姻  
ノ妨阻ヲ爲ス事ヲ得可シ第一項第六十五條ニ掲記スル許可ヲ  
欠クノ時會第二項結婚者ノ一方カ失心セルノ時會○八十四條  
前條ノ時會ニ在テハ親屬協會ノ認可ヲ得タル後見人若クハ副  
後見人モ亦婚姻ヲ妨阻スル事ヲ得可シ

民人ノ六五

荷第一百十八條 祖父母無キニ因リ其兄弟姉妹叔父伯母後見人及  
ヒ後見人ノ監察者等ノ其婚姻ノ故障ヲ申述スル事ヲ得可キト  
キハ左ニ記列ス第一第九十五條及ヒ第九十八條ニ因テ爲ス可  
キ法式ヲ遵守セサルトキ第二第一百十六條ノ第三第四第五第六  
ノ諸項ニ記シタル場合ノ時

噫第六十條、邊第六十四條我第六十條參看  
果、魯、英 成文ナシ

第六十二條 重婚セントスル者ノ配偶者ハ其婚姻ニ故障ヲ爲スコト  
ヲ得  
配偶者其意ヲ表スルコト能ハサルトキハ尊屬親故障ヲ爲スコトヲ  
得

佛第七十二條 婚姻ヲ行フニ付故障ヲ爲スノ權利ハ契約ヲ爲  
ス双方中ノ一方ト婚姻ニ依リ結束セラレタル者ニ屬ス

荷第百十五條 全シ及ヒ其結婚ニ因テ生レタル子ニ屬ス可シチ  
加フ

伊第八十五條 更ニ結婚セント欲スル人ノ配偶者モ亦其結婚チ  
防阻スルノ權理チ有ス

英第百十三條第二項 然レ供何人タルチ間ハス前婚チ絶タスシ  
テ更ニ婚姻チ結フ者アルトキ又ハ夫婦タラントスル者一方ニ  
精神昏亂ノ現狀又ハ亂倫ノ事アル時ハ之チ原因トナシ其婚姻  
ニ故障チ述フル事チ得可シ  
噎、邊、果、魯 成文ナシ

第六十三條 第四十二條ニ違背シテ寡婦再婚セントスルトキハ亡夫  
ノ尊屬親及ヒ相續人ハ其婚姻ニ故障チ爲ス事チ得  
離婚又ハ婚姻無効ノ場合ニ於テ婦四个月内ニ再婚セントスルトキ  
ハ前夫ハ其婚姻ニ故障チ爲ス事チ得若シ前夫死去シ又ハ其意チ表

スルコト能ハサルトキハ尊屬親及ヒ相續人ハ故障チ爲スコトチ  
得

伊第八十六條 未亡人カ第五十七條ニ違背シテ結婚ヒシト欲ス  
ルノ時會ニ在テハ其夫タリシ者ノ最近先親及ヒ其他ノ親屬ハ  
其婚姻チ防阻スルノ權理チ有ス○前次ノ婚姻カ無効ト爲レル  
ノ時會ニ在テハ婚姻チ防阻スルノ權理ハ其結婚ヒシ所ノ人ニ  
歸屬ス

荷第百十九條 離婚シタル夫ハ其婚姻解除ノ後滿十八箇月前ニ  
婦ノ再婚チ契約セントセハ其故障チ申述スルコトチ得可シ  
佛、噎、邊、果、魯 成文ナシ

第六十四條 檢事婚姻ノ公式チ行フノ妨礙ト爲ルヘキ法律上ノ原由  
チ闡知シタルトキハ其婚姻ニ故障チ爲ス可シ

伊第八十七條 檢事ハ婚姻ノ障礙アルコトチ知ルニ於テハ則チ



之レカ妨阻ヲ爲サ、ル可カラス

荷第二百十條 檢察官ハ第八十四條ヨリ第九十一條ニ記シタル  
場合ニ於テハ婚姻ノ故障ヲ申述ス可シ

邊第七十三條 婚姻裁判所ニ於テ公ケノ安寧ノ障碍タルコトヲ  
知ルトキハ之ヲ調査シ且職權ヲ以テ之ヲ審判セサル可カラス  
魯第二十七條 婚姻ノ公告ニ因テ婚姻ニ故障アルコトヲ承知ス  
ル諸人ハ猶豫ナク及ヒ寺院ニ於テ爲シタル三公告ノ最后ノ公  
告ニ必ス後ル、コトナク其事ヲ司祭ニ告知ヒサル可カラス  
佛、噠、果、英 成文ナシ

第六十五條 婚姻ノ故障書ニハ故障者ノ身分ト尊屬親ヲ除クノ外故  
障ヲ爲ス法律上ノ原由トチ明記シ並ニ婚姻ノ公式ヲ行フヘキ地ニ  
臨時住所ヲ撰定シタルコトヲ記載ス可シ之ニ違フトキハ其故障ハ  
無効トス

民人ノ六七

佛第七十六條 凡テ故障申述ノ證書ニハ其故障ヲ爲スノ權利  
ヲ故障者ニ附與スル分限ト婚姻ヲ行ハサル可カラサル地ニ於  
ケル住所ノ撰定トチ記ス可ク又尊屬親ノ請求ニ依リ故障申述  
ノ證書ヲ作りタルトキノ外ハ亦其故障ノ理由ヲ記セサル可カ  
ラス若シ此成規ニ背クトキハ其故障ノ効ナカル可ク且ツ其故  
障申述ノ證書ニ署名シタル裁判所附役員ハ停職セラル可シ  
伊第八十八條 婚姻妨阻ノ斷牒ニ妨阻ヲ爲ス所ノ人ノ身位妨阻  
ノ理由及ヒ婚姻禮式ヲ執行スル本裁判官轄區内ノ某邑ニ擇定  
セル住所トチ包載ス

荷第二百二十二條 故障ノ證書ニハ其故障ヲ生セシ原由ヲ記ス可  
シ其故障ヲ申述ヒシ後ニ生レタル原由ハ之ヲ漸次申述スル事  
ヲ得可シ

邊第六十五條 故障ハ婚姻公告ヲ停止シ公告ノ證券ヲ渡サシメ

サル爲メ及ヒ神前ニ於テ婚儀ヲ行ハシメサル爲メ夫婦中一方ノ住スル地ノ法教師ニ渡ス所ノ願書ヲ以テ之ヲ爲ス可シ○第六十六條初段 此願書ニハ故障ノ理由ヲ記セサル可カラス英第百十三條末項 此種々ノ場合ニ於テハ寺院ニ於テ婚儀ヲ行フノ際口述ニ因リ故障ヲ述フルカ又ハ民生證書ノ官吏ノ管掌スル婚姻表記簿冊ニ就キ書面ヲ以テ故障ヲ述フルコトヲ得可シ○全第百十四條口述ヲ以テ婚姻ニ故障ヲ述フル者ハ一クレルリ一ヨリ需メテ受クルニ於テハ之レニ己レカ姓名身分等及ヒ其故障ノ原由ヲ申述フ可シ又婚姻表記簿冊ニ就キ書面ヲ以テ故障ヲ述フル者ハ己レカ住所身分ヲ示指シ及ヒ己レカ姓名ヲ手署ス可シ○又代人ヲ以テ教門裁判所へ婚姻ノ故障ヲ述ル事ヲ得可シ

噫、累、魯 成文ナシ

第六十六條 故障書ハ執達吏ヲ以テ雙方并ニ婚姻ノ公式ヲ行フヘキ身分取扱人ニ送達ス可シ身分取扱人ハ其正本ニ認印シ且ツ即時ニ公告簿ノ欄外ニ簡略ノ記載ヲ爲ス可シ

佛第六十六條 婚姻故障申述證書ノ正本及ヒ寫ハ其故障申述者又ハ特別ニシテ且ツ公正ナル委任狀アル代理人之レニ署名ス可シ但シ其證書ハ委任狀ノ寫ト共ニ双方ノ者自身又ハ其住所ト身分取扱役トニ送達シ身分取扱役ハ正本ニ其檢署ヲ爲ス可シ○全第六十七條上段身分取扱役ハ公告書ノ簿冊ニ故障ノ申述ヲ遅延ナク簡略ニ記載ス可シ

伊第八十九條 婚姻妨阻ノ訴牒ハ尋常訴牒ノ禮式ヲ用ヒ以テ結婚者及ヒ其婚姻禮式ヲ執行ス可キ掌籍吏ニ報送ス

邊第六十七條 法教師ハ右ノ願書ヲ受取り婚姻公告ヲ停止スルカ爲メ婚姻公告ヲ爲ス可キ他ノ法教師ニ其願書ヲ爲シ且其一

通ハ婚姻裁判所ニ送付シ他ノ一通ハ夫婦双方ノ要スル時之ヲ送付ヒサル可カラス

荷、噤、累、魯、英 成文ナシ

第六十七條 故障ヲ爲スノ權利ヲ有スル者適法ニ故障ヲ爲シタルトキハ身分取扱人ハ故障ノ隨意取消又ハ排斥ノ裁判確定マテハ婚姻ノ公式ヲ停止ス可シ

佛第六十八條 故障申述ノ場合ニ於テハ身分取扱役其故障解除ノ書面ヲ受取ラサル前ニ婚姻ヲ行ハシムルコトヲ得ス若シ之レニ背クトキハ三百「フランク」ノ罰金ト總テノ損害賠償トヲ言渡サル可シ

荷第二百二十五條 全シ

伊第九十條 法律ニ掲載スル理由ニ依據シテ其權利ヲ有スル人ノ行用スル婚姻ノ妨阻ハ既決裁判ノ宣告ニ於テ其妨阻ヲ認可

ヒサルニ至ル迄ハ婚姻儀式ノ執行ヲ假停ス

噤第六十二條 婚姻ニ付故障ノ起リタルトキハ其故障ヲ除去ス可キ旨ヲ命セラレタル後ニ非サレハ僧官ハ決シテ其婚姻ノ式ヲ行フ事ヲ得ス

邊第五十五條 前二條ノ場合ニ於テ法教師ハ此等ノ告知ヲ婚姻裁判所ニ通知ヒサル可カラス而シテ公告ヲ繼續スル前若クハ公告ヲ爲シタル證券ヲ交付スル前ニ其裁判所ノ決議ヲ待タサル可カラス

累第八八條 婚姻ヲ結フニ付故障ヲ述フル者アル場合ニ於テ其故障ヲ述フル者ノ誓ト裁判官ノ意見ニテ婚姻ノ中止ヲ言渡スニ充分ナル道理トヲ以テ故障ノ證據ト爲シタルトキハ夫婦タラントスル者ニ其故障ヲ通達シ裁判官ハ夫婦タラントスル者ト故障ヲ述ヘタル者トノ申立ヲ聽ンカ爲メ裁判所ニ出頭ス可

キ日ヲ示ス可シ

魯第二十九條 若シ婚姻公告或ハ婚姻證書ニ據テ正當ナル故障ノ顯ハル、トキ或ハ此ノ如キ故障ハ既ニ婚禮ヲ行フノトキニ於テ顯ハル、トキニ司祭ハ婚禮ヲ行フヲ止メテ以テ其事ヲ地方ノ主教ニ告知ス而シテ若シ主教ハ自ラ之ヲ裁決スル事能ハサル時ハ聖會署ノ見込ニ之ヲ供ス可シ

英 成文ナシ

第六十八條 故障ノ隨意取消ハ故障者自身婚姻ノ公式ニ出席シ若クハ公證人ノ證書ヲ以テ之ヲ爲ス事ヲ得

故障排斥ノ訟求ハ始審并ニ控訴ニ於テ其訟求ヨリ十日内ニ審理ヲ始ム可シ

佛第七十七條 始審裁判所ハ故障解除ノ訟求ニ付十日内ニ宣告ス可シ○第七十八條控訴アリタル時ハ呼出ヨリ十日内ニ

民人ノ七〇

之ヲ裁定ス可シ

果第九條同シ

荷第二百三十三條 婚姻ノ故障及ヒ其故障ヲ除去セントスル訴訟ノ法式ハ訴訟法ニ詳カナリ

噠第六十一條 父母又ハ管財人ヨリ婚姻ノ故障ヲ述フルトキハ裁判官ハ其訟求ノ適法ナルヤ否ニ付裁判ノ言渡ヲ爲ス可シ  
○婚姻ヲ爲スニ付テノ法式及ヒ要件ヲ履行ヒサリシカ爲メニハ其婚姻ヲ無効ノ者ト爲ス事ナシ

邊第六十八條 婚姻裁判所ハ夫婦及ヒ故障者ヲ呼出シ故障ノ効アリヤ否ニ付キ簡短ナル訴訟手續ヲ爲シタル後直ニ宣告ヲ爲ス可シ

英第一百十六條 若シ民生簿册管守者其故障申述ニ言渡ヲ爲サス又ハ不當ノ言渡ヲ爲シタルトキハ夫婦タラントスル者民生簿

册管守長官ニ控訴スル事ヲ得可シ

伊、魯 成文ナシ

第六十九條 故障排斥ノ裁判宣告アリタルトキハ故障者ハ尊屬親及ヒ檢事ヲ除クノ外損害賠償ノ責ニ任ス故障排斥ノ裁判宣告ヲ受ケタル者ハ再ヒ故障ヲ爲ス事ヲ得ス

佛第七十九條 故障ノ棄却セラレタルトキハ尊屬親ヲ除クノ外其他ノ故障者ニ損害賠償ヲ言渡スコトヲ得可シ

伊第九十一條 婚姻ノ妨阻ヲ認可ヒサルノ時會ニ當テハ先親若クハ檢事ニ非サル他ノ妨阻者ハ或ハ償金ヲ科徴ヒラル、事有ル可シ

荷第二百二十四條 若シ婚姻ノ故障ヲ申述シタル者ノ敗訴ト成リシトキハ之ヲ申述シタル者ノ尊屬親ヲ除クノ外卑屬親及ヒ檢察官ハ損害ヲ償フ可キ言渡ヲ受ク可シ

民人ノ七一

邊第七十二條 故障ノ費用ハ故障者ノ擔任ナリトス但シ第三十八條第三十九條及ヒ第四十條ノ場合ニ於テ故障ニ正當ノ理由有リタルトキ故障ヲ受ケタル者カ其費用ヲ償フハ格別ナリトス

果第一百十條 何人ニ限ラス婚姻ノ故障ヲ述フルコトヲ得可ク但シ其故障却下セララル、ニ於テハ其故障ヲ述ヘタル者ヨリ訴訟入費ヲ辨ス可キモノトス

英第一百七條 故意ニ出テ人ノ婚姻ニ故障ヲ述ヘタル者ハ罰金及ヒ損害ノ償ノ言渡ヲ受ク可シ

噫、魯 成文ナシ

#### 第四節 婚姻ノ公式

第七十條 婚姻ノ公式ハ雙方ノ中一方ノ住所又ハ居所ノ身分取扱役

所ニ於テ身分取扱人ノ面前ニテ公ケヌニ行フ可シ

佛第六十五條 婚姻ハ夫婦トナラントスル者ノ中一方ノ住所

役

ノ身分取扱所ノ面前ニ於テ公ケニ之ヲ行フ可シ○第七十四條

末段其住所ハ婚姻ニ關シテハ同邑内ニ六月間引續テ住居シタ

ルニ依リ設定スルモノトス

伊第九十三條 婚姻ノ儀式ハ結婚者ノ一人カ其住居若クハ居所

ヲ占定セル本邑ノ邑廳ニ於テ掌籍吏ノ面前ニ在テ公然之ヲ執

行ス

噠第五十八條 婚姻ノ式ハ特別ノ准許有ルニ非サレハ寺院ニ於

テ之ヲ行フ可シ

邊第五十八條 婚姻ハ神前ニ於テ婚儀ヲ行フニ因リ成就ス可シ

但シ其婚儀ハ寺院ニ於テ少ク供證人二人ノ面前ニ於テ我國ノ

僧官公ケニ之ヲ爲サ、ル可カラス

民人ノ七二

果第六六條 婚姻ノ允許ハ夫婦タラントスル一方ノ者ノ住所ア

ル「パロワス」ノ裁判官ニ非サレハ之ヲ爲スヲ得ス

魯第三十一條 私人相互ノ法律上ノ婚姻ハ其婚姻ノ爲メニ治定

シタル日時ニ婚姻スル者自カラ顯出シテ二名或ハ三名ノ證人

ノ前ニ寺院ニ於テ行フ可シ但シ其者ハ全ク魯教ノ規則及ヒ儀

式ニ從フ者トス而シテ情實ニ由リ寺院内ニ婚禮ヲ行フ事能ハ

サル場所ニ於テノミ寺院外ニ婚禮ヲ行フ事ヲ魯教人ニ允ス可

シ但シ其時ニ主教ノ許諾無クシテ婚禮ヲ寺院外ニ行フ事ハ決

シテ允サス

英第八八條 婚禮ハ民生證書ノ卷ニ記スル規則ニ從ヒ寺院ニ於

テ僧官之ヲ行ハシムルカ又ハ民生簿冊ヲ管守スル官吏或ハ其

補官ノ面前ニ於テ之ヲ行フ可シ○如此シテ行ヒタル婚姻ハ之

ヲ法律ニ反シタル者ト爲スノ證據ナキ間ハ尙ホ之ヲ有効ノ者

ト做ス可シ

荷 成文ナシ

第七十一條 公告ノ日限過キタル後雙方ノ定メタル當日ニ身分取扱人ハ證人二名ノ前ニ於テ雙方本人ニ對シ先ツ出生證書ヲ朗讀シ次キニ夫婦財產契約ヲ爲シタルヤ否ヤヲ質問シ若シ之ヲ爲シタルニ於テハ其契約ノ日付及ヒ之ヲ作りタル公證人ノ氏名居所ヲ申述ヒシノ次キニ本章第九十九條第百條及ヒ第百一條ヲ詢問カヒ其後雙方ニ對シ各別ニ夫婦トナルヤヲ問ヒ其承諾ヲ應取ル可シ  
此公式ヲ行ヒタル後即時ニ身分證書ノ章ニ定ムル規則ニ從ヒ婚姻證書ヲ作ル可シ

佛第七十五條 公告期限ノ終リシ後婚姻ヲ爲サントスル双方ノ指定シタル日ニ至リ身分取扱役ハ其邑廳ニ於テ血屬親タルト血屬親タラサルトヲ問ハス證人四名ノ面前ニテ其婚姻ヲ爲サ

民人ノ七三

ントスル双方ノ身分及ヒ婚姻ノ法式ニ關スル前條條ニ記セン證據物ト夫婦相互ノ權利及ヒ本分ニ關スル婚姻ノ卷第六章トヲ其相方ノ者ニ讀ミ聞カス可シ○身分取扱役ハ夫婦トナラシントスル双方ノ者ニ婚姻ノ契約ヲ爲シタルヤ否ヲ問ヒ糺シ又婚姻ヲ許諾セシモノ、出席シタルトキハ其者ニモ亦是ヲ問ヒ糺シ此等ノ者ノ然リト答フルトキハ其契約書ノ日附並ニ其契約書ヲ記シタル公證人ノ姓名及ヒ住所ヲ問ヒ糺ス可シ○身分取扱役ハ夫婦トナラントスル双方ノ互ニ夫婦トナルヘキコトヲ欲スル旨ノ申述ヲ相次テ双方ヨリ受ケ法律ノ名ヲ以テ其双方ノ結婚シタル旨ヲ宣告シテ直ニ婚姻證書ニ作ル可シ

荷第四十四條第百三十五條 第百三十一條佛ニ全シ但シ書類ヲ讀ミ聞カシムルヲ婚姻ヲ行ハシムルニ替ユ○第百三十三條婚姻ヲ爲ス夫婦ハ必ス其當人出頭ス可キ者トス○第百三十四條

國王ハ婚姻ヲ爲ス双方ノ者ニ就テ重要ノ理由アルトキハ公正ノ證書ニ依リ特別ノ代人ヲ以テ婚姻ヲ爲スヲ允ス事ヲ得可シ  
○若シ代人ヲ出ス者其婚姻ヲ行フ前既ニ他ノ人ト適法ノ婚姻ヲ爲セシ者タルニ於テハ代人ヲ以テ行ヒタル婚姻ハ無効ノ者ト看做ス可シ

伊第九十四條 結婚者ノ指定セル期日ニ於テ掌籍吏ハ二名ノ證人ノ面前ニ於テ結婚者ニ對シ本篇第三百十條第三百十一條及ヒ第三百三十二條ノ條文ヲ朗讀シ結婚者ヲシテ各自至相ニ夫ト爲リ妻ト爲ル事ヲ直チニ法律上ニ於テ其二人ハ婚姻ニ因テ結聯スル者ト明言ス○結婚式ノ執行ヲ終ルノ以後ニ直ニ之ヲ婚姻公簿ニ登記ス可シ

噫第五十六條 神前ニ於テ婚姻ノ式ヲ行フ可キ「ブレートル」ハ公正ノ憑據ニ依リ夫婦ノ間ニ更ニ故障ノ原由ノ發出セサル

コトヲ確認ス可シ而シテ豫メ信用スルニ足ル可キ證人及ヒ保證人ノ立會ノ上双方ノ互ニ夫婦ト爲ル可キコトヲ欲スル旨ヲ尋問シ且ツ之レカ爲メ證人二員ノ面前ニ於テ双方ノ申述ヲ爲サシム可シ

邊第六十條前段 神前ニ於テ婚儀ヲ行フタル地ノ法教師ハ直ニ身分證書ノ簿冊ニ其旨ヲ記載シ且婚姻シタル双方ニ婚姻ノ證書ヲ交付セサル可カラス

累第百十一條 何人ニ限ラス名代人ヲ以テ婚姻ヲ爲スコトヲ得ス

參第三十一條 我第七十條參看

英成文ナシ

第七十二條 特例婚姻ニ於テハ其公式ヲ行フトキニ雙方其旨ヲ身分取扱人ニ申述ス可シ其申述ハ婚姻證書ニ之ヲ記載スルコトヲ要ス



皆 成文ナシ

第七十三條 婚姻ノ承諾ハ口頭ニテ之ヲ與フ可シ但シ已ムコトヲ得サルトキハ筆記又ハ形容ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ妨ケス

婚姻ノ承諾ハ單純ナルコトヲ要シ期限及ヒ條件ハ無効トス

佛第四百四十六條、荷第八十五條、英第九十四條、我第三十九條

參看

伊第九十五條 互相ニ夫ト爲ル<sup>リ妻ト爲</sup>ノ公言ハ豫メ期限若クハ規約ヲ

以テスルコトヲ得可カラス○若シ結婚者カ強テ豫メ期限若クハ規約ヲ以テスルコトヲ欲スルニ於テハ剛チ掌櫃吏ハ結婚式ヲ執行ス可カラス

邊第三十條 夫婦ノ承諾ハ婚姻ノ効アル爲メニ必要ノ者トス

累第九十二條 若シ婚姻ヲ結ブ双方ノ者自由ノ承諾ヲ爲サ、ルトキハ決シテ婚姻ヲ適法ノモノト爲サス左ニ列記スル條件ハ

民人ノ七五

自由ノ承諾ニ非ス第一強誘者ニ對シテ承諾スルトキ但シ強誘サレタル人充分ノ自由ヲ得タル後承諾スルトキハ格別ナリトス第二暴行ヲ以テ奪レタルトキ第三婚姻ヲ結ブ双方ノ者ノ中其一方ノ者婚姻ヲ結ブノ意アル人ヲ誤リタル時

魯第十二條 法律ニ於テハ婚姻スル者ノ相互及ヒ適意ノ承諾ナクシテ婚姻ヲ遂クルコト能ハス故ニ其者ノ父母後見人ニハ其望願ニ背テ結婚ヲ強要スル事ヲ禁ス

噫、 成文ナシ

第七十四條 正當ノ原由アリテ雙方若クハ一方身分取扱役所ニ出席スルコト能ハサルトキハ身分取扱人ハ其管内ニ限り書記ト共ニ其家ニ出張シテ證人四名ノ前ニ於テ第七十一條ニ從ヒ婚姻ノ公式ヲ行フ事ヲ得

伊第九十七條 若シ結婚者ノ一人カ疾病若クハ其他ノ事故ニ因

テ親カラ邑廳ニ到ルコトヲ得サルニ於テハ則チ掌籍吏ハ書記員ト共ニ其結婚者ノ家ニ就キ四名ノ證人ノ面前ニ於テ第九十四條ノ制規ニ照准シテ以テ結婚式ヲ執行ス

荷第百三十二條 婚姻ヲ爲サント欲スル双方ノ中一方ノ者正當ノ故障アルニ由リ邑廳ニ至ルコト能ハサル形情アルトキハ同邑内ノ自宅ニ證人六名ノ面前ニテ婚姻ヲ行フ事ヲ得但シ其旨ヲ婚姻ノ證書ニ隱記ス可シ

魯第三十一條 末段 我第七十條參看  
佛、噠、邊、景、英 成文ナシ

第七十五條 雙方ノ住所又ハ居所ニ非サル地ニ於テ婚姻ノ公式ヲ行フノ必要アルトキハ管轄身分取扱人ハ其地ノ身分取扱人ニ其囑託ヲ爲ス事ヲ得

伊第九十六條 若シ第九十六條ニ規定スル本邑ニ非サル他邑ニ

在テ結婚式ヲ執行ス可キコトヲ要スルニ於テハ則チ掌籍吏ハ其結婚式ヲ執行ス可キ地方ノ掌籍吏ニ向テ其請求ヲ爲サ、ル可カラス○此請求ハ必ス婚姻公簿ニ登記ス○結婚式執行ノ明日ニ於テ之ヲ執行セル掌籍吏ハ公正ナル婚姻證書ヲ作りテ他ノ掌籍吏ニ送付ス

邊第六十條末段 若シ其夫ノ我國ノ他邑ニ居住スルトキハ婚儀ヲ行フタル法教師ハ其邑ノ法教師ニ報知ヲ爲サ、ル可カラス  
佛、荷、噠、景、魯、英 成文ナシ

第七十六條 身分取扱人ハ婚姻ノ公式ヲ行フノ妨礙ト爲ルヘキ法律ノ原由アルニ非サレハ其公式ヲ行フコトヲ拒ムコトヲ得ス  
身分取扱人婚姻ノ公式ヲ行フコトヲ拒ムトキハ其理由ヲ明記シタル拒絕書ヲ授付ス可シ  
其拒絕ヲ受ケタル者之ヲ不當ナリト思料スルトキハ地方裁判所ニ

抗告シテ其取消ヲ求ムルコトヲ得裁判所ハ要急事件トシテ之ヲ裁  
判ス可シ

伊第九十八條 掌簿吏ハ唯法律ニ指示セル理由ヲ以テノミ結婚  
式ノ執行ヲ拒却スルコトヲ得可シ○結婚式ノ執行ヲ拒却スル  
時會ニ當テハ其理由書ヲ付與セサル可カラス○若シ結婚者カ  
自己其理由ノ存在スルコトナシト思料スルニ於テハ則チ法衙  
ハ檢事ノ意見ヲ聽取スルノ以後ニ之カ裁判ヲ宣告ス而シテ結  
婚者ハ其宣告ニ對シテ控訴ヲ稱起スルコトヲ得可シ

佛、荷、暹、邊、果、魯、英 成文ナシ

第五節 日本人外國ニ於テ並ニ外國人帝國ニ於テ爲ス婚姻  
第七十七條 外國ニ於テ婚姻ヲ爲サントスル日本人ハ帝國ニテ有  
シ最後ノ住所又ハ居所ニ於テ婚姻ノ公告ヲ爲ス可シ

民人ノ七七

佛第七十條 外國ニ於テ佛蘭西人ト佛蘭西人トノ間及ヒ佛蘭  
西人ト外國人トノ間ニ契約シタル婚姻ハ其國ニ於テ用フル所  
ノ法式ヲ以テ之ヲ行ヒタルトキハ有効ノモノトス但シ之レカ  
爲ノニハ豫メ身分證書ノ卷第六十三條ニ定メタル公告ヲ爲シ  
且其佛蘭西人カ前章ニ記シタル成規ニ違背セサルヲ必要トス  
荷第三百三十八條 全シ

伊第一百條第二項 其婚姻ノ公告ハ第七十條及ヒ第七十一條ノ法  
則ニ照准シテ之ヲ爲サ、ル可カラス若シ國民タル結婚者カ其  
居所ヲ王國內ニ占定セサルニ於テハ則チ其末期ノ住居ヲ占定  
スル邑内ニ於テ其公告ヲ爲ス事ヲ要ス

邊第八十條 若シ外國ニ於テ爲シタル婚姻ノ場合ニ於テ第五十  
一條ニ循ヒ三回ノ公告ヲ爲サ、ルトキハ婚姻確定ノ前一回ノ  
公告ヲ爲ス可シ

噠、果、魯、英 成文ナシ

第七十八條 外國ニ於テ日本人ノミノ間又ハ日本人ト外國人トノ間  
婚姻ヲ爲ストキハ其國ニ慣用スル規則ニ從ヒ其公式ヲ行フコトヲ  
得但シ本章第一節ニ定メタル條件ニ違背セサルコトヲ要ス

佛第七十條荷第百三十八條我第七十七條參看

伊第百條第一項 外國ニ於テ國民ト國民若クハ國民ト外國人カ  
締結スル婚姻ハ有効ノ者トス但其婚姻ハ其國ノ定則ニ准依シ  
テ以テ執行シ而シテ國民ハ本篇第一章第二節ノ各條文ニ違背  
セサル事ヲ要ス

邊第七十九條 邊留奴人ノ外國ニ於テ爲シタル婚姻ハ正當婚姻  
ノ効ヲ生スル爲メ我國ニ於テ婚姻裁判所之ヲ確定セサル可カ  
ラス但シ此確定ハ之ヲ既往ニ及ホス可シ

英第百十二條 外國ニ於テ英國人ト間又ハ英國人ト外國人トノ

民人ノ七八

間ニ取結ヒタル婚姻ハ其國ノ法律ニ從ヒ之ヲ行フトキハ其効  
アリトス又其國ノ法律ニ於テ此婚姻ヲ無効ニ措クモ英國法律  
ニ從ヒ之ヲ行フタル時ハ其効アル可シトス  
噠、果、魯、成文ナシ

第七十九條 日本人ノミノ間婚姻ヲ爲ストキハ其國ニ在ル帝國ノ公  
使館又ハ領事館ニ於テ帝國ノ法律ニ從ヒ婚姻ノ公式ヲ行フコトヲ  
得

皆 成文ナシ

第八十條 外國人帝國ニ於テ婚姻ヲ爲サントスルトキハ其能力ハ本  
國ノ法律ニ從フ但シ第四十一條乃至第四十六條ノ條件ニ違背セサ  
ル事ヲ要ス

外國人ハ其本國ノ相當官署ノ認定書ヲ以テ婚姻ヲ爲スニ妨礙ナキ  
コトヲ證スルニ非サレハ身分取扱人其公式ヲ行フ事ヲ得ス

伊第百三條 王國內ニ於テ結婚セント欲スル外國人ハ其本國管轄應ノ下付スル證書ニシテ本國ノ法律ニ於テ其婚姻ニ何等ノ障礙ヲモ與フルコトヲ證明スル所ノ者ヲ王國ノ民籍局ニ出示セサル可カラス○若シ其外國人カ王國內ニ居所チ占定セルニ於テハ則チ此民法ノ條則ニ照准シテ以テ婚姻公告ヲ爲サ、ル可カラス

佛、荷、邊、魯、英 成文ナシ

第六節 婚姻成立ノ證據

第八十一條 何人ト雖トモ婚姻成立ノ證據ヲ舉クルニ非サレハ婚姻ヨリ生スル民法上ノ効果ヲ求ムル事ヲ得ス  
婚姻成立ノ證據ハ婚姻證書ヲ以テ之ヲ爲ス可シ但シ第四百五十六條ニ規定スルモノハ此限ニ在ラス

民人ノ七九

佛第百九十四條 何人ニ限ラス身分證書ノ簿冊ニ記入シタル婚姻ヲ行ヒタルノ證書ヲ差出サ、ルトキハ夫婦タルノ名義ト婚姻ノ民法上ノ効トヲ得ント求ムル事ヲ得ス但シ身分證書ノ卷第四十六條ニ記シタル場合ハ格別ナリトス

荷第百五十五條 全シ

伊第百十七條 何人ヲ問ハス配偶者タル身位及ヒ法律上ノ婚姻ノ効力ヲ要求スル爲メニハ結婚式執行ノ證書即チ婚姻公簿ノ寫本ヲ出示セサル可カラス然レトモ第三百六十四條ニ掲記セル時會ノ如キハ此限ニ在リトス

魯第三十四條 婚姻證書ノ重要ナル者ハ死生婚姻簿ナリ

英第百三十二條 民生簿冊ニ於ケル婚姻ノ記入ハ其婚姻ノ功效ヲ證スル爲メ重要トセス○第百三十三條 凡ソ婚姻ハ證人或ハ婚禮ニ出會ヒシ者ノ證言又ハ衆評ニ因リ之ヲ證ス可シ但シ

夫其婦ノ姦通ヲ犯シタルニ付其同犯ニ對シ損害ノ證ヲ訟求スル時ニ於テハ同室又ハ衆評ノ外他ノ徵證アルヲ必要ナリトス  
噓、累、邊 成文ナシ

第八十二條 夫婦ノ間ニ於ケルト夫婦ト第三者トノ間ニ於ケルト中間ハス婚姻ノ効果ヲ求ムル爲メニ身分ノ占有ノミヲ以テ婚姻ノ成立ヲ證スル事ヲ得ス

然トモ身分ノ占有アリテ婚姻證書ニ符合スルトキハ其證書ニ違式アリト雖供占有ヲ以テ證書ノ無効ヲ補フ

佛第九十五條 身分ノ占有ハ各自其身分ヲ申立テ夫婦ナリト稱言スル者ヲシテ身分取扱役ノ面前ニ於テ婚姻ヲ行ヒタルノ證書ヲ差出スコトヲ免カレシムルヲ得ス○第九十六條 身分ノ占有アリテ其身分取扱役ノ面前ニ於テ婚姻ヲ行ヒタルノ證書ヲ差出シタル時ハ夫婦ハ各自其證書ノ無効ヲ訟訟スル事

民人ノ八〇

ヲ許サス

伊第一百十八條 夫妻ノ如ク同居セル狀況ノミヲ以テシテハ假令双方ノ人カ夫妻タル事ヲ稱言スルモ婚姻證書ヲ出示ス可キ責務ヲ認免スルニ足ラス○第一百十九條 夫妻ノ如ク同居セル狀況カ其婚姻證書ニ適合スルニ於テハ則チ他ノ婚姻上ノ違式ヲ補正スルニ足ル可シ

荷第一百五十六條 婚姻ノ簿冊無ク又ハ紛失セシ場合ニ於テモ若シ現ニ夫婦タルノ景狀アル時ハ裁判官ノ裁判ヲ以テ其婚姻ノ證據ニ充分ナリトス

噓第六十一條末項 婚姻ヲ爲スニ付テノ法式及ヒ要件ヲ履行セサリシカ爲メニハ其婚姻ヲ無効ノ者ト爲ス事無シ

魯第三十五條 斯ノ如キ證據ヲ固フスルニ方テ死生婚姻簿ニ疑團アリ及ヒ其死生婚姻簿ニ記載アルサル場合ニ於テハ

婚姻ノ事迹ヲ左ノ者ニテ證スルヲ得可シ即チ第一婚姻證書傳  
ナリ第二懺悔證書ナリ第三民事證書ナリ但シ配偶者ハ官署ヨ  
リ配偶ト認知セラレ且ツ無論法律上ノ婚姻ニ干涉スル民事ノ  
權利及ヒ特權ヲ得タル者ト其民事證書ニ於テ見ル時ニハ然リ  
トス第四詮索ナリ

英第三百三十四條 婚姻證書ハ只之ニ列記スル所ノ如ク其婚姻ヲ  
行フタル月日及ヒ場所等ヲ證スルニ止マリテ夫婦タルノ證憑  
ヲ定ムル者ニ非ス故ニ民生證書ニ記載セル申供ノ眞實ナラサ  
ルニ於テハ諸種ノ證據ヲ以テ之ヲ排撃スル事ヲ得可シ

邊、累 成文ナシ

第八十三條 父母共ニ死去シ又ハ其意ヲ表スルコト能ハサルニ因リ  
其子父母ノ婚姻證書ヲ呈示スルコトヲ得スト雖供出生證書ニ反セ  
サル正出子ノ身 分ヲ占有スルトキハ父母常ニ公然夫婦ノ如ク生活

シタルコトヲ以テ其婚姻ヲ證スルコトヲ得

佛第九十七條 若シ然レトモ第九十四條及ヒ第九十五條  
ノ場合ニ於テ公ケニ夫婦ナリトシテ生活シタル二人ノ間ニ舉  
ケタル子ノ生存シテ其二人ノ共ニ死去セシトキ身分ノ占有ニ  
依リ其子ノ適法ノモノタルノ證アリテ其出產證書ニ其身分ノ  
占有ニ反シタル證ヲ記セサルニ於テハ其婚姻ヲ行ヒタルノ證  
書ヲ差出サ、ルノ事ノミヲ以テ口實トナシ其子ノ適法ノモノ  
タル事ヲ爭フヲ得ス

荷第五百五十七條 同シ

伊第二百十條 第九十九條及ヒ第一百十八條ノ條則ニ關セス若シ  
公然ニ夫妻ノ如ク同居セシ人ニシテ共ニ既ニ死亡シタル所ノ  
者ノ遺子カ其出生證書ニ背反セサル實際ノ情況ニ因テ正出ノ  
子タル事ヲ徵證シ得ルニ於テハ則チ唯其婚姻證書ヲ欠クノ理

由ノミチ以テ其正出ニ非サルコトヲ訟撃スルヲ得ス

英第三百三十五條 正當ニ婚姻ヲ行ハサルノ證據ナキニ於テハ夫婦ノ如ク公ケニ生活ヲ共ニスル者ヲ以テ其婚姻ヲ行フタル者ト看做ス可シ然レ供此婚姻ノ成立ニ付キ不動産ニ關スル所有權ノ要求ヲ爲ス時ハ陪審司ヲ満足セシムル爲メ此婚姻ノ法律ニ適シタル事ノ確證アルヲ必要トス又動産ニ關シテハ夫婦タルノ現狀アルヲ以テ此婚姻ヲ證スルニ足レリトス  
噫、邊、果、魯、成文ナシ

第八十四條 婚姻證書ヲ増減毀棄匿奪シ若クハ片紙ニ記載シタル場合ニ於テ刑事又ハ民事ノ訴訟ニ依リ婚姻ノ成立ヲ認メタル判決ハ之ヲ身分證書ノ簿冊ニ記載シテ婚姻證書ニ代用スルコトヲ得  
佛第九十八條 若シ刑事訴訟ノ成果ニ依リ法ニ適シテ婚姻ヲ行ヒタルノ證ヲ獲得シタルトキハ其裁判書ヲ身分證書ノ簿冊

ニ記入スルコトヲ以テ其夫婦並ニ其婚姻ニ依リ生レシ子ニ關シ其婚姻ヲ行ヒシ日ヨリ起算シテ總テ民法上ノ効ヲ其婚姻ニ確保スルモノトス

伊第二百二十二條 若結婚式執行ノ證據カ刑事ノ訴訟ヨリ起生セルニ於テハ則チ民籍公簿ニ其刑事ノ宣告ヲ登記セルヲ以テ其結婚式ノ當日ニ追溯シ結婚者及ヒ其子ニ對シテ民法上ニ於ケル婚姻ノ効力ヲ生セシムル者トス

英第三百三十一條末段 又婚姻ヲ行フニ不實ノ申述ヲ爲ス者若クハ詐偽ノ證書ヲ作り之ニ手署スル者ハ偽誓ノ罪アル可ク及ヒ其所有ノ財産并ニ其婚姻ニ因リ得タル相續ノ權理ヲ王家ニ沒收ス可シトス教法又ハ婚姻公告及ヒ其免除ニ關スル規則ニ背キ婚姻ヲ行ハシメタル教部卿ハ三箇年間職務停止ノ罰ヲ受ク可シ



荷、嘘、邊、果、魯、成文ナシ

第七節 婚姻ノ不成立及ヒ無効ノ請求

第八十五條 人違ニ由リ若クハ心神喪失ノ時爲シタル婚姻ハ不成立トス

又身分取扱人ノ立會ナクシテ爲シタル婚姻ハ不成立トス

婚姻ノ不成立ハ何大ニ限ラス何時ニテモ訴權又ハ抗辯方法ニ依リ之ヲ申立ル事ヲ得

佛第八十條末項 若シ人ニ於ケル錯誤アルトキハ夫婦中ニテ

其錯誤ニ引入レラレタル者ニ非サレハ其婚姻ノ取消ヲ訴フル事ヲ得ス○第九十一條凡ソ公ケニ契約セス及ヒ該管役員ノ面請ニ於テ行ハレサル婚姻ハ夫婦自身又ハ父母尊屬及ヒ其婚姻取消ニ付キ一箇ノ發生シタル現在ノ利益ヲ有スル各人並

ニ檢察官ヨリ其取消ヲ訴フル事ヲ得可シ

伊第五條 結婚者ノ一人ニシテ其承諾力自由ノ心情ニ出テサリシ者ハ其婚姻ヲ訟撃スルコトヲ得可シ○身分上ニ關シテ錯誤アリシ時會ニ在テハ結婚者ノ一人ニシテ其錯誤ヲ被リタル者ハ婚姻無効ノ訟權ヲ行用スル事ヲ得可シ○第六十一條初項 失心ニ因テ治産ノ禁ヲ受ケタル人ハ結婚スルコトヲ得ス

荷第四百二十二條初項 佛第八十條ニ全シ、第四百十三條初項 治産ノ禁ヲ受ケタル者ノ契約シタル婚姻ハ其治産ノ禁ヲ受ケタル者其父母四等迄ノ傍系ノ親管財人又ハ檢察官ヨリ其取消ヲ請求スル事ヲ得可シ

英第一百十八條 何人タルヲ問ハス婚姻ニ關係アル者即チ瘋癲者ノ管財人ノ如キモ亦其瘋癲者ノ取結ヒタル婚姻ヲ取消サン爲メ初告裁判所又ハ控訴裁判所ニ訴訟ヲ爲ス事ヲ得可シ○第百

二十九條婚姻ハ夫婦タラントスル者其管轄者ノ面前又ハ相當ノ場所ニ於テ之ヲ行ハサルトキハ其効無カル可クシテ刑法ニ定メタル刑ノ言渡ヲ受ク可シ○第三百三十一條上段新法ニ由レハ民生簿冊管守長官ニ稟告ヲ爲サスシテ行フ所ノ婚姻ハ其効ナカル可シトス

噫、邊、累、魯、魯 成文ナシ

第甲條

第八十六條 第四十條第四十三條第四十四條第四十五條第四十六條ニ違ヒ婚姻ヲ爲シタルキハ雙方尊屬親親族會若クハ現實ナル利益ヲ有スル者ヨリ何時ニテモ其無効ヲ請求スル事ヲ得  
同上ノ場合ニ於テ檢事ハ夫婦ノ存生中ニ限り職權ヲ以テ婚姻ノ無効ヲ請求スル事ヲ得

第八十四條 凡ソ第四百四十四條第四百四十七條第四百六十一條第四百六十二條第四百六十三條ニ記シタル成規ニ違背シテ契約シ

タル婚姻ハ夫婦自身若クハ其婚姻取消ニ付キ利益ヲ有スル各人若クハ檢察官ヨリ其取消ヲ訴フルコトヲ得可シ

累第四百十五條、荷第四百四十四條上段第四百四十五條全シ

伊第四百四條 第五十五條第五十六條第五十八條第五十九條第六

十條及ヒ第六十二條ニ違犯シテ締結セル婚姻ハ配偶者其最近先親檢事及ヒ其他都テ其婚姻ニ關シ正當現實ノ利益ヲ有スル者ノ訟撃ヲ受ケサル事ヲ得ス○本管轄ニ非サル他ノ掌籍吏カ禮式ヲ執行セル婚姻若クハ合式ノ證人ナクシテ執行セル婚姻ハ前項ノ各人ノ訟撃ヲ受ケサル事ヲ得ス○婚姻禮式ヲ執行セル以後ノ一年ヲ經過スレハ則チ掌籍吏ノ管轄誤錯ニ關スル無効ノ訟求ハ之ヲ受理セス

第六十三條 婚姻取消ノ原由ハ同時ニ二人ト婚姻ヲ爲ス乎又ハ血屬親若クハ禁止サレタル級ノ親戚ニ係ル場合ノ如キ婚姻

ヲ行フチ得サル景狀ニ基ク者トス○第六十四條其他法律ノ規  
則ニ背反シテ結婚シタルトキハ其配偶者ハ告訴セラレテ刑ノ  
曾渡ヲ受ク可シ但シ其婚姻ハ爲ノニ之ヲ離解スルコト無カル  
可シ

邊第七十四條 婚姻裁判所ハ既ニ決定スル婚姻ニ無効タル理由  
アル事ヲ知ルトキハ亦職權ヲ以テ前條ノ如キ手續ヲ爲サ、ル  
可カラス而シテ調査ノ後婚姻ニ効アリヤ否ヤヲ宣告ス可シ  
○第七十六條若シ婚姻ノトキ無効ノ理由ノ夫婦ニ知レサルト  
キハ無効ノ宣告ハ夫婦及ヒ婚姻ヨリ生レタル子ニ對シ離婚ノ  
効ヲ生シ而シテ夫婦ハ再ヒ婚姻スル事ヲ得ス○第七十七條若  
シ夫婦ノ一方無効ノ理由アル事ヲ知ラサルトキハ無効ノ宣告  
ハ唯其一方及ヒ婚姻ヨリ生シタルトキニ對シ離婚ノ効ヲ生ス  
可シ

民人ノ八五

魯第三十八條 所轄宗教裁判所ニ婚姻ヲ背法及ヒ無効ト認知セ  
ラレタル者ヲハ速ニ僧官廳ト地方民事廳トノ照會ニ依テ同室  
ヨリ離別セシメ而シテ後裁判所ニ於テ背法ノ結婚ヲ爲シタル  
罪人ト認知セラレタル者ヲハ寺院ノ懺悔ニ處ス而シテ法律ニ  
掲載シタル若干ノ場合ニ於テハ定罰ニ處ス可シ

英第二百二十六條 英國民法第九十二條第九十六條第百〇四條第  
百〇五條及ヒ第百六條ニ記スル期則ニ背キ取結ヒタル婚姻ノ  
契約ハ固ヨリ其効無カル可シ而シテ何人タルヲ問ハス其婚姻  
ニ關係アル者ハ皆之ヲ取消サント訴フルチ得可シ

第八十七條 雙方若クハ一方ノ適齡ナラサル婚姻ノ無効ハ適齡ナル  
一方及ヒ不適齡ノ事由ヲ知り許諾シタル尊屬親若クハ親族會ヨリ  
之ヲ請求スル事ヲ得ス

又不適齡ニ付婚姻ノ無効ヲ請求スルノ權利ハ左ノ場合ニ於テ消滅

ス

一 適齡ナラサリシ者適齡ニ至リ明瞭ニ婚姻ヲ確認シ若クハ三ヶ月ヲ過キタル時

二 婦獨リ適齡ナラスシテ無効ノ請求アリト雖トモ其懐胎シタルトキ

三 夫適齡ナラスシテ婦ノ懐胎シタルトキ但シ婦ノ姦通ヲ證スル時ハ此限ニ在ラス

佛第百八十五條 然レトモ必要ノ年齢ニ未タ達セサリシ夫婦双方又ハ其一方ノ契約シタル婚姻ハ左ノ場合ニ於テハ最早之ヲ取消サント断フルコトヲ得ス第一夫婦中其一方又ハ双方又ハ双方ノ其適當ノ年齢ニ達セシトキヨリ六月ヲ経過セシノタル時第二其年齢ニ達セサル婦ノ六月ヲ経過セサル前ニ懐胎シタル時○第百八十六條前條ノ場合ニ於テ契約セシ婚姻ヲ許諾シ

凡人ノ八六

タル父母尊屬親及ヒ親屬ハ其取消ヲ請求スルコトヲ許サス  
荷第百四十四條 末段同シ

伊第百九條末項 丁年ニ達スル以后ニ其訟權ヲ行用セスシテ六月ヲ経過スル配偶者ハ此訟權ヲ行用スル事ヲ得ス○第百十條合法ノ年齢ニ達セサル人カ締結セシ婚姻ト雖トモ次項ノ時會ニ於テハ之ヲ訟擊ス可カラス第一項合法ノ年齢ニ達スル以後ノ六月ヲ経過セサルノ時第二項合法ノ年齢ニ達セサル婦女カ懷孕セサルノ時會○第百十一條結婚セントスル双方<sup>若</sup>ハ其一方カ未タ合規ノ年齢ニ達セサル以前ニ締結セル婚姻ハ其先親親屬協會若クハ後見協會之ヲ許可シタルニ於テハ則チ此等ノ人ハ之ヲ訟擊スル事ヲ得ス

第百十四條 父母ノ承諾ナキ時ト雖トモ法律上ニ規定セル法式ニ從ヒ未定年者婚姻ノ契約ヲ結ヒシトキハ無効ト爲ス可カ

ラス但シ父母ノ承諾ナキコトヲ其父母ノ至當ト思考スルトキ  
ハ之ヲ以テ其婚姻ヲ結ヒシ子ニ財産ヲ相続ヒシノサル正當ノ  
原因ト爲ス事ヲ得可シ

英第二百二十五條 婚姻ヲ結ヒ可キ年齢ニ達セスシテ已ニ懐胎ス  
ル婦ハ夫ト等ク其子ヲ我適法子ニ非ト爲スノ權アリ斯ノ子ハ  
即チ婚姻外ノ子ナリトス○然レトモ婚姻ヲ結ヒ得可キ年齢ニ  
至ラスシテ懐胎セル者此年齢ニ達ヒシ後タルモ引續キ同室ヒ  
シ時ハ其子ヲ我適法子ニ非スト爲スヲ得ス又此婚姻ヲ取消ス  
事ヲ得ス

噫、果、魯、成文ナシ

第八十八條 重婚ニ原由スル無効ノ請求アリタル場合ニ於テ雙方前  
婚ノ無効若クハ離婚ヲ主張スルトキハ豫メ其實否ヲ裁判ス可シ  
前婚ノ配偶者失踪シタルトキハ其失踪中ハ無効訴權ヲ行フコトヲ

得ス

佛第八十八條 夫婦中一方ノ者ノ再婚ヲ契約シタルカ爲メニ  
損害ヲ被リシ他ノ一方ノ者ハ自己ト結婚シタル配偶者ノ生存  
中ト雖トモ其再婚ノ無効ヲ請求スルコトヲ得可シ○第八十八  
九條若シ再婚ノ夫婦カ前婚ノ無効ヲ述ヘテ對抗スルトキハ先  
ツ其前婚ノ有効ナルヤ又ハ無効ナルヤヲ裁判ヒサル可カラス  
第三百三十九條失踪者ノ配偶者再婚ヲ契約シタルトキハ其失踪  
者ノミ自カラ其再婚ノ取消ヲ訴ヘ又ハ自己ノ生存ノ證據ヲ具  
有シタル代理人ヲシテ其取消ヲ訴ヘシムルコトヲ得可シ

英第二百二十八條佛第八十八條第八十九條ニ全シ第九十條七  
ケ年來音信ヲ得サル失踪者ノ配偶者ハ再婚ノ契約ヲ取結ヒ而  
シテ此失踪者顯ハレ出ツルトキハ其再婚ノ効ナキモ一ヒカミ  
一ノ罰ヲ受ケサル可シ ○七ケ年來音信ヲ爲サ、ル失踪者ノ

婦ハ之ト婚姻ヲ行ハサリシ者ト等ク裁判所ニ於テ抗辯ヲ爲ス  
事ヲ得可シ

伊第一百十三條 配偶者ノ一方ハ何等ノ時會ニ於テスルモ他ノ一  
方ノ婚姻ヲ訟撃スルコトヲ得可シ若シ前次ノ婚姻ノ無効ニ依  
據シテ之ニ抗對スルニ於テハ則チ先ツ其對抗ニ向テ其裁判ヲ  
宣告スルコトヲ要ス○配偶者失踪者ガ締結セル婚姻ハ其失踪ノ期間  
ニ在テハ之ヲ訟撃スル事ヲ得可カラス

荷第四百四十一條 第八十四條ニ背キテ契約シタル婚姻ハ先ニ其  
夫又ハ婦ト婚姻ノ契約ヲ爲シタル夫婦尊屬親婚姻ニ關係アル  
各人及ヒ檢察官ヨリ其取消ノ訴ヲ爲ス事ヲ得可シ

噫第六十三條初段我第八十六條參看

果第一百十八條、佛第一百八十八條ニ同シ○第八十一條十年間失踪  
ノ後毫モ消息ナキトキハ其失踪者ノ婦又ハ夫裁判所ヨリ允許

民八ノ八八

ヲ得タル後再婚ヲ爲スノ權アリ又裁判所ニ於テハ法律上定メ  
タル期限ニ充分ナル日間失踪者ヨリ消息ナキコトヲ檢證セシ  
後再婚ノ允許ヲ爲ス可シ○失踪セシ夫又ハ婦其配偶者ノ再婚  
ヒシ後歸着スルモ前婚ハ既ニ解キタルモノタレハ再婚ヲ爲ス  
コトヲ得可ク而シテ失踪ヲ原由ト爲シ一方ノ配偶者ノ結ヒタ  
ル婚姻ノ契約ハ確然タル適法ノモノトス  
邊、魯 成文ナシ

第八十九條 管轄ニ非サル身分取扱人ノ前ニ於テ行ヒタル婚姻ハ第  
八十六條ニ指定シタル者ヨリ其無効ヲ請求スルコトヲ得  
無効訴權ハ婚姻ヲ行ヒタル後一个年ヲ過キタルトキハ之ヲ受理ス  
可ラス

佛第九十一條凡ソ公ニ契約セス及ヒ該管役員ノ面前ニ於テ行  
ハサル婚姻ハ夫婦自身又ハ父母尊屬親及ヒ其婚姻取消ニ付一

箇ノ發生シタル現在ノ利益ヲ有スル各人並ニ檢察官ヨリ其取消ヲ訴フル事ヲ得可シ

伊第四百條第二項 本管轄ニ非サル他ノ掌籍吏カ禮式ヲ執行セル婚姻若クハ合式ノ證人ナクシテ執行セル婚姻ハ前項ノ各人ノ訟撃ヲ受ケサル事ヲ得ス○第三項婚姻禮式ヲ執行セル以後ノ一年ヲ經過スレハ則チ掌籍吏ノ管轄錯誤ニ關スル無効ノ訟求ハ之ヲ受理セス

英第二百二十九條我八十五條參看

荷、噠、邊、累、魯 成文ナシ

第九十條 第四十七條乃至第五十一條ニ定ムル許諾ナクシテ婚姻ヲ爲シタルトキハ婚姻ノ當時許諾ヲ與フヘキ者又ハ之ヲ受ク可キ者ヨリ其無効ヲ請求スル事ヲ得  
又許諾アリタルトキト雖トモ其許諾ノ暴行若クハ身上ノ錯誤ニ原

由シタル時亦同シ

佛第八十二條 父母尊屬親又ハ親屬會議ノ許諾ノ必要ナル場合ニ於テ其許諾ヲ得スシテ契約シタル婚姻ハ其許諾ヲ爲ス可キ者又ハ夫婦中ニテ其許諾ヲ要スル者ニ非サレハ其取消ヲ訴フル事ヲ得ス

伊第八條前項 先親々屬協會若クハ後見協會ノ許可ヲ得スシテ締結セル婚姻ハ其許可ヲ與フ可キ人及ヒ結婚者ノ一方ニシテ其許可ヲ要セシ所ノ者ノ訟撃ヲ受ケサル事ヲ得ス○第七條配偶者ノ一人カ常存セル身体ノ不能力ヲ有シ而シテ其不能力カ結婚以前ニ係ルニ於テハ則チ他ノ一人ハ不能力ヲ以テ婚姻無効ヲ訟求スルノ理由ト爲ス事ヲ得可シ

荷第四百四十六條前段佛第八十二條 全シ

英第二百二十條 夫婦中一方ノ者婚姻前ヨリノ無勢力ナル時又其

自カラ無勢力タル事ヲ知ラサルモ他一方ノ者ハ之ヲ原由トナシ其婚姻ヲ取消サント訴フルヲ得可シ然レトモ婚姻以後ニ生發ヒシ無勢力ニ就テハ然ラス此場合ニ於ケル婚姻取消ノ訴訟ハ無勢力ノ顯跡ナキニ於テハ三箇年間夫婦同室ヲ試ミサル以前ニ之ヲ受理ス可カラス  
噫、邊、累、魯 成文ナシ

第九十一條前條ノ場合ニ於テ父若クハ祖父婚姻ヲ確認セスシテ死去シ又ハ其意ヲ表スル事能ハサルトキハ母若クハ祖母無効訴權ヲ行フ事ヲ得  
婚姻ノ當時許諾ヲ與フ可キ者婚姻ヲ確認セスシテ死去シ又ハ其意ヲ表スル事能ハサル時ハ法律ニ定ムル順序ニ從ヒ其許諾ヲ與フ可キ者無効訴權ヲ行フ事ヲ得  
皆 成文ナシ

民人ノ九〇

第九十二條 第九十條ノ無効訴權ハ左ノ場合ニ於テ消滅ス

- 一 配偶者ト婚姻ノ許諾ヲ與フ可キ者トニ對シテハ其許諾ヲ與フ可キ者明瞭又ハ暗黙ノ確認ヲ爲シ若クハ婚姻ノ事ヲ知リタル後三個月ヲ過キタル時
- 二 許諾ヲ與フ可キ者ノミニ對シテハ三個月内ナリト雖トモ配偶者成年ニ至リ若クハ死去シタル時
- 三 配偶者ノミニ對シテハ成年ニ至リ明瞭又ハ暗黙ノ確認ヲ爲シ若クハ三個月ヲ過キタル時

此外配偶者無効ノ請求ヲ起シ其訴訟中ニ許諾ヲ與フ可キ者明瞭ノ確認ヲ爲ストキハ無効訴權ハ消滅ス

佛第一百八十三條 婚姻ノ許諾ヲ爲ス可キ者ノ其婚姻ヲ明瞭又ハ默認ヲ以テ認可シタル時又ハ其者ノ婚姻ヲ知リタル後自己ノ方ヨリ訴ヲ爲スコトナク一年ヲ經過ヒシノタルトキハ夫婦又



ハ婚姻ノ許諾ヲ爲ス可キ血屬親ヨリ最早無効ニ於ケル訴ヲ起  
ス事ヲ得ス○夫婦中一方ノ者ノ自カラ其婚姻ヲ承諾スルタメ  
ニ適當ナル齡ニ達セシ後自己ノ方ヨリ訴ヲ爲ス事ナク一年ヲ  
経過セシメタルトキハ亦其一方ノ者ヨリ最早無効ニ於ケル訴  
ヲ起ス事ヲ得ス

伊第九條 前條ノ時會ニ在テ若シ結婚者及ヒ其許可ヲ與フ可  
キ人カ明示若クハ暗示ヲ以テ其婚姻ヲ認可シ或ハ其婚姻ヲ應  
知スル以後ノ六月内ニ之カ訟權ヲ爲サトルニ於テハ則チ其訟  
權ヲ行用スルコトヲ得ス丁年ニ達スル以後ニ其訟權ヲ行用セ  
スシテ六月ヲ経過スル配偶者ハ此訟權ヲ行用スルコトヲ得ス  
荷第四百十六條末段 佛ニ同シ但シ訟求ヲ爲ス事ヲ得可キ期限  
ヲ六ヶ月トシ又外國人ト契約シタル婚姻取消ノ訴ハ其婚姻ノ  
證書ヲ未ダ簿冊ニ登記セサル間ハ其血屬親之ヲ爲スコトヲ得

可シレチ加フ

英第二百一十一條 夫婦中一方ノ承諾ナキ婚姻契約ト雖トモ後日  
ニ至リ其一方ノ明許又ハ默許アルニ於テハ婚姻ヲ結フ事ヲ得  
可シ此場合ニ於テハ通常取消ト爲ス可キ婚姻モ其効アル可シ  
トス此故ニ暴行又ハ誑詐ニ因リ取結ヒタル婚姻ハ其暴行ノ止  
ミタル後又ハ誑詐ノ罷レタル後尙ホ夫婦同寢ヲ爲シタル時ハ  
此婚姻ヲ取消サント訴フルヲ得ス

噫、邊、累、魯 成文ナシ

第九十三條 暴行ニ因リ婚姻ヲ承諾シタルトキハ其暴行ヲ受ケタル  
者ニ非サレハ無効ヲ請求スル事ヲ得ス

暴行ノ査定ハ第八百三十五條以下ノ規則ニ從フ

佛第一百八十條前段 夫婦双方又ハ一方ノ自由ノ承諾ナクシテ契  
約シタル婚姻ハ其双方又ハ承諾ノ自由ナラサリシ一方ニ非サ

レハ其取消ヲ訴フル事ヲ得ス

伊第二百五條 初項我第八十五條參看

魯第三十七條 左ノ婚姻ハ法律上ノ者及ヒ有効ノ者ト認知セラ

レス第一婚姻シタル者ノ一方或ハ双方ノ暴行或ハ狂願ニ由テ

逐ケタル婚姻ナリ

荷、噠、邊、果、英 成文ナシ

第九十四條 詐偽ノ爲ノ身上ノ錯誤ニ陥リ婚姻ヲ承諾シタルトキハ

其錯誤ニ陥リタル者ニ非サレハ無効ヲ請求スル事ヲ得ス

佛第八十條第二項 我第八十五條參看

荷第四百十二條、果第一百十二條佛ニ全シ

伊第二百五條末項 我第八十五條參看

噠、邊、果、魯、英 成文ナシ

第九十五條 前二條ノ場合ニ於テ配偶者其暴行ヲ免脱シ若クハ其錯

誤ヲ認知シタル時ヨリ明瞭ノ確證ヲ爲シ若クハ一个月間引續キテ

同居シタルトキハ婚姻ノ無効ヲ請求スルコトヲ得ス其同居ヒサル

場合ニ於テモ無効訴權ハ一年ヲ以テ消滅ス

佛第八十一條 前條ノ場合ニ於テ夫婦ノ其完全ノ自由ヲ得又

ハ其錯誤ヲ認知シタルトキヨリ六月間繼續シテ同居シタル時

ハ最早婚姻ノ無効ニ於ケル訟求ヲ受理ス可カラス

果第一百十三條 同シ

伊第六六條 若シ配偶者カ其自由ヲ得若クハ其錯誤ヲ知リタル

以後一月間尙ホ同居セルニ於テハ則チ前條ニ掲載セル無効ノ

訟求ハ受理セラレサル者トス

荷第四百十二條 佛第八十一條ニ全シ但シ六月ノ期限ヲ三ケ

月トス○第四百十三條後項治産ノ禁ノ止ミシ後ニ於テハ其治

産ノ禁ヲ受ケシ者ニ非サレハ其取消ヲ訟求スル事ヲ得ス○但

シ治産ノ禁止ミシ日ヨリ六ヶ月間夫婦同室シタルノ後ハ其取  
消ヲ訟求スル事ヲ得ス

英第二百一十一條後項 是故ニ暴行又ハ誘詐ニ因リ取結ヒタル婚  
姻ハ其暴行ノ止ミタル後又ハ誘詐ノ際ハレタル後尙ホ夫婦同  
室ヲ爲シタル時ハ此婚姻ヲ取消サント斷フルヲ得ス  
噓、邊、果、魯、魯 成文ナシ

第九十六條 婚姻無効ノ訴訟中裁判所ハ夫婦一方ノ請求ニ依リ若ク  
ハ職權ヲ以テ夫又ハ婦ニ住家ヲ去ル可キ事ヲ命スルヲ得

伊第一百五條 婚姻ノ無効ヲ配偶者ノ一人ヨリ訟求セル時會ニ  
當テハ法衙ハ其一方ノ訟求ニ應シ其争訟ノ結落スルニ至ル  
迄假リニ夫妻別居ヲ命スル事ヲ得可シ若シ配偶者ノ双方或ハ  
一方カ未了年者タルニ於テハ則チ法衙ハ訟求ヲ待タスシテ夫  
妻別居ヲ宣告スル事ヲ得可シ

佛、荷、噓、邊、果、魯、魯 成文ナシ

第九十七條 無効ノ裁判宣告アリタル婚姻ハ法律ニ特定スルモノヲ  
除クノ外雙方若クハ一方ニ對シテハ其善意ナリシトキニ非サレハ  
法律上ノ効果ヲ生ヒス

善意ハ法律上又ハ事實上ノ錯誤ニ原由スルヲ問ハス婚姻ヲ爲シタ  
ル當時ニ存スルヲ以テ足レリトス

佛第二百一條 無効ナリト冒渡サレタル婚姻ト雖トモ善意ヲ以  
テ之ヲ契約シタルトキハ夫婦並ニ其子ニ關シテ民法上ノ効ヲ  
生スルモノトス

荷第一百五十條累第百十九條同シ

伊第一百十六條初項 無効ノ公言ヲ受ケタル婚姻ト雖トモ善意ヲ  
以テ締結ヒシ者ハ配偶者及ヒ其子ニ關シテ民法上ノ効力ヲ生  
スル者トス假令其子ハ結婚以前ニ產生スル者ト雖トモ其無効

ノ公言ヲ受クル以前ニ在テ其子タルコトヲ認識セルニ於テハ  
則チ亦然リトス

英第三百三十六條 法律ニ於テ無効ト爲ス可キ婚姻ニ生レタル子  
ハ之ヲ婚姻外ノ子ト爲ス可シ而シテ婦ハ嫁粧トシテ持來リシ  
諸般ノ財産ヲ回收ス可シ但シ其夫詐欺ノ情ナクシテ已ニ費用  
セシ此財産ハ格別ナリ

噫、邊、魯 戲文ナシ

第九十八條 然レトモ無効ノ婚姻ハ其子ニ對シテハ其出生ノ婚姻前  
後ナルヲ間ハス雙方ノ善意ナラサルトキト雖供常ニ民法上ノ効果  
ヲ生ス  
夫婦共ニ善意ナラサルトキハ裁判所ハ子ノ監護ニ任スヘキ者ヲ定  
ム可シ

佛第二百二條 若シ夫婦中一方ノ者ノミニ善意ニ存在スル時ハ

其婚姻ハ其一方ノ者及ヒ其婚姻ニ依リ生レシ子ノミ利益ニ於  
テ民法上ノ効ヲ生スルモノトス

累第二百二十條、荷第五百十一條同シ 夫婦中一方ノ者他ノ一方  
ノ者ヲ欺キタルトキハ損失ノ償ヲ爲ス可キ裁判官渡ヲ受ク可  
キ者トスト追加ス

伊第一百十六條末項 若シ唯配偶者ノ一人ノミノ良意ヲ以テシタ  
リシニ於テハ則チ其婚姻モ亦唯良意ヲ以テセシ配偶者及ヒ其  
子ニ向テノミ民法上ノ効力ヲ生スル者トス

英第三百三十七條 前婚ノ尙ホ存在スルノ間取結ヒタル婚姻ノ契  
約ハ其効ナサル可シ而シテ婦ハ假令ヒ善意ニ出テ此契約ヲ取  
結ヒタルモ寡婦ト同ク其婚姻ヨリ生スル正當ノ權理ヲ求ムル  
事ヲ得ス

噫、邊、魯 成文ナシ